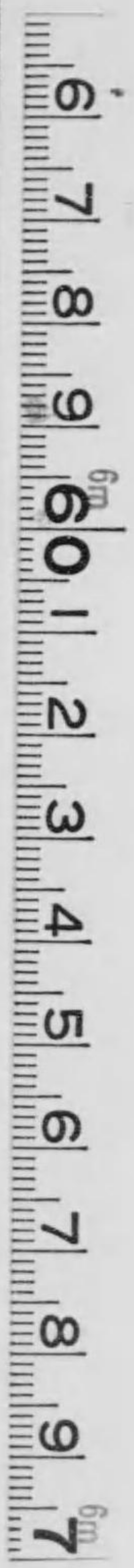


91
201



始



91
2014

山林局長
山林技師林學博士
山林事務官法學士
永柳村上
田澤田山
義重滿
漸一治進
校閱序
著閱序

改正森林法釋義全

東京有斐閣書房

增訂改版 9/20/1

山林局長 上田滿之進 序
山林技師林學博士 柳村澤田義重 校閱
山林事務官法學士 永田 著

改正 森林法釋義

全

大正 8.12.8

東京 有斐閣書房



緒言

- 一 本書ハ著者曩ニ農商務省勤務當時公務ノ餘暇ヲ以テ改正法起案ノ材料ヲ參照シ立法ノ主旨ヲ闡明ニセン爲著述シタルモノナリ
- 二 本書ノ目的ハ實務家ノ手引タラシムルニアルヲ以テ議論ヲ避ケ極メテ平易ニ記述シタルモノナリ
- 三 本書著述後十有餘星霜ヲ經過シ其ノ間條文ノ改正處理手續ノ變更等アリタルヲ以テ再版ニ際シ之カ増補訂正ヲ爲シタルモノナリ
- 四 本書補正ニ際シ山形縣林業技師屋代蕃氏ノ多大ナル援助ヲ與ヘラレタルヲ深ク感謝ス

大正八年十月

著者識ス

改正森林法ハ舊森林法ノ不備缺陷ヲ補修改訂シテ著シク其ノ
内容ヲ變易セリ惟フニ其ノ解釋上往々疑義ニ涉ルモノアラン
而モ改正法公布以來既ニ二星霜ヲ經タルニ未タ之カ釋義註解
ノ世ニ公ニセラレタルモノナキハ余ノ遺憾トスル所ナリ幸ニ
シテ多年山林局ニ在勤シ林務ニ經驗ヲ有スル永田山林屬公務
ノ餘暇之カ大綱ヲ平易簡明ニ說述センコトヲ企テ今ヤ其ノ稿
成ル就テ之ヲ觀ルニ努メテ理論ヲ避ケ通俗ヲ旨トシ以テ法規
ノ趣旨ヲ明カニスルヲ得タルカ如シ蓋シ改正森林法ノ綱領ヲ
窺フノ一助タルニ足ラン一言以テ本書ヲ江湖ニ紹介ス

明治四十二年五月

上山滿之進

改正 森林法釋義目次

第一章	森林法ノ沿革	一
第二章	總則	五
第三章	營林ノ監督	二〇
第四章	保安林	三一
第五章	土地ノ使用及收用	七九
第六章	森林組合	一一二
第七章	森林警察	一二七
第八章	罰則	一四一
第九章	附則	一七二
附屬令規		一七九
森林法施行期日ノ件		一七九

地方森林會規則	一七九
森林組合令	一八三
北海道保安林ニ關スル特例ノ件	一九三
森林法第三十七條ノ二ニ依リ地方長官 委任ノ件	一九四
保安林編入解除其ノ他委任事項ニ關ス ル件	一九四
沖繩縣ニ森林法施行ノ件	一九五
沖繩縣ニ森林法施行ニ關スル通牒ノ件	一九五
森林法施行規則	一九五
御料地又ハ國有地ノ上ニ存在スル部分 林ニ對シ森林法適用方ノ件	二一五
森林法施行手續	二一六

森林法ニ基ク臺帳規程	二四四
保安林特別補償規則	二五〇

改正 森林法釋義 目次 終

改正 森林法釋義

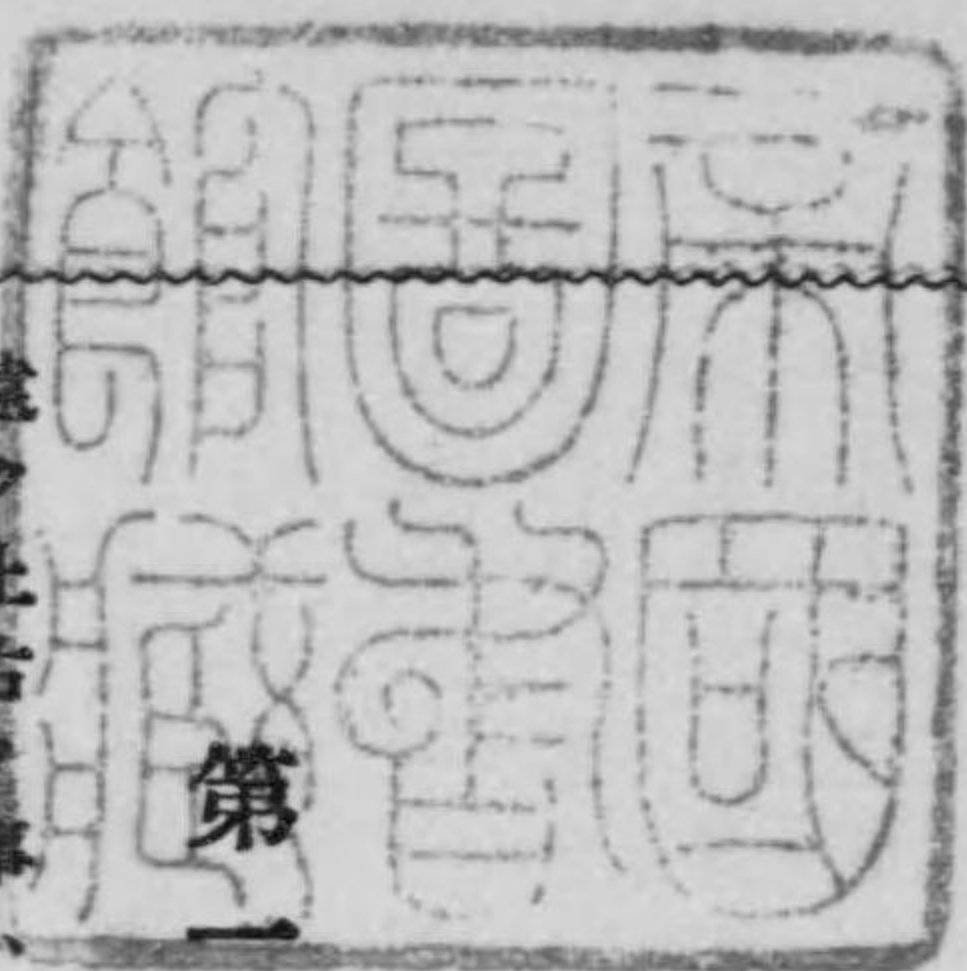
林學博士 村田重治

法學士 柳澤義一

校閱

永田 漸 著述

第一章 森林法ノ沿革



遠ク上古ノ事ハ敢テ之ヲ語ラス、中古文武帝、慶雲三年庶政ノ改善ヲ計リ、山野ノ所有上ニ關シテハ、獨リ祖墓及百姓宅邊ノ小森林ヲ私有スルニ止メシメタリ、是レ即チ私有林ノ濫觴ト見ルヘキモノナリ、降テ徳川氏ニ至リ著名ナル寺社ニ若干ノ高ヲ限リ、一般土地ト區別シ、朱印地ト號シテ土地ヲ所有セシメタリ、森林亦其ノ内ニ包容ス、假リニ當時ノ森林ヲ所有別トスルトキハ官林、社寺林、町村林及民林ノ四種

森林法ノ沿革

ニ分ツコトヲ得ヘク、又保安林トシテハ、水源涵養、土砂扞止、積雪止及風潮除並魚附等ノ爲メ、各其ノ目的ニヨリ名稱ヲ附セリ、而シテ各藩獨立自治ノ有様ニシテ、從テ林政上其ノ揆ヲ一ニセサル爲、森林ヲ貴重視シタルノ度合亦著シク異ナルモ、就中秋田、弘前、名古屋及土州藩ノ如キハ、管理經營ノ方法宜シキヲ得タルモノノ如シ、現ニ良材ノ豊富ナルヲ以テモ推知セラルヘシ

斯ル各藩ハ、如何ニシテ森林經營上ノ要義トセシヤ、其ノ一斑ヲ窺ハンニ、利用上ヨリ云ヘハ、森林主副產物ノ採取ニ向ヒ、其ノ所有ノ官民タルヲ問ハス、等シク伐採方ニ制限ヲ付シ、而モ特種ノ用途ニ充ツヘキ林木ハ、絶對的伐採ヲ禁シタルカ如キ、將タ官林ニ對シ、人民ノ義務トシテハ盜伐、火災其ノ他ノ被害保護ヲ負擔セシムルノ外、產物採取料ヲ納付セシメタルカ如キ、又時トシテ林業上夫役ヲ課シ、之ニ對シ下草類、自家用薪炭並建築材ノ採取、非常救濟ノ目的タル低價拂下若ハ無代下付ノ特典ヲ與ヘタルカ如キ、又森林ノ犯罪、盜伐、放火等ニシテ、其ノ情狀重キ者ハ死刑ニ處シ、輕キモ、入牢、追放ヲ命シ、又科料ニハ、贓額ノ多寡ニ應シテ、増減シタルカ如キハ、一般ノ刑罰ヨリ頗ル峻嚴ナルカ如キ類是ナリ

降テ明治初年政變ノ爲、一時林政ノ弛廢セルモノ多カリシモ、漸ク政府ニ於テ森林

カ、國土保安ニ至大ノ關係アルヲ覺知シ、明治六年九月二十日大藏省達第百三十四號ヲ以テ、山林ハ雷ニ建築ノ用材ニ供スルノミナラス、風雨、寒暑ヲ調和シ、水旱、澇溢ヲ節スル功不少、故ニ向來官林ノ内、水源ヲ涵養シ、土砂ヲ扞止シ、又ハ有名材木アル箇所ト、漸次拂下故障ナキ箇所トヲ、調査ニ著手セシメタリ、此ノ時ヨリ官林中ニ、禁伐ノ制ヲ設クルノ必要ヲ認メラレタルモノトス、後明治九年三月五日内務省決議官林調査假條例ニ依リ、三等官林ヲ除クノ外、水源涵養、土砂扞止等ノ如キ、全ク國土保安上存養スル必要アルモノハ、禁伐林ノ名ヲ附スルコトトセリ、故ニ官地民木ト雖モ、伐採ヲ禁止セラルルモノアルニ至レリ、然レトモ未タ純然タル民林ニ及ハザリシカ、明治十五年二月一日太政官布達第三號ヲ以テ、民林中ニモ國土保安ニ關係アル箇所ハ、伐木ヲ停止スルコトアルヘシト達セラレ、續テ同年二月十三日農商務省達第三號ヲ以テ、國土保安ニ關係アル箇所ニ於テ、伐木セント欲スルモノアルトキハ、其ノ都度實地ノ景狀ヲ検査シ、處分方伺出ツヘシト達セラレシ以來、民林中ニモ漸次禁伐林ノ設定ヲ見ルニ至レリ

如此森林制度ノ等閑ニ付スヘカラサルヲ覺知シ、政府ハ森林ニ關スル一般ノ規定ヲ設クルノ必要ヲ認メ、之カ制定ニ著手セシモ、數度蹉跎シ、漸ク明治三十一年四月

六日森林法ノ發布ヲ見ルニ至レリ、是ヲ舊森林法トス

然ルニ舊森林法ハ、保安林、森林警察及森林犯罪ニ關スル規定ヲ以テ、其ノ大部ヲ構成シ、之ニ加味スルニ營林監督ノ數條項ヲ以テセルニ過キス、而シテ其ノ保安林ニ關スル規定モ、專ラ國土保安ノ必要ニ基ツクモノニ係リ、又警察及犯罪ニ關スル規定ハ、公安保持ノ目的ニ出ツルモノタルヲ以テ、間接ノ效果ハ免ニ角ク、其ノ直接ノ主旨トスル所ハ、悉ク是レ森林ノ經營ニ資スルモノニ非ス、唯營林監督ニ關スル規定ニ至リテハ、其ノ主旨トスル所、公有林又ハ社寺有林ノ經濟ノ保續ヲ計リ、私有林、荒廢ノ防止ヲ期スルニ在ルカ故ニ、直接森林ノ經營ニ資スルモノト謂フヲ得ヘシト雖モ、是レ主トシテ事後ノ監督ニ過キサルノミナラス、其ノ規定亦簡粗ニ失シ、以テ十分ノ效果ヲ奏シ難シ、故ニ改正森林法ハ、公其團體若ハ社寺ノ所有森林ニ對シテハ、施業案又ハ施業要領ヲ造リ、地方長官ノ認可ヲ受ケシメ、以テ豫メ施業方法ヲ定メシムルカ如ク、事前ノ監督方法ヲモ規定シ、以テ監督ノ完全ヲ期セリ、其ノ他保安林又ハ開墾ニ關スル條項ヲ改定シ、實理ニ適合セシメタリ、而シテ林產物運搬等ノ爲、他人ノ土地又ハ水面ヲ使用スルノ必要及林業ノ經營上森林組合ヲ設クル場合ヲ生スルハ屢ナリトス、然ルニ舊法ハ之カ規定ヲ缺如セリ、故ニ本法ハ此等ニ關

スル規定ヲ新ニ加ヘタリ、其ノ他舊法實施以來過去十年ノ間、感知シタル不便、不利ノ點ヲ修正シ、以テ森林制度ノ完備ヲ期セリ矣

第二章 總 則

本章ハ本法全般ニ通スヘキ事項ヲ規定シタルモノトス、則チ森林ノ種別ニ依リ、法ノ適用ヲ異ニスル場合アルヲ以テ、第一條ニ於テ其ノ種別ヲ規定シ之ヲ明ラカニセリ、而シテ此等ノ森林ト關係ヲ有スル者、悉ク本法ノ支配ヲ受クヘキモノニアラス、故ニ第二條、第四條、第五條ニ於テ支配ヲ受クヘキ主體ノ規定アリ、又此ノ主體ニシテ住所若ハ居所判明ナラサル場合ナキヲ保セス、斯ル者ニ對シ、本法又ハ本法ニ基キテ、發スル命令ノ規定ニ依リ、書類ヲ送付スルニハ如何ニスヘキカヲ定メサルヘカラス、故ニ第八條ニ於テ書類送付手續ノ規定アリ、又開墾ハ森林ノ本性ヲ滅却スルモノナレハ、極メテ重大ナル關係ヲ有ス、故ニ第三條ニ於テ本法ノ所謂開墾ハ、地租條例ヨリ範圍ノ廣キコトヲ規定セリ、又森林ノ分割ハ施業上極メテ不利益ナリトス、故ニ第六條ニ於テ共有權ニ關シ民法ノ例外ヲ規定セリ、又森林ノ定義ナキヲ以テ、樹木齶蒼タル彼ノ公園、社寺境內ノ如キモ、本法ノ支配ヲ受クヘキモノナリ

ヤ否疑キ能ハス、故ニ第七條ニ於テ、本法ノ及フヘキ範圍ヲ規定シタル所以ナリ

第一條 森林ハ其ノ所有者ニ依リ之ヲ分テテ御料林、國有林、公有林、社寺有林及私有林トス

前項ノ種別ニ依リ難キ森林ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ヲ適用ス

本條ノ第一項ハ、森林ノ種別ヲ示シタルモノニシテ、舊法第一條ヨリ部分林ヲ削除シタルト同一ナル條文ナリ、故ニ本條ノ意義ハ、別ニ舊法ト異ナラサルモノトス、尤モ本法改正ニ際シ、政府ハ森林ノ定義ヲ規定セント欲シ、提出案第一條ニ於テ、本法ニ於テ森林ト稱スルハ、林叢地及現ニ造林ノ用ニ供スル土地ヲ謂フトノ條文ヲ置キタルモ、貴族院ニ於テ之ヲ删除シ、遂ニ本法モ舊法ト同シク依然森林ノ定義ハ、條文ヲ以テ規定セサルニ至レリ

而シテ此ノ森林ヲ區別シテ、御料林、國有林、公有林、社寺有林、私有林ノ五種類トセルハ、森林所有ノ區別ニ依リタルモノナリ、即チ各種別ニ就キ説明スレハ左ノ如シ
御料林 帝室御所有ノ森林ニシテ、明治七年十一月第百二十號布告地種名稱區別ニ據ルトキハ、官有地第一種皇宮地ノ附屬地トシテ取扱居レリ、是レ適當ナル區別ナリト言ヘ難キモ、已ムヲ得サルノ處置ナラム、何トナレハ地種名稱區別發布

ノ際ハ、未タ御料林ナルモノアラザリシヲ、明治二十二年八月静岡、山梨、神奈川、愛知、岐阜ノ五縣下及木曾ノ官林ヲ帝室財産ニ編入セラレシヨリ起リ、其ノ後北海道、宮崎、長野、岩手、三重、栃木、青森、新潟、東京ノ諸府縣ニ漸次其面積ヲ増加シ其ノ面積五十九萬二百八十町歩ヲ算スルニ至レリ(大正六年八月調)
地種名稱區別發布ノ當時ハ是等ノ地種目ヲ豫想シアラサルヲ以テ、現在ノ法令上、斯ク取扱ハサルヲ得サルモノナレハナリ、故ニ地種名稱區別改正ノ際ハ、御料林ノ如キ、收益ヲ目的トスル帝室ノ御所有地ハ、皇宮地ト種別ヲ異ニスルヲ適當ナルモノトス

國有林 國ノ所有ニ屬スルモノニシテ大小林區署ノ管理經營セル農商務省主管ノ森林、文部省主管ニ屬スル學校ノ演習林、其ノ他各省用地ノ森林ヲ總稱スルモノニテ林區署官制第一條ノ二ニアル國有林ヨリハ其ノ意味廣汎ナリ、然ルニ尙國ノ所有ニ屬スル社寺境内地、公園中ニハ森林ヲ形成スルモノアルモ此等ハ本法第七條ノ規定ニ依リ適用ノ範圍ヨリ除外セラレタルヲ以テ茲ニ所謂國有林ニハ包含セス、此種ニ屬スル面積ハ農商務省主管四百三十萬四千七百一十町歩其ノ他各省主管八千三百九十五町歩存ス(大正六年八月調)

公有林 公法人ノ所有ニ屬スル森林ヲ云フ、而シテ公法人トハ、府縣郡市町村其ノ他公共團體ニシテ、法律ニ依リ、公法人ト認メラレタルモノナリト言ハサルヘカラス、然ルニ市町村ノ一部ハ、法律ニ據ルニアラサレトモ、農商務省ノ決議ニテハ、公共團體又ハ公法人ト見做シ其所有ニ屬スル森林ハ公有林トシテ取扱ハレツツアリ、此種ニ屬スル面積推定大正六年八月調ニ依レハ五百七十六萬三千五百七十三町步ニシテ近來基本財産ノ爲、若ハ模範林、紀念林等、各地方共經營セラルル處ナリ就中今日ノ趨勢ヲ以テスレハ、基本財産林、模範林ハ益々増加ノ傾向ニアリ

社寺有林 神社、寺院ノ收益ヲ目的トシテ、所有スル處ノ森林即チ社寺ノ私有財産ニシテ、社寺境内ト區別セサルヲ得ス、境内地ハ、官有地第一種、又ハ第四種及民有地第二種ニ屬シ、租稅公課ヲ賦課セサルモ、社寺有林ニ對シテハ、租稅公課ヲ賦課スルモノトス

此ノ種ニ屬スル推定森林面積大正六年八月調ニ依レハ二十八萬五千三百六十六町步ヲ占ム

私有林 個人、若ハ私法人(但シ市町村ノ一部ハ財團法人トセシテ公法人ト看做

シタルモノトス)ノ所有ニ屬スル森林ヲ云フ、所謂地種名稱區別上民有地第一種ニ屬スルモノナリ

此種ニ屬スル推定森林面積大正六年八月調ニ依レハ千三百五十五萬千七百一十町步ヲ算ス

以上ノ種別ハ單ニ森林ノ所有者ニ依リテ區別シタルモノニシテ、森林其ノモノノ性質ニ依リ、分類シタルモノニアラサルナリ、然ラハ如斯種別ハ、如何ナル利益アリト云フニ、本法其ノ他ノ命令ヲ適用スル點ニ於テ種別ヲ要スルモノナリ、例之保安林ノ編入解除ヲ爲ス場合ニ於テ、御料林、國有林ハ地方森林會ニ付議ヲ要セサルカ如ク、或ハ木竹ノ伐採ヲ禁止セラレタル保安林ノ所有者、又ハ立木竹ノ所有者ハ之ニ因リテ生シタル直接ノ損害ニ限リ、其ノ補償ヲ求ムルコトヲ得ヘキ權利ヲ與ヘタルモ、御料林、國有林ニハ之ヲ適用セサルカ如キ是ナリ

第二項ハ、以上五箇ノ種別ニ依リ難ク、森林トシテ特別ノ取締ヲ要スルモノアル場合ハ、命令ヲ以テ其ノ方法ヲ規定スルトノ例外規定ナリ、例之部分林ノ如シ、是レ國有林ノ一部分ナレハ、國有林トシテ取扱フヘキハ當然ナレトモ、造林者ニ於テ、分收權アルモノナレハ、全然普通國有林ト同一ニ取扱ヒ難シ、乃チ第二十八條ニ依リ、木

竹ノ伐採ヲ禁セラレタル場合ノ如キハ、分收權ニ對シテハ直接ノ損害ニ限り、其ノ補償ヲ求ムルコトヲ得セシムルカ如キ、特別ノ處理方法ヲ規定シタル如キ是レナリトス、其ノ他將來權利關係益複雜ニ成リ、町村ト一個人、若ハ府縣ト一個人ト共有スル森林ノ生シタル場合ノ如キハ如何ナル種別ニ爲スカヲ定ムルカ如キハ、命令ニ委任シタルモノトス

附 部分林

部分林ナル觀念ハ、舊藩時代ヨリ存シ、賣分山、取分山、部一山、五分指山等種種ナル名稱存シ、藩ニ依リ同シカラス、而シテ部分林ナル名稱ノ起リハ、明治十一年三月内務省布達部分林仕付條例ニ初マリ、舊森林法ニ於テハ森林ノ一種トシテ之ヲ規定シ、政府ニ於テ造林命令ヲ下シ、若シ森林所有者、其ノ命ニ從ハサルトキハ、政府自ラ造林ヲ施行シ、其ノ費用ヲ徵收スルカ又ハ造林地ヲ部分林ト爲スコトヲ規定セリ、然ルニ改正法ニ於テハ、之ヲ省キ、第二項ノ命令ニ讓レリ、故ニ現在林種トシテハ、部分林ナルモノナキモ、實際ニハ多ク聞ク處ニシテ、國有林野法ニハ、明カニ之ヲ規定シテ曰ク

第十九條 國ハ造林者ト其ノ收益ヲ分收スルノ契約ヲ以テ國有林野ニ部

分林ヲ設ケルコトヲ得

法令、慣行又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ國有林ニ就キ收益ノ分收ヲ爲スモノ

ハ前項ノ部分林ト看做ス

第二十條 部分林ノ樹木ハ國ト造林者トノ共有トシ、其ノ持分ハ收益分收

ノ部合ニ均シキモノトス

右ニ依レハ、部分林ハ、國ノ土地ノ上ニ存スルヲ要シ、林木ハ國ト造林者トノ共有ナル性質ヲ有スルモノナリ、而シテ其ノ成因ハ、現林野法ニ依リ、新ニ契約シタルモノ、部分林仕付條例ニ依リ成立シタルモノ若ハ舊藩時代ヨリ慣行ノ分收權ヲ認メラレタルモノ、其ノ他ノ理由ニ依ル分收權ヲ認メラレタルモノニシテ、此以外ニ成立スヘキ場合ナシ

然ルニ明治四十年農商務省令第二十二號、御料地又ハ國有地ノ上ニ存在スル部分林ニ對シ、森林法適用方ノ件、同年十二月林發第二七一號通牒中ニ、森林法第十一條、第三十四條、第七條ニ依リ、森林所有者ニ代リテ爲スヘキ行爲ハ、成ルヘク公共團體ヲシテ、義務者ト協議ノ上、之ヲ執行セシメ、其費用ハ徵收セス、地上權設定若ハ部分林契約等適宜ノ方法ヲ執行セシメラレタキコト等アリ、此等ヲ見ルニ國有林以外ノ所有林ニモ、部分林ナル名稱ヲ用ヒ、亦一般ニ他人ノ土地ニ於テ、造林者カ分收

ノ權利アルモノ、即チ土地所有者ト造林者トノ間ニ分收ノ關係アル森林ハ部分林ト稱シツツアルモ、此レ法ニ據ラサル俗稱ト解スルノ外ナシ

一一

第二條

森林ノ立木竹ヲ所有スル爲地上權賃借權其ノ他土地ニ關シ使用又ハ收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ權利者ヲ以テ本法ニ依ル森林所有者ト看做ス

前項ノ權利二箇以上同一ノ土地ノ上ニ存在スル場合ニ於テハ最後ニ設定セラレタル權利ヲ有スル者ヲ以テ前項ノ森林所有者トス

本條ハ立木竹ノ所有者、土地ノ所有者ト異ナルトキハ、立木竹ノ所有者ヲ以テ森林所有者ト看做スヘキ規定ナリトス、即チ土地所有者ニアラサルモ、森林ノ立木竹ヲ所有スル爲地上權或ハ賃借權其ノ他土地ニ關シ使用權又ハ收益權ヲ有スル者アルトキハ、其ノ權利者ヲ以テ森林所有者ト看做シ、本法ハ之ヲ支配スルモノトセ

故ニ地上權ヲ設定シタルカ、賃借契約ヲ締結シタルカ、其ノ他形式上使用又ハ收益權ヲ有スル者ニ付テハ、森林所有者ト看做スヘキコトハ、何等疑ナシト雖モ、彼ノ伐採ヲ目的トシテ賣買シタル場合ニ於ケル立木竹ニ關シテハ、多少疑ヲ挿ム者ナキニアラサルヘシ、然レトモ伐採ヲ目的トセル立木竹ノ賣買契約ハ、伐採以前ニ於

テハ、立木竹ノ所有權ヲ變更スルモノニアラスシテ、單ニ買受人ハ、其ノ引渡ヲ請求スルノ債權ヲ取得スルニ過キサレハ、伐採スルマテハ、立木竹ノ所有者ハ、依然土地ノ所有者若ハ地上權者、借地權者等ナリトス、是レ他ニ異論アル處ノ見解ナリト雖モ、立木ノ性質上、斯ノ如ク論斷セサルヲ得ス、蓋シ立木ハ土地ノ定著物ナルコト言フヲ俟タス、而シテ土地ノ定著物ハ、建物ヲ除ク外、土地ト相離レテ單獨ニ物權ノ目的タルコトヲ得サルヲ原則トス、民法ニハ、此ノ原則ヲ明記セル條文ナシト雖モ、第二百四十二條ニ於テ不動産ニ從トシテ附合シタル物ハ其ノ不動産ト同一ノ所有者ニ屬スルモノトシ、又不動産登記法ニ建物以外ノ定著物ヲ登記スル方法ノ定ナキ等ヨリ、之ヲ推斷スルコトヲ得ヘシ、故ニ他人ノ土地ニ地上權又ハ賃借權ヲ有スル如キ場合ノ外ハ、其ノ土地ニ在ル立木ノ所有權ヲ取得スルコトヲ得ス、但シ斯ノ如クナルトキハ、當事者ノ意思ニ反シ、實際ニ不便尠ナカラストノ說ナキニアラスト雖モ、是レ毫モ解釋上ノ根據ト爲スニ足ラサル說ニシテ、物權法ノ規則ハ多ク公益上ノ理由ニ基ク強行的ノモノナルコトヲ忘ルヘカラス、但シ其ノ結果ハ明治四十二年四月二日法律第二十二號ノ發布ヲ見ルニ至リタルモノニシテ、該法ニ依リ登記ヲ受ケタル立木ハ、不動産ト看做サレ、土地ト分離シテ讓渡シ又ハ抵當權ノ目

總則

一三

的タルコトヲ得、土地所有權、地上權處分ノ效力ハ立木ニ及ハサルコトヲ規定セラレタルモノナルヲ以テ該法ニ依ルモノハ別問題ナリトス

第二項ハ最後ノ權利實行者ヲ以テ、森林所有者ト看做スコトヲ規定セルモノナリ、假令ハ或土地ニ設定セラレタル地上權ヲ、更ニ之ヲ賃貸シタル場合ノ如キハ、即チ最後ノ賃借人ヲ以テ、其ノ森林所有者ト看做スカ如キ是ナリトス、尤モ地上權ノ設定若ハ賃貸借契約ノ如キハ、登記ヲ爲スニアラサレハ、第三者ニ對抗シ能ハサルヲ以テ、權義者間ニ於テ、此等ノ法律行爲アリタルトスルモ、公示方法タル登記ヲ爲スニアラサレハ、第三者ハ之ヲ認ムルノ義務ナシ、故ニ此等權利ノ有無ハ、地上權タリト、賃借權タリト、將タ其ノ他ノ使用、收益權タルトヲ問ハス、最後ノ登記權者ヲ以テ、森林所有者ト看做スヘキモノナリ但シ二箇以上ノ登記權利存在スルトキハ、現在ニ於テ使用收益シ得ルモノヲ、森林所有者ト見ルハ、當然ニシテ、若シ同一地ニ同一性質ノ權利アルトキハ、是レ何等カ錯誤ニ出ツルニアラサレハ存在シ得サルモノナルヲ以テ、前ノ權利者ヲ森林所有者ト認ムルコトヲ至當トス

第三條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ地租條例ニ規定スルモノノ外燒畑、切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更スル行爲ヲ謂フ

本條ハ本法ニ於ケル開墾ノ意義ヲ定メタルモノトス、即チ此ノ法律ニ於テ開墾ト稱スルハ、地租條例ノ所謂開墾ノ外ニ、燒畑、切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更スル行爲一切ヲ指スモノトス、故ニ本法ニ於ケル開墾ノ意義ハ、頗ル廣キモノナリ、今之ヲ分析説明スレハ左ノ如シ

(a) 地租條例ニ依ル開墾

地租條例ノ所謂開墾トハ、池沼、山林、牧場、雜種地(第二類地)ニ勞費ヲ加ヘテ、田畑郡村宅地、鹽田、礦泉地(第一類地)ト爲スヲ云フ、故ニ地租條例ニ依リ森林ヲ開墾スト云ヘハ、森林ニ勞費ヲ加ヘテ、田畑、宅地、鹽田、礦泉地ニ變換スルヲ云フ

(b) 燒畑

燒畑トハ、森林ヲ燒キ拂ヒ、跡地ニ畑作ヲ行ヒ、三四年ニシテ地力收穫ニ堪ヘサルニ至リ、之ヲ拋棄シテ、又森林ト爲スヲ云フ

(c) 切替畑

切替畑トハ、森林ヲ伐拂ヒ、其ノ跡地ニ畑作ヲ行ヒ、三四年ニシテ地力カ衰フルニ至リ、之ヲ拋棄スルコト、燒畑ニ異ナラサルモノトス

(d) 其ノ他、土地ノ形質ヲ變更スル行爲

本項ニ入ルヘキモノハ、荷モ森林状態ヲ變更スル總テノ行為ヲ包含スルモノトス、故ニ地租條例第二類中ノ變更モ、開墾ナリト云フヘシ、例ヘハ森林ヲ、池沼、牧場等ニ變更スルモ開墾ナリ、又極端ニ論スレハ、林道ノ作ルカ如キ、若ハ木材ヲ運搬スル爲一時森林ヲ切開キ地均ラシスルカ如キモ、開墾ナリト言ハサルヘカラス本法ノ開墾ハ以上ノ如クニ分類シ得ヘシ、而シテ茲ニ注意スヘキハ開墾ニ似テ非ナルモノアリ、即チ造林ノ地拵ノ爲ニスル焼畑是ナリ、森林ノ伐跡地ニ、樹苗植付ノ準備トシテ、一二箇年間作付ヲ爲スモ、鋤鉞等ヲ使用シ、土地ノ形質ヲ變スルモノニアラサレハ、開墾ニアラス、亦造林ノ爲、植穴ヲ掘ルハ開墾ノ如キモ直ニ復回ヲ爲ス行為ナルヲ以テ開墾ト看做サス、故ニ此等ハ第三十二條ノ制限ヲ受ケサルモノトス

第四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル森林所有者、森林

立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ權利義務ハ森林若ハ森林

立木竹又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

本條ハ權利義務ノ移轉方ニ關スルコトヲ規定シタルモノトス、即チ權利義務モ、當然承繼者ニ移轉スヘキモノアリト雖モ、多クノ場合ハ特別ノ意思表示、若ハ格段ノ

規定アルニアラサレハ移轉セサルモノナリ、是レ本條ノ規定ヲ要スル所以ナリトス、若シ本條ノ規定ナキニ於テハ、本法第四章ノ土地使用權ノ如キハ、森林所有者ノ承繼人ニ移轉セサルヘシ、從テ被使用者ニ對シ、補償金拂渡シノ義務ヲ免ルル如キ場合等アルヘシ、斯クテハ甚タ不都合ノ結果ヲ來スニ至ラン、本條ハ即チ此等ノ不都合ナカラシメンコトヲ期シタルモノトス

第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其

ノ他ノ行為ハ森林所有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

本條ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行為ノ效力ニ關スルコトヲ規定シタルモノトス
即チ特定ノ人ニ對シ爲シタル行政上ノ手續、其ノ他ノ行政行為ハ之カ目的物件ノ權利第三者ニ移轉シタルトキハ、當然其ノ效力權利承繼人ニ及ハサル場合アリ、斯ル場合ニハ、權利ノ移轉スル毎ニ、同一ノ手續、若ハ其ノ他ノ行政行為ヲ爲ササルヘカラス、是レ繁ニ堪ヘサルノミナラス、處分ノ效果ヲ奏スルノ期ヲ失スル虞アル場合ナキヲ保シ難シ、故ニ特ニ本條ヲ設ケ、以テ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ

規定ニ依リ、爲シタル手續、其ノ他ノ行政行爲ノ效力ハ、總テ目的タル土地及森林所有者ノ承繼人ニマテ及ホスコトヲ定メタルモノトス

第六條 民法第二百五十六條ノ規定ハ共有ノ森林ニ之ヲ適用セス但シ各共有者持分ノ價格ニ從ヒ其ノ過半數ヲ以テ分割ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

本條ハ民法ノ共有物分割ニ關スル例外ヲ規定シタルモノトス、即チ共有者ハ、何時ニテモ共有物ノ分割ヲ請求スルコトヲ得ルハ、民法ノ原則ナリ、然ルニ森林經營ノ如キハ、永遠ヲ期スヘキモノニシテ、何時ニテモ分割シ得ルモノトセハ、事業施行上甚タ不利益ナルヲ以テ、民法共有物ニ關スル規定ヲ適用セサルコトトシタルモノトス

第七條 公園、社寺境内及命令ヲ以テ定ムル土地ニ付テハ本法ヲ適用セス但シ命令ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

公園及社寺境内ノ如キハ、實況森林ト異ナラサルモノアリ、就中近來境内編入處分ノ結果隨所大面積ノ境内ヲ設ケラレタル爲、此等土地ニモ往往森林法ノ適用ヲ受クヘキモノニアラサルナキヤノ疑問ヲ抱ク者ナキヲ保シ難シ、故ニ斯ル疑惑ヲ生

セシメサル爲、本條ヲ置キタルモノトス

然レトモ但書ニ規定セル如ク、此等公園、社寺境内等ト雖モ、必要アリテ命令ヲ以テ別段ニ規定シタルトキハ本法ヲ適用スヘキ場合アリ、例ヘハ大和ノ塔ノ峰又ハ奈良ノ春日山ノ如キハ、境内若ハ公園ナレトモ、事實ハ鬱蒼タル森林狀況ヲ爲セリ、故ニ斯ル公園若ハ境内ニ害蟲發生シ、隣接森林ニ蔓延ノ虞アルカ如キトキハ、命令ノ定ムル所ニヨリ、公園若ハ境内ニモ、森林法ヲ適用スヘキ精神ナリトス、然レトモ此ノ種ノ命令ハ發セラレタルモノ一モアラサルノミナラス、明治四十年十二月林發第二七一號ヲ以テ山林局長ヨリ各府縣知事ヘ依命通牒セラレタル處ニ依レハ、當局者ハ當分命令ヲ發セラレサル見込ナルカ如シ

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ書類ヲ送付スヘキ場合ニ於テ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ官報又ハ行政廳慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ公示シ其ノ公示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ送付アリタルモノト看做ス

本條ハ送達ノ手續ヲ規定シタルモノニシテ、舊法ニハ此ノ規定ヲ缺如セルヲ、本法之ヲ補ヘタルモノトス、而シテ本條ハ讀テ文字ノ如クナレハ別ニ説明ヲ要セス、例ヘハ森林法ニヨリ森林所有者ニ對シ、造林命令ヲ送付シタル場合ニ、其ノ受命者居

所不明等ノ爲、遂ニ書類ノ送達ヲ爲シ能ハサルコトアリ、斯ノ如キ場合ニ公示送達ノ方法ヲ執ルヘキモノトス

第三章 營林ノ監督

本章ハ一般森林ニ於ケル營林作業ニ對シ、政府カ干涉スヘキ場合ヲ規定シタルモノトス、凡ソ政府カ各種産業ニ關シ、指導誘掖等之カ監督ヲ爲スハ、助長行政上規定ヲ待タス當然ナリト雖モ、營林監督ノ如キハ、事業ノ性質上干涉ノ結果、時トシテハ多大ニ所有者ノ權利ヲ制限スル場合アリ、是レ特ニ本章ヲ設クルノ必要アル所以ナリ

而シテ本章ニ規定スル所ノ營林ノ監督ハ、公有林、社寺有林及私有林ニ限り、國有林、御料林ヲ除キタルハ、此等ノ森林ハ、荒廢スルモ干涉セストノ意ニアラスシテ、國有林ハ最高監督者ノ管理ニ屬シ、相當ノ機關ヲ備ヘ、直接ニ經營スルモノナレハ、他ヨリ監督スルノ要ナシ、御料林モ國有林同様相當ノ管理機關ニ依リ經營スルモノナレハ、他ノ干涉ヲ待タス、完全ニ經營シ得ヘケレハ、豫メ之カ監督方法ヲ定ムルヲ要セサルモノトス

然リ而シテ營林監督ニ關スル規定中改正シタルハ、主トシテ公有林、社寺有林ニ關スルモノトス、即チ公有林、社寺有林ノ經營ニ對スル舊法ハ、専ラ事後ノ監督ニ屬スルニ止マリ、十分ニ其ノ效果ヲ奏シ難シ、何トナレハ舊法ハ單ニ是等ノ森林ニシテ、經濟ノ保續ヲ損シ、又ハ荒廢スルノ虞アル場合ニ於テ、初メテ營林方法ノ指定ヲ爲シ得ルニ止ルト雖モ、現行法ニ在リテハ、事前ノ監督ヲモ行フコトト爲シタリ、即チ必要ニ應シ、豫メ之カ施業案又ハ施業要領ヲ定メ、行政官廳ノ認可ヲ受ケシムルコトトセリ、惟フニ公有林、社寺有林ノ面積ハ頗ル多シ、而シテ是等ノ林野ハ、公共團體又ハ社寺ノ所有ニ係ルヲ以テ、之カ經營ニ對シ、周密ノ監督ヲ爲スノ必要アルハ、蓋シ言ヲ俟タサルモノナリ、況ンヤ從來山林ノ荒廢最モ甚シト稱セラルルハ、公有林殊ニ部落有林ナルニ於テオヤ

第九條

地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ公共團體又ハ社寺ノ代表者ヲシテ森林又ハ森林トシテ管理スヘキ土地ニ付施業案又ハ施業要領ヲ定メ其ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ施業案又ハ施業要領ノ變更ヲ命スルコトヲ得

本條ハ舊森林法ニ缺如シアリタルヲ、新タニ設ケラレタル條文ニシテ、地方長官ニ

於テ、必要ヲ認メタルトキハ、公共團體又ハ社寺ノ代表者ニ對シ、森林又ハ森林トシテ管理スヘキ土地ニ對シ、施業案又ハ施業要領ヲ定メ、認可ヲ乞ハシムルコトヲ得ルモノト定メラレタリ、是レ現在森林中施業ノ不行届キナルモノハ、公有林、社寺有林ナリ、即チ民有林ハ各自直接ノ利害關係ヲ有スルヲ以テ、何レモ相當ノ保護管理ヲ爲シアリ、又國有林、御料林ハ何レモ相當機關ヲシテ、經營ニ當ラシムルノミナラス、監督方法モ完備シアルニ依リ、別ニ憂虞スルニ足ラス、然ルニ公有林、社寺有林ニ至リテハ、財産ノ管理ハ、法人内部ノ共同ニ歸シ、直接一私人ノ利害ニ關セサルヲ以テ、管理者ハ恰モ自分ノモノニアラサルノ考ヲ以テ、之ヲ放置スルノ虞アリ、故ニ此等所有ニ係ル森林ニ關シテハ、施業案若ハ施業要領ヲ立テ認可ヲ受ケシメ、以テ森林經濟ヲ十分保續セシムルヲ期スルモノナリ、尤モ社寺有林、公有林ト雖モ、悉ク施業案、若ハ施業要領ノ認可ヲ受ケシムルモノニアラスシテ、地方ノ狀況又ハ特殊ノ必要ニ應シ、一ニ地方長官ノ認定ニ依リ、之カ認可ヲ受ケシムルモノナリ

第二項ハ、第一項ヲ規定セラレタル當然ノ結果ナリト云フヘシ

本條ニ付、特ニ注意ヲ要スルハ、森林トシテ管理スヘキ土地トハ、如何ナルモノナリヤトノ問題はナリ、抑絶對的林地、關係的林地ナル語ハ、學問上普通ニ用キラルル所

ナリ、前者ハ林業ニ利用スル外、他ニ利用ノ途ナキ土地ヲ謂ヒ、後者ハ林業以外ノ產業、例ヘハ農業等ニハ絶對ニ利用シ得サルニハアラサルモ、當時ニ於ケル關係上(主トシテ經濟上ノ關係)林地タルモノヲ謂フナリ、而シテ尙右ノ外國土ノ保安上等ノ必要ニ因リ森林ト爲ササルヘカラサル土地モ、存在スルコト多シトナス、故ニ或土地カ森林ト爲スヘキ地ナリヤ否ハ、天然狀態、經濟關係、國土保安等、諸種ノ點ニ依リ決定セラルヘキモノタリト言ハサルヘカラス、本條ニ所謂森林トシテ管理スヘキ土地トアルハ、此等ノ諸點ニ依リ森林ト爲スヘキ土地ヲ指稱スルモノナリト知ルヘキナリ、然ラハ實地ニ於テ其ノ森林ト爲スヘキ地ナリヤ否ハ、如何ニシテ之ヲ判別スヘキカ、本條ノ適用上、何人ノ判斷ヲ以テ正シトスヘキカトハ、次イテ起ルノ疑問ナルヘシ、而シテ森林法ニハ、直接此ノ疑問ニ答フルノ明文ナキヲ以テ、施行規則第二條ニ於テ之ヲ明カニシ、公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ其ノ屬スル原野、山岳、荒蕪地又ハ森林タリシモノニシテ、現ニ荒蕪セルモノニ付、森林トシテ管理スヘキモノト否トヲ區分シ、地方長官ノ認可ヲ得テ、之ヲ決定スルノ條項ヲ置ケリ、從テ本條適用上ノ判斷ハ政府ノ認定ニ依ルヘキモノトス

第十條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニシテ荒蕪ノ虞アルトキハ、地方長官
 森林ノ監督
 二二

ニ於テ施業ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

前項指定ノ方法ニ違反シ伐木ヲ爲シタル者ニハ地方長官其ノ伐採ヲ停

止シ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得

第二十五條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

本條ハ公有林、社寺有林、私有林ノ營林ニ關シ、地方長官ノ監督權限ヲ規定シタルモノトス、即チ森林ノ荒廢ハ、管ニ一個人其ノ他森林所有者經濟上ノ不利益ナルノミナラス、森林ノ荒廢ノ結果、國土保安ニ影響ヲ及ホスコト尠ナカラス、故ニ森林所有者ノ經濟ヲ保護セシムルト共ニ、公益ノ爲ニ、營林上ノ監督ヲ要スルモノナリ、而シテ地方長官ハ荒廢ノ虞アルトキハ、必スシモ監督ノ義務トシテ、施業方法ヲ指定セサルヘカラサルモノニアラスシテ、任意上其ノ必要ト認メタルトキハ、施業ノ方法ヲ指定スルコトヲ得ト云フニ過キス、故ニ假令荒廢ノ虞アリト雖モ、必スシモ施業ノ方法ヲ指定スルヲ要セス、利害關係ノ少キモノノ如キハ、地方長官ノ認定ニヨリ、自由ニ之ヲ取捨スルヲ得ヘシ、何トナレハ本條第一項ハ、指定スルコトヲ得ト定メラレタルヲ以テ、命令的ニアラスシテ、任意的規定タルコト明カナレハナリ

第二項ハ、第一項ノ制裁ヲ定メタルモノトス、即チ第一項ノ監督權ハ本項ヲ俟テ完全ナル效力ヲ有スルモノトス、何トナレハ假令第一項ニヨリ、地方長官カ施業ノ方

法ヲ指定スルモ、其ノ指定ニ背キテ、伐木シタルモノアルトキハ、如何ニ之ヲ處分スヘキカ、之カ制裁ヲ規定セサレハ、第一項ハ何等ノ效力ナケレハナリ、是レ第二項ノ規定アル所以ニシテ、其ノ場合ニハ地方長官ハ進テ、伐木ヲ停止シ、已ニ伐木セル跡地ニハ、復舊ノ造林ヲ爲サシムルヲ得ルモノトス

第三項ハ、施業方法トシテ伐採方法、伐期等ノ指定ヲ受ケ又ハ第二項ニヨリ伐採ヲ停止セラレタル場合ト雖モ、森林保育ノ爲、必要ナルトキ又ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ、地方長官ノ許可ヲ得テ、之ヲ伐採スルコトヲ得セシムルモノトス

茲ニ荒廢ノ虞アルトキトハ、林地ノ生産力、即チ地方ノ漸次減耗ノ傾向アル土地ヲ云フ然レトモ、之カ程度ハ、一ニ監督官廳ノ認定ニ委セサルヘカラス

而シテ地方長官カ、第一項ノ指定ヲ爲スニハ、森林法施行手續第一條ニ依リ、施業方法書及圖面ヲ作製シ、其ノ處分書ニ添附通達シ、第二項ニ依リ、造林ヲ命セムトスルニハ、造林方法書及圖面ヲ作製シ、其ノ處分書ニ添附スルヲ要ス(施手二六)

尙右處分ヲ爲シタルトキハ、施行手續第三十二條二、三號ニ依リ、農商務大臣ニ報告シ、地方廳ニ於テハ、適宜臺帳ヲ備ヘ、施業指定事項ヲ記載シ置クヲ要ス、處分ヲ受ケタル所有者ハ、其ノ地番ノ分合、地形又ハ林相ノ異動、輕微ナルモノヲ除クアルトキ

ハ、其ノ都度之ヲ地方長官ニ届出、又此等指定ヲ受ケタル森林ヲ譲リ受ケタル新所有者ハ、其ノ事實ヲ證スル書面(登記謄本ノ如キ)ヲ添へ、同様届出ヲ爲ス義務アルモノトス

第十一條 前條第二項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタル者造林ヲ怠リタルト

キハ行政官廳ニ於テ自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ公共團體ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

前項造林ニ要シタル費用ハ行政官廳ニ於テ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

本條ハ前條ノ監督ヲ有效ナラシムル爲ニ、前條第二項ニ依リ造林命令ヲ受ケタル者、造林ヲ怠ル場合ニ於ケル處分方法ヲ規定シタルモノトス、即チ前條第二項ニ依リ、造林ヲ命セラレタルニ拘ハラズ、命令通りノ方法ヲ以テ、造林ヲ爲ササルカ又ハ指定ノ期間内ニ、造林ヲ完了セサルトキハ、政府ニ於テ代執行スルカ又ハ公共團體ヲシテ、之ヲ爲サシメ、以テ前條第二項ノ命令ヲ事實上有效ナラシムルコトヲ期セリ、然レトモ本條モ行政官廳ニ對シ、實行ヲ強制シタル規定ニアラスシテ、單ニ之カ權能ヲ定メタルモノナレハ、行政官廳カ、義務者ニ代リ、其ノ爲スヘキ行爲ヲ爲スカ又ハ公共團體ヲシテ爲サシムルト否トハ、行政官廳ノ任意ナリ

第二項ハ、代執行ニ據ル造林費ノ徵收方法ヲ規定シタルモノトス、即チ第一項ニ依リ行政官廳ニ於テ、自ラ義務者ニ代リテ造林スルカ又ハ公共團體ヲシテ造林セシメタルモ、義務者カ指定ノ期限内ニ費用ヲ收メサルトキハ、國稅徵收法ニ依リ強制徵收ヲ爲シ得ルモノトセリ

舊法第五條ニハ造林費徵收ニ代フルニ、部分林ト爲スコトヲ得ルノ規定アリタルモ、本條ニ於テ、之ヲ削除シタルハ、蓋シ部分林契約ハ別ニ法律ノ規定ヲ要セス、自由ニ締結シ得ヘシトノ事由ナラム、故ニ契約ニ依ル場合ハ收益分收ヲ爲ス處ノ部分林契約、若ハ地上權設定等、適宜ノ方法ヲ執ルヲ可トス、是レ明治四十年十二月林發

第二七一號山林局長通牒アル所以ナラム
地方長官自ラ造林者ノ義務ヲ行ハムトスルトキハ、森林法施行手續第三十條ニ依リ、其ノ行ハムトスル理由、造林費ノ徵收ニ關スルコト、義務者ノ資力ニ關スルコトヲ具シ、造林事業豫算書ヲ作製シ、施行手續第十七號様式(農商務大臣ノ認可ヲ受ケサルヘカラス、而シテ右事業終了セルトキハ、造林費ノ徵收ニ關スル方法ヲ具シ、造林事業實行書施行手續第十八號様式)ヲ添附シ、同大臣ニ報告スヘシ

第十二條 本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付新ニ造林シタルト

造林ノ監督

キハ其ノ納税義務者ノ申請ニ依リ其ノ造林シタル部分ニ限リ三十年以
内地租ヲ免スルコトヲ得
前項ノ規定ハ原野、山岳又ハ荒蕪地ニ新ニ造林シタル場合ニ之ヲ準用スル
府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ前二項ニ依リ地租ヲ免セラレタル土地
ニ對シ租税其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

本條第一項ハ此ノ法律施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ對シ新ニ造林シタル
トキノ特典ヲ規定シタルモノトス、是レ前條ノ如ク強制的ニ造林ヲ命スルニアラ
スシテ、森林ノ荒廢ヲ防止シ、原野、山岳、荒蕪地ニ付、新タニ利用ノ途ヲ開發セムカ爲
造林ヲ獎勵スルモノナリ、而シテ茲ニ造林トハ、人工植栽及人工播種ノミヲ指シタ
ルモノニシテ、天然造林ハ包含セサルコトニ解セラレツツアルハ注意ヲ要スル事
ナリ、而シテ資本回收ノ長短、造林ノ難易ニ依リ、免租年限ニ差等ヲ附スルモノトス
即チ明治四十一年三月農商務省訓令第四號ニ依レハ喬林ヲ仕立ツルノ目的ヲ以
テ植樹シタルモノハ十五ヶ年以上三十ヶ年以内、中林ヲ仕立ツル目的ヲ以テ植樹
シタルモノハ十ヶ年以上二十ヶ年以内、矮林ヲ仕立ツル目的ヲ以テ植樹シタルモ
ノハ十ヶ年以内、以上ノ外、利用ヲ目的トセサル植樹ニアリテハ三十ヶ年以内ト定
メラレタリ、又之カ免租ヲ得ントスル者ハ、所轄稅務署長ニ申請スヘキ手續ナルコ

トハ、明治四十一年一月大藏省令第一號ノ定ムル處ナリ、而シテ稅務署長ハ之カ申
請ヲ受ケタルトキハ、地方廳ト協議ノ上、相當免租年期ヲ定メ之ニ許可ヲ與フヘキ
コトハ、同年月大藏省訓令第一號ノ定ムル處ナリ
第二項ハ、現ニ森林ニアラサル原野、山岳又ハ荒蕪地ニ新ニ造林シタル場合ニモ、第
一項ヲ準用スヘキコトヲ定メタルモノトス
第三項ハ、第一項及第二項ニ依リ地租ヲ免セラレタル土地ニ對シテハ、府縣市町村
其ノ他ノ公共團體ハ、租税其ノ他ノ公課ヲ賦課スルコトヲ禁止シタル規定ナリト
ス、是レ舊法ニハ單ニ地租及公課ヲ免スルコトヲ得ト規定シタルヲ以テ、假令政府
ニ於テ地租ヲ免シタル場合ト雖モ、府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ、自己ノ權能ニ
ヨリ租税公課ヲ賦課スルコトヲ得タレトモ、新法ハ本條ニ於テ地租ヲ免シタル土
地ニ對シテハ明カニ租税公課ヲ課スルコトヲ得スト禁止的ニ規定シタルハナリ、
茲ニ荒廢ニ屬シタル森林及荒蕪地ノ意義ヲ説明センニ、荒廢ニ屬シタル森林トハ
森林地方減退シ、現ニ僅ニ木竹ノ殘存スル土地ヲ指稱シ荒蕪地トハ、其ノ文字ノ示
ス如ク、アレハタタル土地ニシテ、從來ヨリ何等利用スヘキ地上產物ナク、人ノ願ミ
サリシ土地ナルカ或ハ荒廢ノ度ヲ超ヘ利用シ難キ状態ニアル土地ヲ云フ

本條ノ免租申請ハ、箇所、面積、地別、荒廢林、原野、山岳、荒蕪地等ノ別、造林樹種、造林年月日等ヲ記シ、所轄稅務署長ニ提出スヘキモノニシテ、稅務署ニ於テハ、地方廳ト協議ノ上、相當年期ヲ定メ、處分スヘキナリ(明治四十一年一月大藏省令第一號)

第十三條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニ付、地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ、箇所及期間ヲ指定シ、落葉、落枝、柴草、土石、樹根、草根、切芝ノ採取若ハ採掘ニ關スル制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

本條ハ公有林、社寺有林又ハ私有林ニ對スル作業ノ制限ヲ規定シタルモノトス、即チ保安林ニアラサルモ、土地ノ狀況ニ依リ、一定ノ箇所及期間ヲ指定シ、落葉、落枝、柴草ヲ採取スルカ若ハ土石、樹根、切芝ノ採掘方法ヲ制限シ又ハ全ク禁止スルコトヲ得ルノ規定ナリ、此等ノ作業ヲ無制限ニ行フトキハ、地勢、地質ノ如何ニ依リ、或ハ地力ヲ減耗シ、或ハ木竹ノ發育ヲ妨ケ、林相ヲ荒廢セシムル等ノ危害ヲ與フルコト少ナカラサル場合アルヲ以テ、土地ノ狀況ニ依リ、此等ノ行爲ヲ制限若ハ禁止ヲ爲スモノトセリ、而シテ其ノ行爲ニ對スル危害ノ有無ハ、一ニ地方長官ノ認定ニ委シタルモノトス

又本條ノ作業制限ニ對スル補償關係ニ付テハ、何等規定シアラサルヲ以テ、或ハ之

カ反對推理トシテ、補償ヲ求メ得ルカ如キ相像スル者ナキニアラサルヘシト雖モ、行政廳ノ命令ニ因ル損害ハ、法條ナキ限り賠償セサルヲ本則トス、從テ補償ヲ求メ得ストノ明文ナキモ、請求シ得サルモノトス

地方長官、本條規定ニ依リ處分ヲ爲サルトキハ、其ノ箇所、面積、所有者、禁止制限事項ヲ、慣行ノ公布式ニ依リ告示シ、同時ニ森林所有者ニ處分ノ通知ヲナシ、主務大臣ニハ、其ノ處分ノ理由ヲ具シ、報告スルヲ要ス、而シテ此等ノ制限、禁止ニ關スル事項ハ、適宜臺帳ヲ備ヘ、登錄セサルヘカラス

第四章 保安林

本章ハ國土ノ保安ニ關係ヲ有スル森林、竝ニ其ノ他ノ土地ノ保護、取締方法ヲ、規定シタルモノトス、則チ保安林ノ編入、解除ハ如何ナル手續ニ依ルカ、而シテ之カ制限竝ニ制限ニ對スル恩典ハ如何、又保安林以外ノ森林ニシテ、國土ノ保安上必要ナル處ハ、如何ニ制限スルカ、又森林以外ノ原野、山岳、其ノ他ノ土地ニシテ、國土ノ保安上、必要アラハ如何ニシテ、處理スルカ等ヲ定メタルモノナリ、故ニ現行法ハ、舊法第三章(保安林ト題スル章)ノ形式的保安林ニ關スルモノヲ規定シタルニ比シ、開墾ノ制

限又ハ禁止其ノ他準保安林、苟モ國土ノ保安上、必要アルモノヲ本章ニ總括シ規定シタルハ、法律編成上體裁宜シキヲ得タルモノトス

第十四條 主務大臣ハ左ニ掲ケル場合ニ於テ森林ヲ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土砂ノ墮崩、流出ノ防備ノ爲必要ナルトキ
- 二 飛砂ノ防備ノ爲必要ナルトキ
- 三 水害、風害、潮害ノ防備爲必要ナルトキ
- 四 積雪又ハ墜石ニ因ル危險ノ防止ノ爲必要ナルトキ
- 五 水源涵養ノ爲必要ナルトキ
- 六 魚附ノ爲必要ナルトキ
- 七 航行ノ目標ノ爲必要ナルトキ
- 八 公衆ノ衛生ノ爲必要ナルトキ
- 九 社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ノ爲必要ナルトキ

本條ハ現ニ森林タルモノヲ保安林ニ編入シ得ヘキ場合ヲ規定シタルモノトス。抑モ保安林ハ、公益ヲ保護スル目的ヨリ設クヘキモノナリト雖モ、之カ範圍ヲ限定セサレハ、法律ノ實施上種種ノ弊害ヲ醸生スルノ虞アリ、依テ茲ニ公益中ニ範圍ヲ定メ、必要ノ目的ヲ掲ケ、其ノ目的ヲ達スルニ必要ナルトキニ限り、保安林ニ編入シ

得ルモノトセリ、故ニ此ノ目的以外ニ於テハ、如何ナル場合モ、保安林ニ編入シ能ハサルモノトス、加之本條列記シタル目的ヲ達スルニ必要ナルトキト雖モ、必スシモ悉ク保安林ニ編入スルニ及ハサルコトアリ、則チ之カ利害得失ヲ比較シ、社會上利益多キ方ニ依リ、處理セサルヘカラス、而シテ前記ノ目的ニ從ヒ、保安林ノ種類ヲ分ツコト、左ノ十二種ニシテ、編入目的ノ二種以上ニ涉ルトキハ、其ノ主ナル目的ニ依リ區分スルヲ要ス

- 一、 土砂扞止林
- 二、 飛砂防止林
- 三、 水害防備林
- 四、 防風林
- 五、 潮害防止林
- 六、 積雪防止林
- 七、 墜石防止林
- 八、 水源涵養林
- 九、 魚附林
- 十、 目標林
- 十一、 衛生林
- 十二、 風致林

茲ニ於テ疑問ヲ生スルハ、一度或目的ノ爲ニ編入セラレタル保安林ニ付、更ニ他ノ目的ノ爲ニ編入ノ必要ヲ生シタルトキ、再度編入ノ手續ヲナスヘキヤ否ナリ、然ルニ本條ニ於ケル森林トハ、何等制限ナキ普通林ヲ指スモノニシテ、保安林ヲ包含セルモノニアラス、且保安林編入處分ハ一々其目的ヲ示スヘキニアラスシテ、目的ハ保安林ノ内容タルニ過キス、故ニ編入目的ノ變更或ハ他ノ目的ノ併有ヲ必要トス

ルモ、何等處分ヲ要セス、保安林タルコトヲ保護スヘキモノトス
然リ而シテ本條ハ現ニ森林タルモノヲ保安林ニ編入スルコトヲ規定シタルモノ
ナレハ、森林以外ノ土地ハ、假令本條各號ニ該當スル場合ト雖モ本條ノミノ規定ニ
テハ、之ヲ保安林ニ編入シ得サルノ不便アリ、故ニ第三十六條ニ於テ、森林以外ノ土
地ト雖モ、必要ニヨリテハ森林ニ準スヘキコトヲ規定シタルヲ以テ、本條ノ第一號
乃至第五號ニ該當スル場合ハ、原野、山岳、其ノ他ノ土地ト雖モ、保安林ニ編入シ得
ルモノトス

第十五條

主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキ又ハ保安林トシテ存
置スルノ必要ナシト認ムルトキハ保安林ヲ解除スルコトヲ得

本條ハ保安林ノ解除要件ヲ規定シタルモノトス、而シテ之カ解除要件ハ、舊法ニ對
比スルニ、其ノ異ナル點ハ、保安林トシテ存置スルノ必要アルトキハ、其ノ編入目的
ノ變更ノ爲ニ、保安林トシテ繼續スルヲ妨ケサルコトトナレルノミ、即チ例セハ舊
法ニ於テハ、飛砂防備ノ爲、保安林ニ編入シタルニ、其ノ編入原因タル飛砂防備林ト
シテハ、存置ノ必要ナキニ至リタルトキハ、假令水源涵養林等、他ノ目的ノ爲ニ尙保
安林トシテ存置ノ必要アリト雖モ、一ト先ツ之ヲ解除シ、然ル後更ニ水源涵養林等

他ノ目的ノ爲ニ編入スヘキ手續ナリシモ、本法ハ斯ル複雑ナル手續ヲ避ケ、苟モ保
安林トシテ存置スヘキ必要アラハ、其ノ編入目的ノ如何ヲ問ハス、全然保安林トシ
テ必要ナキニ至ルマテ之ヲ存置スルモノトス

然ルニ前條ニヨリ或森林其ノ他ノ土地ヲ保安林ニ編入シタリトスルモ、永久之ヲ
保安林ト爲シ置ク必要アリト云フニアラス、時トシテハ其ノ必要ヲ認メサルニ至
ルコトアリ、此ノ場合ニ於テハ、徒ニ所有者ノ權利ヲ制限シ、作業ニ干涉スヘキ理由
ナシ、故ニ此ノ場合ニ、之ヲ普通林ニ復舊シ得ルノ要件ヲ定メタルモノニシテ、之カ
要件ハ二個ニ分類シ得ヘシ

一、公益上解除ノ必要アリト認ムルトキ

此ノ場合ハ公益ノ衝突ナリ、何トナレハ保安林モ公益ノ必要ヨリ出ラタル處分
ナリ、然ルニ茲ニ公益上必要アリトハ保安林以外、特別ノ事由生シタル場合ヲ指
スモノトス、故ニ如何ナル事由カ、果シテ公益上必要ナルヤ否ハ、主務大臣ノ認定
ニヨルノ外ナシト雖モ、少クモ保安林トシテ存置スルヨリ比較的重大ナルモノ
ナラサルヘカラス

二、保安林トシテ存置スルノ必要ナシト認ムルトキ

保安林ニ編入シタル理由ハ、前條列記ノ各號ニ依リタルトスルモ、苟モ保安林トシテ存置ノ必要アラハ、解除シ得サルモ、前條各號ニ掲クル必要全然消滅シタルトキハ、之ヲ解除スルコトヲ得ルモノトセリ、舊法ニ於テハ、編入ノ原因例ヘハ魚附ノ爲必要トシテ編入シタルニ、漁業關係上、魚附林ニハ必要ナキニ至リタルモ尙航海目標トシテ必要アル場合モ、之ヲ解除スヘキ規定タリシモ、新法ハ此ノ缺點ヲ補ヒ、假令編入ノ原因消滅スルモ、他ノ理由ニヨリ保安林トシテ存置スルノ必要アラハ、之ヲ繼續セサルヲ得サルコトトシタルハ、明カニ公益ノ保護上進歩セルモノト云フヘシ

本條及前條ノ編入、解除ニ關スル調査ハ、地方長官、利害關係ノ重大ナルモノヨリ、逐次調査ヲ爲シ、申請或ハ官廳ヨリノ通知ニ關スルモノモ、同様ノ取扱ヲ爲スヘキモノナリ、近來國有林野中、治水上重要ノ關係アル箇所ニ付テハ、所轄大林區署ニ於テ、之カ調査ヲナシ、地方長官ハ自ら編入ノ必要ヲ認ムルモノ、及申請受理ノ箇所ノミニ付、調査ヲ行ヒツツアルハ、急速調査ノ必要アル爲ニシテ、保安林編入、解除ハ狹義ニ於テ農商務大臣ノ補助機關タル地方長官ノ權限ニ屬スルヲ以テ、所有者ノ如何ヲ問ハス調査ヲ爲シ得ヘキハ當然ナリトス

第十六條

保安林ノ編入、解除ハ其ノ森林所在ノ府縣市町村又ハ之ニ準スヘキ者其ノ他直接利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ地方長官ヲ經由シ主務大臣ニ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ニ係ル森林ニ付不編入又ハ不解除ノ處分アリタルトキハ實地ノ狀況ニ著シキ變更ヲ生シタル場合ニ非サレハ同一理由ニ因リ再ヒ之ヲ申請スルコトヲ得ス

本條ハ保安林編入、解除ノ手續ノ一ニシテ、保安林編入及解除ヲ申請シ得ル資格及申請書提出ノ順序ヲ規定シタルモノトス、即チ保安林ノ編入、解除ヲ申請シ得ルモノハ、森林所在ノ府縣市町村又ハ之ニ準スヘキ者、例ヘハ郡或ハ水利組合ノ如キ是レナリトス、其ノ他直接利害ノ關係ヲ有スル者ニ限り、申請シ得ルモノニシテ、其ノ他ノ者ニ於テハ、之ヲ許ササルモノトス

而シテ之カ申請順序ハ、當該地方長官ヲ經由シ、主務大臣ニ提出スルモノトス、保安林ノ編入、解除ハ主務大臣ノ決定スルモノニ拘ハラヌ、之カ申請ヲ爲ス場合ニ、特ニ地方長官ヲ經由スヘキコトニ定メタルハ、地方長官ハ法律施行上、實地ニ付テ之カ査察ヲモナササルヘカラス、且處分上ニ關スル意見ヲモ、主務大臣ニ開陳セサルヘカラス、故ニ手續上ノ便宜ニヨリ、地方長官ヲ經由スルコトニ定メタルモノナ

リ、就中第三十七條ノニ依リ地方長官ニ委任セラレタルモノノ編入處分ヲ爲ス
場合アルヲ以テ、旁地方長官ヲ經由スヘキ必要アリトス

第二項ハ保安林ノ不編入又ハ不解除ノ決定アリタル森林ニ對シ、更ニ編入又ハ解
除ノ申請ヲ許ストキハ、同一事件ニ付、重複ノ手數ヲ要スルヲ以テ、其ノ煩ヲ避ケン
爲ニ特ニ設ケタル規定ナリ

而シテ茲ニ再ヒ申請スルトハ、假令申請者ノ異ナル時ナルモ、申請ニ係ル土地同一
ナルトキハ、之ヲ再申請ト云フ、要スルニ森林其レ自體ヨリ觀テ再ヒト否トヲ決定
スヘキモノトス、然ルニ法ハ同一理由ト謂フカ故ニ、編入目的ヲ異ニスル場合ハ、同
一地ニ再度申請ヲ爲シ得ルモノトス

第十七條

保安林ノ編入解除ノ申請アリタル場合ニ於テ前條第一項ノ條

件ヲ具備セス又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シタルモノト認ムルトキハ

地方長官ハ申請書ヲ却下スルコトヲ得

前項ノ處分ニ對シ不服アル者ハ、訴願ヲ提起スルコトヲ得

本條第一項ハ申請書ノ却下、處分、權限ヲ地方長官ニ附與シタルモノニシテ、第二項
ハ、其ノ處分ニ對スル救済方法ヲ規定シタルモノトス、則チ申請力、森林所在ノ府縣
市町村又ハ之ニ準スヘキ者ナラサルカ、或ハ直接利害ノ關係ヲ有スル者ニアラサ

ルカ、若ハ以上ノ資格ヲ有スル申請者ナリトスルモ、其ノ申請理由カ不編入又ハ不
解除ノ處分アリタルモノニシテ、實況亦著シキ變更ヲ生セサルニ拘ハラズ、同一理
由ニ依リ再ヒ申請シタルモノナルトキハ、主務大臣ニ提出スルモ、到底採用シ得サ
ルモノニ付、無用ノ手數ヲ煩スヨリモ、便宜地方長官ヲシテ却下ノ處分ヲ爲サシム
ルモノトス、然レトモ元來保安林編入、解除ノ處分ハ主務大臣ノ權限委任權限ニ屬
スルモノハ特別ニ屬スルモノナルニ、便宜地方長官ヲシテ申請書却下ノ處分ニ出
テシメタルモ、其濫用ヲ防カムカ爲、森林法施行規則第八條ニ依リ必ス理由ヲ附シ
タル書面ヲ以テ處理スルコトヲ必要トシ、其ノ處分ニシテ誤謬ナキヲ保シ難キカ
故ニ之カ救済方法トシテ、第二項ノ如ク訴願提起ノ途ヲ開キタルモノトス、而シテ
訴願提出期間ノ定メナキヲ以テ、何時ニテモ提出シ得ルモノノ如ク解セラルル者
モアラム、是レ大ニ誤謬ノ解釋タルモノトス、何トナレハ各法律ニ於テ特ニ其ノ規
定ナキ場合ハ、訴願法第八條ヲ適用スルモノナレハ、處分ヲ受ケタル後六十日以内
ニ於テ、之ヲ提出セサルヘカラサルモノトス

第十八條

保安林ノ編入解除ヲ爲サムトスルトキ又ハ地方長官其ノ申請
ヲ受理シタルトキハ、地方長官ニ於テ其ノ旨ヲ森林所有者、土地所有者其
ノ他土地ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ニ通知シ且履行ノ公布式ヲ以

保安林

テ之ヲ告示シ森林所在ノ市町村役場ニ之ヲ揭示スヘシ
 地方長官ハ前項告示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル後保安林ノ編入解除
 ナ地方森林會ノ議ニ付スヘシ

本條モ亦保安林編入解除ニ關スル手續ニシテ、第一項ハ、公示及通知ノ手續ヲ定メ、
 第二項ハ、森林會ニ付議スル順序ヲ規定シタルモノトス、則チ第一項ハ、地方長官ニ
 於テ、自ラ保安林ノ編入、解除ヲ爲スヘキ必要(第十五條ノ主務大臣ノ必要ト認メタ
 ルトキモ含ム)ヲ認メ、之カ手續ヲ爲サントスルトキ又ハ自己ノ發意ニアラスシテ
 他ヨリ編入、解除ノ申請ヲ受理シタルトキハ、其ノ旨ヲ利害關係者ニ知悉セシムル
 爲ニ、公示及通知スルモノトセリ、是レ地方森林會付議以前ニ於テ、利害關係者ヲシ
 テ相當ノ覺悟ヲ促シ、且自己ノ利益ヲ主張スルノ猶豫ヲ與フルニ外ナラス、故ニ森
 林所有者ノミナラス之ニ關係ヲ有スル土地所有者其ノ他土地ニ付登記シタル權
 利ヲ有スル者ニモ通知スルコトニ規定セリ而シテ其ノ土地表示ハ最モ明確ヲ要
 スルハ勿論ニシテ地番ノ一部ニ關スル如キ場合ハ、其ノ區域ヲ明示シタル圖面ヲ
 添附シ、或ハ四至境界ヲ通知書ニ記載シ、知悉セシムルノ方法ヲ執ルヘキナリ、猶慣
 行ノ公布式即チ府縣公報ノ如キモノヲ以テ、一般ニ之カ公示ノ方法ヲ執リ、且森林
 所在ノ市役所若ハ町村役場ニ、之ヲ揭示スルモノトセリ、茲ニ於テ疑問ヲ生スルハ

大林区署、帝室林野管理局其ノ他各省用地ヲ管理スル當該官廳ニ於テ、保安林編入
 解除ノ必要ヲ認メタルトキハ、本條ノ處理手續ヲ要セスシテ、直ニ主務大臣ニ上申
 スヘキヤ否ニアリ、然ルニ狹義ニ於ケル森林行政ハ、地方長官ノ主管事項ニシテ、保
 安林編入、解除ノ如キハ主務大臣カ處分ヲ爲ス、補助機關タルナリ、故ニ當該官廳ニ
 於テ其ノ必要ヲ認メタルトキハ、地方長官ニ通知シ、地方長官ハ之ヲ申請ト同一ニ
 取扱フヘキモノナリ、嘗テ舊法ニハ、其ノ施行細則第二條及第三條ニ明カニ通知ス
 ヘキコトヲ明記シタルニ改正法及其ノ附屬法規ニハ之ヲ缺クモ、施行手續第三條
 及第七條ニ官廳ノ通知ナル文字アルハ其ノ意義同一ト解スヘキナリ
 保安林編入解除ノ申請ヲ爲シ、其ノ處分決定前、申請者ノ死亡、失踪或ハ國籍喪失等
 アリタル場合、其レト同時ニ申請ハ消滅スヘキヤ否ハ、疑問トスル處ニシテ、之ニ關
 シテハ明治四十一年山梨縣知事照會ニ對シ、山林局長ノ回答アリ、即チ保安林編入、
 解除ナル處分ハ、人ニ對スル處分ニアラスシテ、其ノ目的タル森林ニ對スル處分ナ
 リ、而シテ此處分ヲ爲ス動機ハ申請ニ依ルコトアリ、認定ニ依ルコトアルモ、是レ保
 安林編入、解除ヲ爲ス行政機關ノ作用ヲ促スヘキ動機タルニ過スシテ、地方長官其
 ノ申請ヲ受理シ告示スルハ即チ其ノ森林ニ對スル編入、解除ノ手續ノ進行ヲ開始

シタルモノニシテ、第二十條ノ規定ニ依レハ本條ノ告示アレハ、必ス第二十三條ノ處分アルコトヲ豫定シ居ルニ見テモ、進行ヲ始メタル處分ノ準備行爲ハ申請者ノ死亡、失踪、國籍喪失等ニ依リ中止スヘキニアラス、第二項ハ、告示ノ日ヨリ地方森林會ニ付議スルマテノ、最短期間ヲ定メタルモノトス、即チ第一項ノ如ク通知又ハ公示スルト雖モ、利害關係者ニシテ、十分考慮ヲ爲スノ暇ナキニ於テハ、折角與ヘラレタル研究スヘキ期間モ、何等效力ナキニ了ルノミナラス、第二十一條ノ意見書提出期間ハ、告示ノ日ヨリ二十五日間ナルヲ以テ、此ノ期間經過後ニアラサレハ、利害關係者異議ノ有無モ判明セサルニ依リ、告示ノ日ヨリ必ス三十日ヲ經過シタル後ニアラサレハ、地方森林會ニ付議シ得サルモノトセリ、而シテ最長期間ヲ規定シアラサルニ依リ、告示後數年經過スルモ、地方森林會ニ付議シ得ヘシ、然リ而シテ保安林ハ、元來公益ヲ保護スルノ目的ニ出テシモノナリト雖モ、大ニ所有權ヲ制限スルモノナレハ、十分公平ニ且鄭重ニ審議セサルヘカラス、依テ各國ノ規定或ハ公開裁決法ヲ採ルモノアリ、或ハ保安林ニ關スル特別ノ機關ヲ設クルアリ、我カ森林法ニテハ、即チ地方森林會ナルモノヲ設ケ御料林、國有林ノ外編入解除ノ當否ハ必ス此ノ會議ニ付シ其ノ決議ヲ參照スルニ非サレハ、執行セサルノ規定ナリトス、是レ政府

ノ認定ニ誤謬ナキヲ期シ、官吏ノ行爲ニ私偏アルヲ避ケ、利害關係者ノ爲ニ疑惑ヲ散セシムルノ必要ニ出テタルモノナリトス

然レトモ第三十七條ニ依レハ、御料林及國有林ハ森林會ノ議ニ付セサルモノトセリ、是レ一般森林ト異ニシ、此等ノ森林管理者ハ、公平無私ナルノミナラス、假令誤謬ノ認定ニ依リ保安林ニ編入スヘキモノヲ、保安林タラシメサルモ、猥リニ伐木シ國土ノ保安ヲ害スルカ如キコトアラス、何トナレハ常ニ相當ノ技術家ヲシテ、經營ノ任ニ當ラシメ經濟ノ保護ト國土ノ保安トニ注意セシムレハナリ

本條ノ規定ニ依リ告示アリタル森林ニ付テハ施行規則第十條ニ依リ其ノ告示ノ日ヨリ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實發生シタルトキハ其ノ都度所有者ヨリ地方長官ニ届出ツヘキ義務ヲ生ス但シ第一號ノ届出ハ新所有者ヨリ其ノ變更ヲ證スル書面(登記謄本)ヲ添附シ之ヲ爲スヘキモノトス

一、森林所有者ノ變更

二、地番ノ分合

三、地形又ハ林相ノ異動但シ輕微ナルモノヲ除ク

本條ハ保安林ノ編入解除ノ處分ニ關スル議事機關タル地方森林會ノ組織等ニ關スル規程ハ、此ノ法律ニ規定セスシテ、命令ヲ以テ定ムヘキコトヲ規定シタルモノトス、即チ現行地方森林會規則ハ明治四十年十二月勅令第三四七號ヲ以テ定メラレタリ、其ノ内容ハ略ホ舊規則ニ異ナラサルモ、舊規則第三條實地調査ニ關スル規定ヲ削除シ、且四十一年四月林發第一〇二號ヲ以テ山林局長ヨリ各府縣知事ヘ依命通牒セラレタル處ニ依レハ、地方森林會議員ヲシテ、實地調査ヲ爲サシメサルノ一事ハ著シク舊規則ト異ナレルモノトス

第二十條

第十八條ノ告示ニシテ保安林ニ關スルモノナルトキハ其ノ告示ノ日ヨリ第二十三條ノ告示ノ日マテ其ノ森林ニ於テ木竹伐採、開墾又

ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條ハ保安林編入ノ手續中ニ於ケル制限ヲ規定シタルモノニシテ、手續中或ハ木竹ヲ伐採シ又ハ開墾シ、土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲スモノナキヲ保セス、斯ノ如キ行爲アリテハ、或ハ保安林編入ノ目的ヲ害スルノミナラス、場合ニ依リテハ、全然保安林ノ效力ナキニ至ラシムルコトナキヲ保セス、故ニ告示ノ手續

ヲ爲スト、同時ニ其ノ告示ニ依リテ生スル弊害ヲ防止スルノ必要アル所以ナリ然レトモ以上禁止セル行爲ト雖モ其ノ爲スヘキ方法程度ニ依リ事實國土保安上支障ナキノミナラス、或ハ他ノ公益事業上已ムヲ得サル場合アリテ木竹ノ伐採又ハ開墾ヲ爲スノ必要ナキヲ保シ難シ、例ヘハ電線架設ノトキ、支障木ヲ伐採シ又ハ電柱ヲ埋立ノ爲、土地ヲ掘鑿スルカ如キハ、公益事業上已ムヲ得サルモノトセサルヲ得ス、或ハ手入ノ爲、支障トナルヘキ接觸セル樹木等、全ク造林ノ目的以外ノ樹木ヲ伐採スルカ如キハ、森林保護上、必要ノ行爲ニシテ、國土保安上、何等支障ナキモノト言ハサルヘカラス、斯ル場合ニハ、本條但書ニ依リ、地方長官ノ許可ヲ得ルニ於テハ、本條本文ノ禁止事項ト雖、之ヲ行ヒ得ルモノトス、尤モ本條ハ主トシテ監督上ノ規定ニ屬シタルヲ以テ、國有林ニハ適用セサルモノトス、何トナレハ國有林ハ、主務大臣直接監督ノ下ニ、相當官廳ヲシテ經營ノ任ニ當ラシムレハ、國土保安等ニ關シテハ、深ク考慮ヲ加フルヲ以テ、別ニ本條ノ制限ヲ加フル必要アラサルモノトス(明治四十一年六月三日林第三四五號山林局長通牒)

本條ニ於ケル禁止行爲中、開墾ト土石埋木ノ採取若ハ採掘行爲トヲ區別シタルハ、本法第三條ト重複スルカ如ク考ヘラルルモ、本條ニ於ケル土石埋木ノ採取若ハ採

掘行爲ハ、土地ノ形質ヲ變更セサル範圍内ノモノト解セサルヘカラス

四六

第二十一條 保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ナ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ第十八條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ意見書ヲ地方長官ニ提出スルコトヲ得

本條ハ舊法第十四條ト同一精神ノ規定ニシテ、保安林編入解除ノ手續中ニ於テ、利害關係者ヲシテ異議申立ノ途ヲ與ヘ、以テ處分ヲシテ公平且偏私ナカラシムルニ在リ、即チ保安林ノ編入、解除ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者、其ノ編入、解除ニ對シテ、異議アルトキハ、意見書ヲ地方長官ニ提出スルコトヲ得ルト云フニ在リ、第十八條ノ告示ハ、地方森林會開會三十日以前ニシテ、本條ノ意見書提出期間ハ、其ノ告示後二十五日ニ限リタルハ、地方長官ニ於テ、地方森林會ノ議ニ付スルノ際、相當ノ調査ヲ遂ケ、意見ヲ決定シ置クノ必要アルヲ以テ、五日間ノ差違ヲ附シタルモノトス。本條ノ期間ハ、豫定ノ期間ナルヲ以テ、如何ナル原因アルモ、中斷、停止、延長セラルヘキ性質ノモノニアラス、此期限經過後ハ、意見書ヲ受理シ得サルナリ、而シテ茲ニ注意ヲ要スルハ、本條ハ受信主義カ、將タ發信主義カ、不明ニシテ、多少ノ疑義ナキニアラサレトモ、特別ニ規定ナキ以上ハ、民法第九十七條ニ依リ、受信主義ヲ採用シタル

モノト解セサルヲ得ス、然レトモ我國ノ行政組織ハ、地方長官ニ書類ヲ提出スルニハ、多クノ場合ハ、町村役場並郡市役所ヲ經由スヘキ手續ナルヲ以テ、法定期間内ニ地元市役所若ハ町村役場へ書類提出シタルトキハ、地方長官ニ於テ受理シタルモノト認ムルヲ相當トス、若シ然ラスシテ、事實地方長官ノ手許ニ到達セサレハ無効ト解セルカ、假リニ直接利害關係者ヨリ、法定期間ニ地方長官ニ到達スヘカリシ意見書モ、町村役場若ハ郡市役所ノ處理緩漫ノ爲何等過失ナキ關係者ヲシテ、意見ヲ申立ツルコト能ハサラシムルニ至ラム、其ノ不當ナルコトハ智者ニ俟テ知ルヲ要セス、是レ熊本縣知事照會ニ對シ明治四十五年六月二十二日林第三二九二號、德島縣知事照會ニ對シ大正五年七月十七日山第九四九號ヲ以テ、何レモ山林局長回答セラレタル所以ナリ

第二十二條 地方長官ハ保安林ノ編入解除ニ關スル地方森林會ノ決議書

其ノ他ノ關係書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ差出スヘシ

但シ第三十二條ノ二ノ規定ニ依リ委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限リニアラス

本條モ保安林編入解除手續中ノ一ニシテ、地方森林會議決後ニ於ケル手續ヲ規定

保安林

四七

シタルモノトス、即チ地方森林會ハ、編入解除ニ付、議決シタルトキハ、其ノ決議ノ結果ヲ地方長官ニ答申シ、地方長官ハ、其ノ決議書並他ノ關係書類ニ意見書ヲ添ヘ主務大臣ニ差出スヘキモノトス、但シ御料林、國有林ニアリテハ、本法第三十七條ニ依リ、第十八條第二項ノ規定ヲ適用セサルヲ以テ、第十八條第一項ノ手續ヲ爲シ、前條ノ意見書提出期間ヲ經過スルトキハ、直ニ本條ニ依リ、主務大臣ニ上申スヘキモノトス

而シテ意見具申ノ際添附スヘキ圖書類ノ大略ヲ舉示スレハ、大凡左ノ如シ
一 保安林編入、解除ノ議案寫

二 同編入、解除ニ關スル調書及圖面

但シ調書及圖面ハ必ス森林法施行手續第五條規定ノ様式ニ據リ作製ノコト
三 地方森林會決議書ノ原本

四 保安林ノ編入、解除ニシテ、申請ニ係ルモノナルトキハ、申請書ノ原本

但シ申請書及之ニ添附スヘキ圖面ハ、必ス森林法施行規則第七條規定ノ様式ニ據ルヘキコト

五 保安林ノ編入、解除ニシテ、官廳ノ通知ニ係ルモノナルトキハ、其ノ通知書ノ謄本

及御料林、國有林ニアリテハ、其ノ施業方法ニ付、當該官廳ト協議ヲ要スルヲ以テ、其ノ協議書ノ寫

六 保安林ノ編入、解除ニ關シ、利害關係者ヨリ、異議ノ意見書ヲ提出シタルモノアルトキハ、其ノ謄本

七 其ノ他保安林編入解除ニ關シ、審理上參考トナルヘキモノ(議案説明書ノ如キモノ)アラハ、其ノ書類

以上圖書類ノ調製若ハ取扱等ノ詳細ハ、森林法施行規則並ニ同施行手續等ニ付テ知ラルヘシ

第二項ハ第三十七條ノニ依リ本章ニ規定セル主務大臣ノ職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得ル規定ニ依リ明治四十四年農商務省令第二十六號ニ依リ委任セラレタル場合即チ御料林、國有林、前條ニ依リ意見ノ提出アリタルモノ及地方森林會決議ト地方長官ノ意見一致セサルモノノ外保安林ノ編入又ハ不編入ノ處分ハ地方長官之ヲ決定シ得ヘキヲ以テ此場合ハ具申ノ要ナキコトヲ規定セルナリ

第二十三條 主務大臣ニ於テ保安林ノ編入、解除ニ關スル處分ヲ爲シタル
保安林 四九

トキハ官報ヲ以テ之ヲ告示シ地方長官ヲシテ其ノ森林所有者ニ其ノ旨
ヲ通知シ且所在ノ市町村役場ニ揭示セシムヘシ
地方長官ニ於テ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ保安林編入解除ニ關スル
處分ヲ爲シタルトキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

本條ハ保安林編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルトキニ於ケル、公示手續ヲ定メタ
ルモノトス、而シテ第一項ハ主務大臣ニ於テ處分シタル場合ノ手續ニシテ、即チ前
條ニ依リ、地方長官ヨリ森林會ノ決議書竝意見書等、保安林ノ編入解除ニ關スル書
類ヲ差出シタルトキハ、主務大臣ニ於テ之ヲ處分スヘキモノニシテ、之ヲ決定シタ
ル上ハ、官報ヲ以テ告示シ、尙地方長官ヲシテ、其ノ旨ヲ森林所有者ニ通知セシメ、且
森林所在ノ市役所若ハ町村役場ニ揭示セシムルコトヲ定メタルモノトス
第二項ハ地方長官カ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ、委任ヲ受ケ處分シタル場合ノ
手續ナリ、而シテ現在保安林ニ關シテ、地方長官ノ委任權限ニ屬スルハ、前條説明ノ
如ク御料地竝國有地又ハ異議ノ存スル土地ヲ除キタル以外、即チ單ニ何等異論ナ
キ土地ノ編入、不編入處分ニ過キスシテ、之カ公示方法ハ主務大臣ノ處分セラレタ
ルト同一ノ手續ヲ爲スヘキモノトス、其ノ官報告示方ニ關シテハ、明治四十四年七
月十一日山第一四七四號及山第一五〇九號通牒ニ依リ、地方廳ヨリ直接印刷局ニ

廻付スルモノトス

茲ニ注意ヲ要スルハ、編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ、下在ルヲ以テ不編
入、不解除ノ場合モ之ヲ告示スルモノトス、何トナレハ此等ノ處分モ編入若ハ解除
ニ關スル處分ナレハナリ、舊法ニハ此ノ場合ニハ單ニ森林所有者ニ通知スルニ止
マリ、告示セサリシモ、第十八條ニ依リ一般ニ公示シタルモノナレハ、之カ處分ノ決
定アリタルトキモ、一般ニ周知セシムルハ當然ノ理由ナルノミナラス、本法第十六
條第二項ニ於テ、一事不再理の規定セラレタルヲ以テ、之カ處分決定ヲ一般ニ周知
セシムル必要アルハ、舊法トハ大ニ其ノ趣ヲ異ニセルニモ依ルヘシ

而シテ處分ヲ爲シタルトキハ、官報ヲ以テ告示云トアルヲ以テ、處分ナルモノハ
告示前即チ大臣ノ決裁ニ依リテ成立スルモノト解セサルヘカラス、但シ其ノ處分
ノ效力ヲ生スルハ法律カ公布ニ依リテ效力ヲ生スルト同シク、一般ニ告示ヲナシ
初メテ效力ヲ發生スヘキナリ、本法第二十條ノ禁止ハ、本條ノ告示ノ日マテ、效力ヲ
有シ、其ノ後ハ本法ニ依リ保安林トナリ、法第二十六條ノ禁止ヲ受クルモノナリ
本條ニ於テ通知スヘキモノハ、單ニ森林所有者ノミニ限リ、第十八條ノトキノ如ク、
土地所有者及土地ニ付登記シタル權利者ニ通知セサルハ、是レ本條ノ處分ニ依リ、

森林所有者以外ノ土地所有者及土地ニ付登記シタル權利者ハ、使用收益權ヲ有セサルヲ以テ、直接苦痛ヲ感スルコトナク、此ニ依リ制限、禁止セラルル事項ナキ爲ナリ

第二十四條 保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ、訴願ヲ提起スルコトヲ得、違法ニ權利ヲ侵害セラレタリトスルトキハ、前條告示ノ日ヨリ六十日以内ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ハ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服ナル直接利害ノ關係アルモノニ對シ權利伸張ノ途ヲ開キタルモノトス
而シテ舊法ニハ行政訴訟ノ提起ノミヲ許シタリシモ、新法ニ於テハ處分ニ不服アルトキハ、訴願、違法ニ權利ヲ侵害セラレタルトキハ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキコトトシタルヲ以テ、權利伸張ノ途ヲ擴張セラレタルモノトス、即チ前者ハ不服ノ如何ナル事由ヲ問ハス、苟モ編入解除ニ關スル處分ニ不服ナランカ、利益ノ侵害ト權利ノ傷害トニ論ナク、訴願ノ提起ヲ許シタルモノニシテ、後者ハ法規違反ノ處分タラサルヲ得ス、故ニ假令權利ヲ侵害セラレタリトスルモ編入解除ノ處分ニシテ、法規

ニ違反シタルモノニアラサル以上ハ、行政訴訟ヲ提起シ得サルナリ、尤モ爰ニ違法トノ意義ハ、單ニ主務大臣ニ於テ森林法其ノ他法令ニ違反シタルノミナラス、地方長官ノ手續ヲ誤リタル場合ヲモ、總テ包含スルモノトス、例ヘハ第十八條ノ規定ニ違反シ森林所在ノ市役所町村役場ニ揭示ヲ爲ササルカ如キ、若ハ告示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル後、保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ニ付議スヘキヲ三十日以内ニシテ付議シタルカ如キモ違法ナリトス

第二十五條 地方長官ニ於テ保安林ノ編入ニ關シ必要アリト認ムルトキハ、其ノ森林ニ於ケル木竹ノ伐採ヲ停止スルコトヲ得、但シ其ノ停止期間ハ一箇年ヲ超ユルコトヲ得ス
前項ニ依リ木竹ノ伐採ヲ停止セラレタル森林ト雖、保育ノ爲必要ナルトキ又ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ、地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得

本條ハ第十八條ノ手續ヲ爲スニ至ラサル以前ニ、地方長官ニ於テ保安林編入上必要アリト認定シタルトキハ、木竹ノ伐採停止ヲ命スルコトヲ得ヘキ權限ヲ規定シタルモノトス、則チ保安林編入前濫リニ木竹ノ伐採ヲ防止スルノ目的ヨリ設ケラレタルモノトス、然レトモ無期限ニ停止スルニ於テハ、恰モ地方長官ノ單獨命令ヲ

以テ禁伐保安林ニ編入スルト同一ノ效果ヲ生スルニ至ルヲ以テ停止期間ハ一箇年ヲ超ユルコトヲ得サルモノトセリ而シテ尙伐採停止期間内ト雖保育ノ爲必要ナルトキ又ハ已ムヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得セシムルコトトシ以テ森林所有者ノ採收權ノ融通ヲ計レリ尤モ本條ハ主トシテ監督上ノ規定ニ屬スルヲ以テ主務大臣直接監督ノ下ニ相當官廳ヲシテ經營ノ任ニ當ラシムル國有林ニハ適用セサル取扱トナリ居レリ明治四十一年六月三日林第三四五號山林局長通牒

本條ハ法第十八條ノ告示ヲ爲スニ至ルマテ種種豫備調査ノ進行中伐採ノ虞アルトキニ適用スヘキモノニシテ急速ノ處分ヲ要スルコト多シ故ニ必要地ヲ包含スル區域ヲ以テ停止シ得ルトキハ便宜尠ナカラスト雖法第三十二條ノ如ク明カニ區域若ハ箇所ヲ以テ制限シ得ル旨規定セルニアラサルヲ以テ法ニ明文アル場合ヲ除ク外類推解釋ハ許ササルモノト解シ必要箇所ノミニ付停止ヲナササルヘカラス而シテ其ノ處分告知ノ方法ニ付テハ何等規定スル處ナシト雖行政處分ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ被處分者ニ告知スルニアラサレハ被處分者ヲ拘束シ得サルハ行政法上ノ通説ナルヲ以テ地方長官ハ本人ニ通達スルト同時ニ第三者ヲシテ

了知セシムル爲慣行ノ公布式ヲ以テ告示スルヲ要スヘシ
地方長官叙上ノ處分ヲナシタルトキハ其ノ理由ヲ具シ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第二十六條 保安林ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ木竹ノ伐採傷害開墾又ハ土石切芝樹根草根埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲シ又ハ家畜ヲ放牧スルコトヲ得ス

本條ハ保安林編入後ニ於ケル制限ヲ規定シタルモノトス即チ保安林内ノ木竹ヲ伐採シ或ハ傷害シ又ハ林地ヲ開墾スルニハ其ニ林木ヲ奪除スヘキ方法ナレハ何レモ保安林編入ノ目的ニ反スル行爲ナリ而シテ茲ニ傷害トハ木竹ヲ伐採スルニアラスシテ自然木竹ノ枯死スヘキ手段ヲ爲スモノナリ例ヘハ樹皮ヲ剝キ樹根ヲ切斷シ或ハ樹幹ヲ切り廻スカ如キ行爲ヲ云フ
又土石切芝樹根草根埋木ヲ採取若ハ採掘スルトキハ地盤ノ崩壞土砂ノ流落ヲ促スノ原因トナリ又牛馬等ノ家畜ヲ放牧スルトキハ林地ヲ踏荒シ爲ニ土壤ヲ輕鬆ニシ或ハ樹木ノ皮ヲ剝キ爲ニ之ヲ枯死セシメ又稚苗ノ發育ヲ妨ケ爲ニ林相ヲ荒廢セシムル等危害ヲ與フルコト少ナカラス然レトモ地形地質伐採又ハ採收ノ方

法保安林ノ目的等ニ依リ、必スシモ之ヲ禁スルノ必要ナシ、依テ此等ノ作業ヲ爲スニハ必ス地方長官ノ許可ヲ得ルコトトセリ、即チ此等ノ行爲ニ對スル危害ノ有無ハ之ヲ地方長官ノ認定ニ一任シタルモノトス

元來本條ハ舊法ノ第十九條、第二十條ヲ改定シタルモノニシテ、大體ニ於テハ舊法ト同シキモ、其ノ不十分ナル點ヲ補充シタルニ過キス、即チ舊法ハ、保安林ノ皆伐ヲ禁スルモ、強チ伐採ヲ禁シタルモノニアラス、而シテ施業法、施業要領ヲ通達シタル後ハ、其ノ者ハ其ノ施業法ニ從フヲ要スルモ、第三者マテヲ束縛スルモノニアラサルカ故ニ、狡猾ナル者ハ第三者ヲシテ伐木セシムルカ如キコトアリ、是レ法文ノ欠點ナルヲ以テ、本法ハ總テ地方長官ノ許可ヲ要スルコトト爲シタルモノトス

本條ニ開墾ヲモ、地方長官ノ許可ヲ得レハ、之ヲ爲シ得ルコトト爲シタルハ、舊法トハ大ニ相違スル處ナリ、舊法ニ於テハ、保安林ヲ解除スルニアラサレハ、絕對ニ開墾ハ許可セサリシモ、本條ニ於テハ保安林ノ目的ニ何等ノ損害ヲ來ササル如キ場合ハ、許可スルコトヲ得ルモノニシテ、施行手續第十六條ニ、森林タル狀態ヲ失ハサル範圍内ニ於テ、許可スルコトヲ得ル旨規定セリ、然レトモ森林タル現狀ヲ失ハサル開墾トハ、炭竈ノ築造、一時的小屋掛、坑口ノ開掘、山葵田ノ開墾等、其ノ適用範圍狹キ

モノト解セサルヘカラス、田畑、宅地等ノ開墾ハ、明カニ森林タル狀態ヲ失ヒ、保安林タル實質ヲ損スルモノナルヲ以テ、先決問題トシテ解除ノ可否ヲ問ハサルヘカラス

保安林ノ施業ニ付テハ、尙次條ニ依リ施業保護ノ方法ヲ指定シ得ル旨規定アルヲ以テ、右ニ依リ指定ヲ受ケタルモノハ、其ノ範圍内ニ於ケル作業ハ、更ニ本條ニ依リ許可ヲ受クルヤ否、疑問トスル處ナリシニ、明治四十四年十二月二十日林第五四九六號山林局長通牒ニ依リ、第二十七條ノ處分アリタル保安林ニ付テモ、本條ノ禁止行爲ニ該當スルモノハ許可ヲ要スルコトニ解セラレツツアリ

茲ニ注意スヘキハ、本條ハ主トシテ監督上ノ規定ニ屬スルヲ以テ、國有林ニハ適用セサルモノナリ、何トナレハ國有林ハ、主務大臣直接監督ノ下ニ立チ相當ノ機關ヲシテ經營セシムルモノナレハ國土ノ保安ヲ害スルカ如キ虞アラサルヲ以テナリ

(明治四十一年六月三日林第三四五四號山林局長通牒)

第二十七條

主務大臣ハ保安林ノ所有者ニ對シ前條ノ外其ノ使用收益ヲ制限若ハ禁止シ又ハ施業若ハ保護ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

本條モ保安林ニ對スル制限ヲ規定シタルモノトス、抑モ保安林ニ對スル作業ニ就

保安林

テハ、前條列記ノ行爲ノミヲ制限スルモ、尙目的ヲ達シ得サル場合ナキヲ保シ難シ、故ニ本條ニ於テハ、主務大臣ニ於テ必要ト認メタルトキハ、前條列記ノ外、如何ナル使用又ハ收益ナリト雖、之ヲ制限若ハ禁止シ得ルモノトセラレタルノミナラス、積極的ニ施業若ハ保護ノ方法ヲモ、所有者ノ自由ニ一任セシメス、之カ施業及保護ノ方法ヲ指定シ、之ニ據ラシムルヲ得ヘキモノトセリ即チ保安林ノ伐採ハ、施行手續第十條ニ依レハ、擇伐ヲ以テ原則トシ、擇伐區域ハ、其ノ面積ノ三倍以上ナルヲ要シ、只保安ノ目的ヲ害セサル程度ニ於ケル、林種ノ改良、其ノ他特ニ必要アル場合ハ、皆伐ヲ爲サシメ得ルハ、一般保安林ニ對スル準則ナルモ、編入ノ目的及各箇所ニ對シ、適切ナル指定ヲ爲シ、樹種、作業種、輪伐齡、回歸令、造林、保護、撫育ノ方法ヲ定メ、或ハ副産物ニ對スル制限、禁止ヲ爲ス等、具體的ニ所有者ニ對シ、其ノ取扱方法ヲ知ラシムルハ本條ノ目的トスル處ナリ

地方長官、本條ノ規定ニ依リ、指定ノ必要ヲ認メタルトキハ、調書(施手第三號第四號様式)ヲ作製シ、之ヲ農商務大臣ニ具申シ(施手二九ノ一號)、主務大臣ニ於テ其ノ處分ヲ爲シタルトキハ、之ヲ地方長官ニ通知シ(施手一四)、地方長官ハ、之ヲ保安林所有者ニ傳達スヘキモノトス(施規一一)、但シ國有林ニ付テハ、主務省ヨリ直ニ所轄官廳ニ

通知スルモノトス(明治四五年第二六五)但シ本法第三十七條ノ二ノ委任ヲ受ケ、地方長官ニ於テ、本條ノ指定ヲ爲スモノハ、直ニ保安林所有者ニ通知スヘキナリ

第二十八條 木竹ノ伐採ヲ禁止セラレタル保安林ノ所有者又ハ立木竹ノ所有者ハ、之ニ因リテ生シタル直接ノ損害ニ限り、其ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

前項保安林ノ所有者カ前條ノ指定ニ依リ造林ヲ爲シタルトキハ、其ノ造林ノ費用ハ前項ノ損害ト見做ス

前二項ノ損害ハ政府之ヲ補償ス但シ政府ハ保安林編入ニ因リ特ニ利益ヲ受ケル公共團體若ハ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシメ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第一項及第二項ノ損害ノ算定方法及其ノ補償請求期間ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

本條ハ保安林編入ノ爲ニ生シタル損害補償ニ關スル規定ニシテ、之ヲ四項ニ區別セリ、第一項ハ、補償ヲ求ムヘキ損害ハ、單ニ木竹ノ伐採ヲ禁止セラレタル爲、直接ニ生シタル損害ニ限り、其ノ他ニ於テハ、補償ヲ求ムルコトヲ得サルモノトシ、第二項ハ、第一項ノ例外トモ稱スヘキ規定ニシテ、即チ第二十七條ニ依リ指定セラレ造林ヲ爲シタルトキハ、其ノ植樹カ、未タ伐採期ニ至ラス、從テ伐採ヲ禁止セラレサレハ、

何等ノ損害ナキニ似タリト雖、元來伐採ノ見込ナキ土地ニ造林シタルモノナレハ、之カ造林費用ヲ第一項ノ損害ト看做シ、補償ヲ求メ得ヘキモノトセラレタリ
抑モ保安林編入ノ爲ニ生スル損害ニ就キテハ、相當補償ノ制度ヲ設クルコト至當ナリト雖、普通保安林ニ編入シ、作業ヲ制限シタル爲、實際ニ於テ損害ヲ生スルコト甚タ稀ニシテ、時トシテ國家ノ制限カ却テ森林ノ荒廢ヲ回復シ、所有者ノ利益トナル場合少ナカラス、假令此等ノ制限ニ依リ、多少ノ損害ヲ生スルコトアルモ、其ノ算定ノ方法困難ナルカ爲、之カ賠償ニ伴フ種種ノ弊害ヲ來スノ虞アリ、故ニ本條ハ原則トシテ、立木竹ノ伐採ヲ禁止セラレタル爲、作業上直接ニ受クヘキ損害ニ限ルモノトシ、例外トシテハ指定ヲ受ケ、保安林ニ造林ヲ爲シタル費用ノ賠償ヲ求メ得ヘキモノトセリ、是レ多ク回收ノ見込ナキ資本ヲ投セシメタルヲ以テ、斯ク定メタルモノトス、而シテ本法第三十七條ニ依レハ損害賠償請求ハ、御料林及國有林ニハ、之ヲ適用セサルコトトセリ、是レ國有林ニ就テハ、權利義務混同ノ法理ニ依リ、素ヨリ然ルヘキ處ニシテ論ヲ俟タサルナリ、御料林ハ、帝室ノ私有財産ナリト雖、帝國ノ組織上、帝室ハ國家ニ準スヘキモノナルノミナラス、補償ヲ請求スルカ如キハ、帝室ノ尊嚴ヲ汚損スヘキ嫌ナキニ非ス、旁適用セサルモノナラム、然レトモ御料地及國有

地ノ上ニ存在スル部分林ハ、造林者ノ有スル分收權ノ部分ニ限リ、損害補償請求シ得ヘキコトトセラレタルハ、明治四十年十二月二十六日農商務省令第二十二號ノ示ス處ナリトス

第三項ハ、損害賠償ノ責任者ヲ定メタルモノニシテ、即チ損害ハ原則トシテ政府ニ於テ、之ヲ補償スヘキモノトセラレタルモ、保安林ニ編入シ、且造林ヲ強要セラレ、或ハ木竹ノ伐採ヲ禁止セラレタル爲ニ、所有者ニ於テ損害ヲ蒙ルニ到ルハ、他ノ利益ヲ保護スルノ必要ニ出テタルモノニ外ナラサルヲ以テ、其ノ享利者ヲシテ、賠償セシムルヲ至當ナリトス、故ニ保安林編入ニ因リ、特別ニ利益ヲ受クル所ノ公共團體若ハ私人ヲシテ其ノ補償ノ全部、又ハ一部ヲ負擔セシメ、國稅徵收法ノ例ニ依リテ徵收シ得ヘキコトトセリ、尤モ任意規定ナルヲ以テ、政府ノ任意ニ依リ特別ニ利益ヲ受クル者アリト雖、之ヲ負擔セシメサルモ、敢テ違法ニアラス、然レトモ主務省ノ方針トシテハ、利益ヲ受クル者ニハ可成損害ヲ負擔セシムルモノノ如シ

第四項ハ、損害ノ算定方法及其ノ補償請求期間ハ命令ヲ以テ定ムヘキコトヲ規定セラレタルモノニシテ、即チ之カ補償手續ハ森林法施行規則第十二條乃至第十八條等及明治四十五年七月二日農商務省令第十七號保安林特別補償規則ニ定メタ

保安林ニ於テ、禁伐ノ指定ヲ爲スハ、現林木ヲ失フトキハ、再度生立ノ困難ナルトキ、或ハ國土保安上、大ナル危害ヲ及ホス虞アルトキ又ハ現存立木ヲ失フトキハ、他ヲ以テ代用スヘカラサル場合等ニシテ、彼ノ山岳林ノ頂部ニ於ケル森林ノ如キ、殆ント更新ノ見込ナキ部分存スヘク、額雪、墜石、防止或ハ土砂扞止等ノ保安林ニシテ、林木ヲ伐採スルトキハ、直ニ危害ヲ惹起スル虞アル場合、或ハ風致目標等ノ保安林ニシテ、他ヲ以テ代用シ難キ場合等ハ、禁伐ノ指定ヲ爲スハ當然ナルモ、是レ利用ニ對スル最大制限ナルヲ以テ、注意ヲ要スヘキ事項ナリ、而シテ禁伐ノ指定ハ、法第二十七條ニ依リ、行フモノニシテ、其ノ必要ヲ認ムルトキハ、樹種、作業別、及地方ノ慣行等ヲ斟酌シテ、伐期ヲ定メ、伐採禁止ノ際、地方長官ニ於テ、保安林所有者ニ通達スルコトヲ要ス、右通知ヲ受ケタル森林所有者及立木所有者ハ、其ノ森林ノ平均年齢、前記伐期ニ達シタルトキ、補償ノ請求ヲ爲シ得ルモノニシテ、伐採禁止ノ命ヲ受ケタルトキ、既ニ伐期ニ達シタルモノハ、其ノ命令ヲ受ケタル日ヨリ九十日、其ノ未タ伐期ニ達セサル森林ニアリテハ、其ノ伐期ニ達シタル年ノ初メヨリ末日迄ニ、請求ヲ爲ササルヘカラス、造林ニ依ル、補償請求ハ、各年分ヲ翌年ノ三月三十一日迄トス、而シ

テ補償金算定ノ方法ハ、既ニ伐期ニ達シタルモノハ、伐採禁止當時伐期ニ達セサルモノハ、其ノ伐期ニ達セル時ニ於ケル、立木竹ノ時價ヨリ三割ヲ減シタルモノヲ、立木竹ノ價額トシ、其ノ年利五分ヲ、毎年ノ直接損害ト看做ス、造林ニ依ルモノハ、地摺費、植付費、苗木代等、直接造林ニ要シタル費用ニシテ、何レモ間接ノ費用、例ヘハ、彼ノ人夫ノ慰勞手當、或ハ禁伐林ニ編入セラレタル爲、人夫解傭ノ損害等ハ包含スヘキモノニアラス

禁伐保安林ノ所有者カ、叙上ノ損害請求ヲ爲サムニハ、請求書ノ前記方法ニ依ル損害算定書ヲ添附シ、之ヲ地方長官宛差出スモノトス、而シテ單ニ立木竹ノミノ所有者ヨリ、請求セムトスルニハ、其ノ所有ヲ證スヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス、地方長官右書類ヲ期間内ニ受理シタルトキハ、其ノ算定ノ適否ヲ調査シ、損害算定書ヲ作成シ、利益ヲ受クル關係者ニ、其ノ全部或ハ一部ヲ負擔セシムル必要アルトキハ、其ノ要否及金額ニ付、意見ヲ添附シ、主務大臣ノ認可ヲ得、地方長官ハ補償金決定交付ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第二十九條 前條第三項ニ依ル政府ノ補償金額ニ付不服アル者ハ、其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ要ス

前條第三項但書ニ依ル負擔ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

本條第一項ハ補償金額ニ付不服者ノ權利伸張ノ途ヲ開キタルモノトス、舊法ハ此ノ場合ニ於テハ、行政裁判所へ出訴スルコトヲ得セシメタルモ、金錢ニ關スル裁判ナルヲ以テ本法ニハ普通裁判所ニ出訴セシムルコトトセラレタルハ、他ノ法律ノ規定ニ倣ヒタルモノナリ(土地收用法等)

補償金額ノ算定方法ハ、命令ニ依リ、夫々規定セラレアルモ、伐期並ニ時價ノ認定等ニ於テ、政府ノ決定ニ満足セサル者ナキヲ保シ難シ、此ノ場合ニ於テハ、一定ノ期間内ニ、普通裁判所ニ出訴シ、自己ノ權利ヲ主張スルヲ得セシムヘキモノトス。而シテ處分官廳ハ、地方長官ナルヲ以テ、訴訟ノ被告ハ地方長官ナラサルヘカラス、其ノ出訴期間ヲ九十日トシ、本法第二十四條ノ行政訴訟訴願ノ期間ト權衡ヲ欠キ、亦通常訴訟ノ一箇月ニ比シ、著シク長キ感アルモ是レ事數ノ計算ニシテ、時價ノ高低伐期到達ノ有無等ニ關シテハ、十分ノ調査期間ヲ與ヘサルヘカラサルニ依リ、私人ノ利益ヲ保護セントスル趣旨ニ外ナラス

第二項ハ特別ノ利益ヲ受クル者トシテ補償ノ負擔ヲ命セラレタル公共團體、若ハ私人ノ不服者ニ對シ、救済方法ヲ與ヘタルモノトス、故ニ全然負擔ヲ命セラレヘキ者ニアラサルトキハ勿論、假令負擔ヲ命セラレヘキ享利者ナリトスルモ、其ノ負擔歩合ニ付不服アルトキハ、之カ處分ノ廢止若ハ變更ヲ訴願シ、得ヘキモノトセリ而シテ保安林ノ編入、解除處分ハ農商務大臣ナルヲ以テ、右ニ訴願ヲ提起スヘキモ、處分官廳ハ、前述ノ如クナルヲ以テ、地方長官ヲ經由スヘキナリ

第三十條

先取特權、質權又ハ抵當權ハ第二十八條第一項ニ依リ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

本條ハ補償金ヲ受クル者ノ債權者ノ追及權ヲ規定シタルモノトス、而シテ先取特權トハ、民法第三百三條乃至第三百四十一條ニ規定シアリテ、此ノ債權者ハ普通ノ債權者ニ先チテ、自己ノ債務ノ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ナリ、即チ之カ意義ヲ明示シタルハ、民法第三百三條ニ先取特權者ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ從ヒ其ノ債務者ノ財産ニ付キ、他ノ債權者ニ先チ、自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ストノ規定是レナリ、又質權ハ、民法第三百四十二條乃至第三百五十一條ニ規定シアリテ、其ノ第三百四十二條ニ質權者ハ其債權ノ擔保トシテ、債務者又ハ第三者ヨリ受取リタル物ヲ占有シ、且其物ニ付キ、他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受

クル權利ヲ有ス下規定シタルハ、質權ノ作用ヲ明示シタルモノナリ、抵當權ハ、民法第三百六十九條乃至第三百九十八條ニ定メラレタルモノニシテ、之カ意義ハ、民法第三百六十九條第一項ニ「抵當權者ハ、債務者又ハ第三者カ、占有ヲ移サスシテ、債務ノ擔保ニ供シタル不動産ニ付キ、他ノ債務者ニ先チテ、自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス」下規定セリ、凡ソ此等ノ權利者ハ、本條ノ場合ニ於テハ、何レモ補償金ヲ受クヘキ保安林ノ上ニ、物權ヲ有スルモノナレトモ、補償金ニ關シテハ、本條ノ規定アラサレハ適用アラサルモノナリ、何トナレハ第二十八條ノ補償金ハ、先取特權ヨリ見レハ、物上代位ニ均シキモノナリ、然ルニ民法第三百四條第一項ニハ「先取特權ハ其目的物ノ賣却、賃貸、滅失又ハ毀損ニ因リテ、債務者カ受クヘキ金錢其他ノ物ニ對シテモ、之ヲ行フコトヲ得」トアリ、第二項ニハ「債務者カ先取特權ノ上ニ、設定シタル物件ノ對價ニ付亦同シ」下規定シアルノミ、然ラハ保安林ノ木竹ノ伐採ヲ禁止セラレタルハ、保安林ノ賣却ニアラス、賃貸ニアラス、滅失又ハ毀損ニアラス、況ンヤ權利ノ設定ニハ勿論アラサレハナリ、故ニ先取特權トシテハ、第二十八條ノ補償金ニ對シ、優先權並ニ追及權ナキモノナリ、又質權ヨリ見レハ、擔保トシテ受取リタル物件ニ付テハ、優先權ト追及權ヲ有スレトモ、補償金ハ、擔保物其レ自體ニアラサレハ、

此等ノ權利ナシ、又抵當權ノ意義ハ、前說示ノ如シ、而シテ之カ目的ノ範圍ヲ規定シタル第三百七十條若ハ抵當權ニ準用スヘキ規定タル第三百七十二條等ニ依ルモ、抵當權カ補償金ニ及ハサルハ明カナリ、故ニ本條ニ於テ此等ノ權利者ヲ保護スルノ精神ニテ、補償金ニ就キテモ、權利ヲ行使スルコトヲ認メタルモノナリ、然レトモ元來金錢ヲ目的トスル處ノ權利ノ執行ハ、他ノ動産若ハ不動産ニ對スルモノト異ナリ、一見土地ノ所有者若ハ關係人ノ手ニ入リシ上ハ、其ノ私財ト混同シテ、權利ノ執行上困難ナルモノナルヲ以テ、其ノ者ノ手ニ渡ラサル前ニ、差押ヲ爲ササルヲ得サルモノトセリ

第三十一條 國有地ノ上ニ存在スル森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルトキハ政府ハ其ノ借地料ヲ免ス

本條モ保安林ニ關スル特典ヲ規定シタルモノトス、即チ國有地ヲ借用シテ、植樹スル者ハ、多ク其ノ目的營利ニアラサルナシ、然ルニ多大ノ造林費ヲ投シ經營シ、漸ク成林セシメ、之カ資金ヲ回收スルニ至ラサルニ、保安林ニ編入セラレ、自由ニ作業ヲ行フコト能ハサルノミナラス、種種ノ制限ヲ受ケ、義務ヲ負擔セシムルニ於テハ、到底當初ノ目的ノ如ク、利益ヲ得ル能ハサルノミナラス、却テ損失ヲ來スコトナキヲ

保シ難シ、然ルニ保安林ハ、國家的事業ナリ、此ノ事業ノ爲、個人ノミノ利益ヲ犠牲ニ
供シ、國有地ノ借地料ヲ徴スルハ、情理ノ許サナル處ナリ、故ニ本條ニ於テ借地料ヲ
免除スル事トセリ、而シテ本條ハ政府ノ任意ニ依リ、之カ免否ヲ撰擇スルモノニア
ラス、國有地ノ上ニ存在スル森林ニシテ、保安林ニ編入セラレタルトキハ、政府ハ必
ス其ノ借地料ヲ免スヘキモノトス

第三十二條 主務大臣國土保安上必要アリト認ムルトキハ保安林以外ノ
森林ニ付區域又ハ箇所ヲ定メテ開墾ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

本條ハ國土保安上ノ目的ヨリ森林ノ利用ヲ制限シタル規定ナリトス、即チ國土保
安上、必要如何ニ依リ、保安林ニ編入スルニ至ラサル程度ノ森林ト雖、豫メ區域又ハ
箇所ヲ定メ、開墾ヲ制限スルカ又ハ禁止スルヲ得ルモノトセリ、但シ森林ノミニ適
用スヘキモノナルヲ以テ、伐採、災害等ノ爲、立木ノ闕如セル跡ヲ開墾スルトキハ、森
林開墾ニアラスト稱セサルヲ得ス、然ルニ森林ノ意義ハ現狀主義ヲ採用セリト雖、
森林經營ノ性質上、伐採スルトキハ林木闕如セル部分ヲ生スルハ、當然ノ事ニシテ、
森林經營ノ目的ト相反スルニアラス、故ニ一時的ノ伐採、災害等ノ爲林木闕如スル
コトアルモ、尙他ノ用途ニ供セラレサル間ハ、森林ト看做サレ、本條ノ適用ヲ受クル

モノトス

抑モ森林ノ所有者ハ絕對無限ニ之ヲ使用シ收益シ且之ヲ處分スルノ權利アルニ
拘ハラズ、斯ノ如ク拘束ヲ受クルハ、國土ノ保安上、蓋シ已ムヲ得サルモノトス、夫レ
森林ノ開墾ハ、樹木ヲ伐採シ又ハ之ヲ燒キ拂ヒ、土壤ノ固著力ヲ失ハシメ、且之ヲ輕
鬆ニシ、加之從來被覆シタル場所ヲ裸出セシムルモノナレハ、其ノ土地若シ山腹急
斜ノ所ナルトキハ、強雨ニ際シ、土砂ヲ流シ、崩壞ヲ來シ、出水ヲ助クル等、國土ノ保安
ニ危害ヲ與フルコト鮮少ナラス、然ルニ所有者ハ、只一己ノ私利ノミヲ是レ、圖リ、是
等ノ危害ヲ顧ミル者少ナキニ因リ、若シ開墾ヲ自由ニ放任セシムルトキハ、爲ニ如
何ナル危害ヲ公衆ニ與フルヤモ圖リ難シ、故ニ此等ノ危害ヲ豫防センカ爲ニ、其ノ
危害程度ヲ調査シ、或ハ開墾ヲ制限シ、之カ開墾ヲ爲サントスル場合ハ、許可ヲ受ケ
シムルモノトシ、或ハ開墾ヲ禁止シ、以テ國土ノ保安ヲ維持スルコトトセリ、而シテ
開墾ノ意義ハ、第三條ニ明示セル如ク、土地ノ形質ヲ變更スル行爲總テヲ指スモノ
ニシテ、其ノ範圍、廣汎ナルカ爲ニ、必要ニ依リ、或開墾行爲ヲ禁止シ、或開墾行爲ハ制
限スルアリ、其ノ位置、地形、地質、國土保安上ノ關係ニ依リ、異ナルハ、當然ニシテ、各箇
所ニ依リ適當ノ禁止制限ヲ付セサルヘカラス、然ルニ茲ニ制限ト稱スルハ、開墾面

積開墾方法設備ノ方法等、實質的ノ制限ヲ含ムノミナラス、形式上ノ制限、例之知事ノ許可ヲ受クルニアラサレハ、開墾ヲ爲スコトヲ得スト謂フモ、亦制限タルヘキナリ、斯ノ如ク森林ノ開墾ヲ制限又ハ禁止シタルトキハ、其ノ區域又ハ箇所ヲ公示シ、以テ之カ所有者ヲシテ、使用、收益處分ノ制限ヲ知ラシメ、以テ過誤ナカラシメサルヘカラス

七〇

本條ニ依ル處分ノ豫備調査ハ、地方長官之ヲ爲シ、本法施行手續第十七條ニ規定セル調査、圖面ヲ作製シ、主務大臣ニ具申シ、決定ヲ仰クヘキモ、公、私社寺有林ニ付テハ、本法第三十七條ノ二ノ委任ニ依リ、地方長官限リ、之ヲ處分スルコトナレリ
舊法第六條ニ於テハ、森林ノ開墾ハ悉ク府縣知事ノ許可ヲ受ケシムルモノト定メアリタルモ、現行法ハ單ニ國土保安上、必要アル區域又ハ箇所ニ限リタルハ、森林所有者ノ權利ヲ尊重シ、國土ノ保安上、必要ナキ森林ハ、自由ニ使用、收益及處分セシメント欲スルニ外ナラス、又國土ノ保安上、必要アリテ開墾ヲ禁止スルカ如キ、區域又ハ箇所ハ保安林ニ編入スル方得策ナルカ如シト雖、保安林ハ利用上ノ制限ヲ受クルコト多ク營林上困難ヲ感スルコト少カラサルヲ以テ、保安上危害少ナキ森林ニ對シテハ、務メテ之ヲ保安林ニ編入セスシテ自由ニ利用セシメ、只開墾ヲノミ禁止

スルヲ適當トスル場合頗ル多カルヘシ、是レ保安林ニ編入スル以外ニ、本條ノ制限ヲ設ケタルモノトス

本條ニ依リ開墾ヲ禁止又ハ制限セラレタル森林ヲ開墾シタルトキハ、森林所有者ハ、本法第九十七條ニ依リ、二百圓以下ノ罰金ニ處セラルヘク、若シ他人カ、開墾禁止ノ森林ヲ開墾シタルトキハ、本法第九十三條第二項ニ依リ、六月以下ノ懲役、刑法施行法ニ依リ重禁錮ヲ懲役ト變更ス、及二百圓以下ノ罰金ニ處セラルヘキモノトス

第三十三條 第二十六條ノ規定ニ違反シ、第二十七條又ハ前條ノ制限、禁止

若ハ指定ニ違反シタル者アルトキハ、地方長官ハ造林其ノ他復舊ニ必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得

本條ハ第二十六條及第二十七條、第三十二條ノ處分ニ違反シタル者アルトキノ處分ニ關スル、地方長官ノ權限ヲ規定シタルモノトス、即チ以上列舉ノ條項、若ハ處分ニ違反シタルトキハ、如何ニ之ヲ處理スヘキヤト云フニ、單ニ本法第九十七條、第九十八條ノ處罰ヲ加フルニ止マラス、積極的ニ、地方長官ハ、造林其ノ他復舊ニ必要ナル行爲ヲ命シ、以テ指定又ハ禁止若ハ制限ノ處分ヲシテ、事實上效力アラシムルモノトセリ、若シ然ラスシテ、違反者ヲ處罰スルニ止メ、原形ニ復舊セシメサルカ又ハ

保安林

七一

指定ノ通り、造林セシメサルトキハ、公益保護ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ至ルヘシ、故ニ違反者ニ對シ、處罰ノ外ニ尙森林復舊ノ義務ヲ負ハシメタルモノトス

第三十四條 第十一條ノ規定ハ前條ニ依リ造林ノ命令ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

本條ハ前條ニ依リ造林ノ命令ヲ爲シタルニ、受命者ニ於テ、造林セサルトキノ處分方法ヲ規定シタルモノトス、即チ造林ノ命令ヲ受ケタル者カ、造林ヲ怠リタルトキハ、行政官廳ニ於テ、自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲スカ又ハ公共團體ヲシテ、之ヲ爲サシメ、造林費用ハ、國稅徵收法ノ例ニ依リ、之ヲ徵收シ得ルコトトセリ
然レトモ當局者ノ方針ハ、可成丈公共團體ヲシテ、義務者ト協議ノ上之ヲ執行セシメ、其ノ費用ハ徵收セス、地上權設定、若ハ部分林契約等、適宜ノ方法ヲ執ラシムル旨趣ナリ、明治四十年十二月林發第二七一號山林局長通牒

第三十五條 保安林ノ編入解除ニ關スル調査及國土保安ニ關シ地方長官ノ行フ調査ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス、但シ北海道ニ於テハ北海道地方發沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス

本條ハ保安林調査費ノ負擔者ヲ規定シタルモノトス、則チ舊法ニ於テハ之カ規定

缺如セルヲ以テ、實施上農商務、內務ノ兩省ニ於テ議論一致セサルコトアリタルヤノ說ナリ、即チ農商務省ニ於テハ、保安林ノ編入ハ、延テ國家全體ノ利害ニ關スルモノトスルモ、概シテ直接ニ利益ヲ受クルハ、其ノ地方ナルヲ以テ、之カ調査ハ、地方事業ニ屬シ、從テ其ノ費用ハ、地方費ノ負擔トスヘキモノニシテ、只之カ監督ヲ爲スハ、國ノ事務ニ屬スルヲ以テ、其ノ監督ニ要スル技術官ノ俸給、旅費等ニ限り、國庫ノ負擔タルヘキモノナリトノ意見ニ反シ、內務省ハ全然國庫支辨トスヘキモノナリトノ主張ニテ、府縣ノ豫算編成上多少ノ混雜ヲ惹起シタルコトアリタルヤノ趣キナリ、故ニ將來スル議論ノ生セサル爲、明カニ規定シタルモノナラン、蓋シ保安林ハ國土保安上ノ必要ヨリ編入セラルト雖、其ノ實多クハ、地方ニ利益ヲ受クヘキモノナレハ、之カ調査ハ、地方事業トシ、其ノ費用ヲ地方ノ負擔トシタルハ當然ナリトス、只沖繩縣ノ如キ特別ノ事情アル地方ヲ除外シタルハ、是レ已ムヲ得サルモノト言ハサルヘカラス

然リ而シテ將來本費ニ關シ、府縣會等ニ於テ、濫リニ之カ削減ヲ加ヘ、或ハ否決シタル場合ハ、本條ニ依リ法律ノ命スル處ノ負擔タラシメタルヲ以テ、結局義務費トシテ之ヲ強要シ得ルモノトス

第三十六條 主務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ原野、山岳其ノ他ノ土地ニシテ第十四條第一號乃至第五號ノ場合ニ該當スルモノニ付本章ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

本條ハ原野、山岳其ノ他森林以外ノ土地ニモ、保安林編入、開墾制限、禁止等、國土保安上必要アル場合ハ、本法第三章保安林ニ關スル規定ヲ準用スヘキコトヲ定メタルモノトス、而シテ其ノ二ハ、必要ノ範圍ニ對シ制限シタルモノナリ、即チ漠タル規定ヲ以テ、行政官ノ自由處分ニ委スルハ危險ナリトシテ之カ範圍ヲ單ニ本法第十四條第一號乃至第五號ニ該當スル必要アルトキニ、之ヲ準用スヘキコトニ制限シタルモノトセリ即チ

〔土砂ノ壞崩、流出ノ防備ノ爲必要ナルトキ〕

〔飛砂ノ防備ノ爲必要ナルトキ〕

〔水害、風害、潮害ノ防備ノ爲必要ナルトキ〕

〔積雪又ハ墜石ニ因ル危險ノ防止ノ爲必要ナルトキ〕

〔水源涵養ノ爲必要ナルトキ〕

ニ限ラレタルモノトス、此等ノ必要アルトキハ、國土保安上重大ナル關係ヲ有スル

モノト認メタルモノナラム、然レトモ本條ニ對シテハ稍遺憾ナキ能ハ、何トナレハ本條ハ舊法第二條ト同シク本法第十四條第六號乃至第九號ニ該當スルモノヲ除外シタルコト是レナリ、第六號以下ト第五號以上トハ、國土ノ保安上輕重ノ差アル理由ヲ發見シ得サルナリ、就中航行ノ目標、及公衆ノ衛生ノ爲、必要ナル場合ノ如キハ、除害の必要アルヲ以テ、寧ロ公安維持上、第五號ヨリ重大ナルモノトス、然ルニ之ヲ除外シタルハ、單ニ舊法ヲ襲踏シタルノ非難ヲ免レ能ハサルヘシ

第三十七條 第十八條第二項、第二十八條乃至第三十條ノ規定ハ御料林及國有林ニ之ヲ適用セス

本條ハ御料林、國有林ニ對シ、特例ヲ規定シタルモノトス、即チ保安林ノ編入、解除ヲ爲ス場合ニハ、普通ハ地方森林會ノ議ニ付スルモ、御料林、國有林ハ、此ノ手續ヲ爲スヲ要セサルモノトセリ、元來地方森林會ニ付議スルハ、處分ノ公平ヲ望ミ、苟モ所有權ヲ不當ニ制限スルカ如キコトナキヲ期シ、以テ鄭重ニ審議セシムルモノナリ、然ルニ國有林ハ勿論、御料林モ之ニ準スヘキ性質ノモノナレハ、政府ニ於テ不當ノ制限ヲ加フルカ如キ虞ナカルヘシ、若シ假令是レアリトスルモ、自己ノ行爲ニ依リ制限ヲ受クルモノナレハ、自業自得ト言ハサルヘカラス

又補償ニ關シテハ、政府ニ於テ之ヲ補償スヘキコトヲ原則トセルヲ以テ、國有林ニ付テハ、權利義務混同ノ法理ニ依リ、第二十八條乃至第三十條ヲ適用セサルハ當然トス、御料林モ帝室ノ威信上、國土保安ノ爲損害ヲ受ケタルトテ、之ヲ補償セシムルハ妥當ナラサルニ依リ、是レ亦國有林ト同様、補償ノ規定ヲ適用セサルモノトス、叙上ノ理由ヲ以テ御料地又ハ國有地ノ上ニ存在スル部分林ノ造林者ノ受ケタル損害ノミハ、補償請求シ得ルモノトセリ、是レ則チ明治四十年十二月農商務省令第二十二號ノ規定アル所以ナリトス

第三十七條ノ二 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本章ニ規定シタル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得(四十四年六月十七日法律第七十五號)

本條ハ保安林、開墾禁止、制限等、國土保安上ニ關スル處分權限ノ一部分ヲ地方長官ニ委任シ得ルコトヲ規定シタルモノナリ、是レ事務簡捷ヲ圖ルト、同時ニ處分ノ敏捷ヲ期シタルモノトス、而シテ明治四十四年七月十一日農商務省令第二十六號ニ依リ、處分權限委任セラレタル處ヲ見ルニ左ノ如シ

一、保安林ニ編入シ又ハ編入セサル處分權限ハ、委任セラレタリ、然レトモ御料地又ハ國有地ヲ編入又ハ不編入處分スル場合若ハ森林法第二十一條ニ依リ、利害關係者ヨリ異議ノ意見書ヲ提出アリタルモノ及地方森林會ノ決議ト地方長官ノ意見ト一致セサルモノヲ處分セムトスルトキハ、地方長官ヲシテ、關係書類ニ意見書ヲ添附シ、差出サシメ、農商務大臣ニ於テ之ヲ處分スルモノトス、是レ御料地又ハ國有地ニ關シテハ、法第三十七條ニ於テ特例ヲ設ケ、森林會ニモ付議セサルコトトセラレタルニ、地方長官ノ處分權限ニ委セムカ、其ノ處分ハ殆ト地方長官ノ單獨ノ意見ニ依リ決定セララルモノナレハ、或ハ過誤ナキヲ保シ難シ、加之御料地竝國有地共、地方長官ト大差ナキ官等ノ官廳ヲシテ、管理セシメツツアルニ之カ編入又ハ不編入ノ處分ヲ地方長官ノ單獨意見ニ依リ、處分セシムルハ、權衡ヲ得サル嫌アリ、旁農商務大臣直接ニ處分セララルコトトセラレタリ、又異議ノ申立テアルモノ及森林會ノ決議ト、地方長官ノ意見ト一致セサルモノノ如キハ、民意ヲ尊重シ、地方長官ノ專斷ニ委セサルモノトス、但シ法第二十一條ノ意見書提出アリタルモノトハ、其ノ異議ノ意見ト、地方長官ノ意見及地方森林會ノ決議ト同一ナル場合ハ、包含セサルモノナリ、例之保安林編入申請ニ對シ不編入ノ

意見書提出アリタル場合ニ於テ、地方長官不編入ヲ可トシ、地方森林會亦不編入ノ決議ヲ爲シタルトキハ、地方長官限リ、決定スルコトヲ得ルモノノ如シ

二、保安林ニ關スル森林法第二十七條ノ處分

是レ保安林ニ對スル施業指定處分ノ權限ナレハ、既ニ保安林ノ編入又ハ不編入ノ處分權限ヲ委任シタル以上ハ、當然委任セラレヘキモノトス、然レトモ御料地竝國有地ニ關シテハ、何レモ相當機關ヲ有シ敢テ地方長官ノ干涉ヲ要セサルモノトシテ、委任セサルモノトス

三、森林ノ開墾禁止竝制限處分

是レ前同斷、保安林處分ニ比シテハ、輕微ノ處分ニ付、委任セラレタルハ當然トス、而シテ御料地竝國有地ニ關シテハ、叙上ノ理由ニ依リ、委任セラレサルモノトス、最後ニ注意ヲ要スルハ、解除處分ハ、全然委任セラレサルコト是レナリ、編入處分ハ、所有權ヲ制限スルニ反シ、解除處分ハ、之カ制限ヲ解除シ、所有權ノ使用、收益處分權ヲ完全ニ復活スルモノナレハ、前者ニ比シ輕微ナルカ如シ、然ルニ前者ハ之カ處分ヲ地方長官ニ委任セラレタルニ拘ハラズ、後者ハ全然農商務大臣ノ處分權限ニ留保セラレタルハ、蓋シ一旦編入シタル保安林ハ、容易ニ解除セラレサル方針ヲ採ラ

レタリト、又一面解除處分ハ編入處分ヨリ弊害多カラムト認メラレタルニ因ルナラム

第五章 土地ノ使用及收用

本章カ新設ノ規定ニシテ、森林法改正ノ眼目ノ一タリ、夫レ森林ノ產物ヲ運輸搬出スルニ當リテハ、必スヤ搬路ノ必要ヲ感スヘク、又河川ノ通過ヲ要スヘシ、是レ森林所有者ニ於テ、現ニ林道ヲ開鑿シ、河川ヲ疏通シ、以テ運材ノ便ヲ圖レル所以ナリ、然ルニ從來是等ノ爲、他人ノ土地、水面ヲ使用シ得ルノ法令ヲ缺如セリ、故ニ相對協議ニ因ルノ外、他ニ途ナキヲ以テ、林業家ハ常ニ弱者ノ位置ニ立チ、土地所有者又ハ河川ノ管理者等ヨリ、往往不當ノ補償金ヲ要求セラレ、爲ニ林業經營上障害ヲ感シタルコト鮮少ナラサルモノトス、現在我邦ニ於テ、未利用林ノ多キハ、蓋シ之カ一原因タラサルヲ得ス、今ヤ本法ニ依リ、此ノ障害ヲ除去シ、林產物運輸搬出ノ必要ニ應ジ、他人ノ土地、水面ヲ使用スルコトヲ得セシメ、以テ森林經營上便宜ヲ與ヘムコトヲ期ス

第三十八條 本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第四十條第二項ニ依ル通知前

土地ノ使用及收用

使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ
通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

本條ハ此ノ第四章ニ於ケル關係人ト稱スルモノノ範圍ヲ規定シタルモノナリ、蓋シ關係人ト云フ文字ハ、極メテ廣義ノ意義ヲ有スルモノナレハ、豫メ法律ヲ以テ規定セザレハ不便少ナカラス、故ニ關係人トハ如何ナルモノナリヤヲ定メタルモノトス、則チ地方長官ニ於テ、森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲、又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲土地ノ使用許可ヲ個人ニ與ヘタルカ又ハ帝室林野管理局若ハ當該官廳ト使用方ニ關シ、協議調ヒタルトキ、其ノ土地ニ關シ、所有權又ハ地上權、借地權、永小作權、地役權等ノ權利ヲ有シタル者及其ノ通知後ニ於テ、通知以前ヨリ既ニ存在スル處ノ權利ヲ承繼シタル者ヲ以テ、本章ニ於ケル所謂關係人ト稱スルモノトス、然ラザレハ使用收益地ノ權利移轉ニ依リ協議ヲ煩雜ナラシメ事業遂行ヲ困難ナラシムル虞アルニ依ル故ニ是レ以外ノ者ハ、設令土地ヲ使用セラルルニ依リ、利害ノ關係アル者ニテモ之ヲ本章ニ於テハ關係人トハ云ハサルナリ

第三十九條 本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價使用料其ノ他土地所有者
及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

本條ハ此ノ第四章ニ於ケル補償金ノ意義ヲ定メタルモノトス、元來補償金ノ性質ハ、賣買、讓渡ノ如ク、雙方ノ意思カ、自然ニ合致シ、契約締結スル場合ニハ、補償トハ爲ラス、若シ然ラスシテ、當事者ノ意思ニ反シ、行政處分ニ依リ、土地ヲ收用又ハ使用セラレタルトキハ、之ニ對シ相當ノ賠償セサルヲ得ス、此ノ賠償ヲ名ケテ補償ト稱ス、故ニ其ノ結果ニ於テハ、其ノ土地ヲ賣却シタルカ又ハ貸付シタルト同シ、只不承諾ト否トニ論ナク、收用又ハ使用セラルル點ニ差別ヲ見ルノミ
而シテ本章ニ云フ補償トハ、如何ナルモノカト云フニ、第一對價即チ其ノ土地ノ價值ナリ、例ヘハ百圓ノ土地ニ、百圓ヲ拂フト言フ如キモノナリ、次ニ使用料ナリ、是レ亦、通常貸貸借ニ依リ得ヘキ料金を標準トスヘキモノトス
然リ而シテ土地ノ使用ハ、其ノ所有者ノ都合如何ニ拘ハラズ、強制スルモノナレハ、使用セラルル關係人ヨリ見レハ、其ノ土地ノ使用料ノミヲ得テ満足シ能ハサルヘシ、其ノ土地ヲ使用セラレタル爲ニ、被ル損害ハ多クノ場合ニ附隨スルモノナリ、此ノ損害ヲモ補償金ノ中へ包含セシムルモノトス
本章ニ於テ補償金ト云フ、意義ハ以上説明ノ如クナレハ、本法以外ノ法律ニテ損害賠償ノ請求ヲ爲ス場合ハ、茲ニ補償金ト稱セス、而シテ本條ニ通常受クヘキ損失ト

土地ノ使用及收用

云フ意義如何ト云フニ、例ヘハ或田畑ヲ使用セラレタル場合ハ、其ノ收穫ヲ得ルコト能ハサルニ依リ、其ノ收穫ニ對スル損害ハ通常受クヘキ損失ナリ、然レトモ田畑ヲ使用セラレタル爲、勞働ヲ休止シ或ハ生活ノ根據ヲ失ヒ、他ニ移轉スル必要ヲ生シタル如キ、此ノ中ニ入ラサルナリ、故ニ斯ル特別ノ損害ハ本法以外ノ法令ニ因リ賠償セシムヘキモノトス

第四十條

森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ、地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府ノ使用ニ係ルトキハ、當該官廳ハ之ヲ地方長官ニ協議スヘシ

地方長官ハ前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ協議調ヒタルトキハ、之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第一項ニ依リ土地ヲ使用セムトスル者ハ前項通知ノ後其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議スヘシ

本條ハ法定ノ土地ノ使用並許可協議ノ事ヲ規定シタルモノトス、即チ本條第一項ハ森林ヨリ產物ヲ運輸搬出スル爲ニ要スルカ又ハ運輸搬出ニ關スル設備、即チ木馬道ヲ開設シ、或ハ輕便、レールヲ敷設スル等ノ爲ニ必要アルトキハ、個人ニ在リテハ、地方長官ニ出願許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得セシメ、御料林又ハ

政府ノ使用スル場合ハ、當該官廳ハ、地方長官ニ協議シ、承諾ヲ得ルモノトセリ、是レ林業家ニ土地使用スル權能ヲ與ヘタルト同時ニ之カ濫用ヲ防止スヘキ爲其ノ使用ノ當否ヲ地方長官ニ審査決定セシムルモノナリ、例ヘハ迂回スレハ他人ノ土地ヲ使用セス、運輸搬出シ得ルニ、直通スル爲、他人ノ土地ヲ使用セントスルカ如キハ、事業上ノ利害ト土地所有者ノ利害トヲ比較稽査シ以テ之カ許否ヲ決定スルカ如キ是レナリ、故ニ林產物搬出者カ、出願若ハ協議シタル土地ノ使用方法不當ナル場合ハ地方長官ハ相當訂正ヲ爲シ許可シ、若ハ協議ニ應スヘシ、又林產物搬出運輸上ノ必要ヨリ土地使用セシムルコトカ不利ナリト認メタルトキハ、許可ヲ與ヘサルコトモアルヘシ、即チ地方長官ハ林產物運輸搬出上、土地ヲ使用スルコトカ適當ナリヤ否ヤヲ判斷スルモノニシテ、事業ノ見地ヨリ許可若ハ承認スルモノトス、而シテ森林ノ產物ナル意義ハ、主副產物ニ涉リ、其ノ範圍廣キモ、茲ニ稱スルハ、主產物ノミヲ指スモノニシテ、主產物モ見方ニ依リ、二様ノ意義アリ、即チ主目的物ヲ主產物ト爲ス説、及客觀的ニ木竹ノミヲ指スモノノ二種ナリ、本條適用ノ主產物トハ、木竹ノミヲ指ス意義ニシテ、其ノ他ハ包含セルモノニアラス

茲ニ土地ノ使用ナル意義ハ全ク地盤ノミニシテ立木及工作物ヲ含マサルヤノ疑

ナキ能ハス、之ヲ母法タル土地收用法ニ見ルニ、其ノ土地ナル意義ハ、全ク地盤ヲ意味シ、立木及工作物ヲ包含セスト解セラレ、適用上何等ノ疑義ヲ生セスト云フ、本法ニ於ケル土地ナル意義モ土地收用法ノ土地ナル文字ト、其ノ見解ヲ同シクシ、立木及工作物ヲ包含セサルモノニシテ、全ク森林産物運搬ニ關シ他人ノ土地ヲ使用シ得ルコトヲ規定シ、其ノ使用ニ係ル土地ノ立木及工作物ノ處分ニ付テ、別ニ規定スルコトナキハ、土地ノ使用ハ土地即チ地表ノ一部タル地盤ヲ使用スルニアリテ、其ノ上ニアル立木及工作物ヲ使用スルニアラサルヲ以テナリ、故ニ本條ニ依リ土地ヲ使用セラルルトキハ、其ノ地上ナル立木及工作物ハ、所有者又ハ關係人ニ於テ、之ヲ除去セサル可カラサルモノナリトス

第二項ハ地方長官ニ於テ、第一項ニ依リ土地ノ使用ヲ許可シタルカ又ハ使用官廳ト協議調ヒタルトキハ、其ノ旨土地所有者及關係人ニ通知スヘキモノトス、此ノ通知ハ頗ル重要ナルモノナリ、即チ或ハ本法第五十五條ノ地方森林會ノ裁決ヲ求ムル起算點トナリ、或ハ土地所有者及關係人カ其ノ土地ニ對スル施設經營上ニ關シ、之カ廢止變更ノ爲等ノ點ニ於テ豫知セシムルノ利益アルモノトス

第三項ハ土地ノ使用權ヲ取得スル手續ヲ規定シタルモノトス、則チ第一項ニ依リ

許可ヲ得又ハ協議調ヒタルノミニテハ、直ニ土地ヲ使用シ能ハサルモノニ付地方長官ニ於テ第二項ニ依リ土地所有者及關係人ニ通知シタル後土地ヲ使用セントスル者ハ、此等ノ者ニ對シ使用及補償金ニ關シ協議ヲ爲シ、相當ノ契約ヲ爲スヘキモノナリ、若シ然ラスシテ地方長官ノ許可ヲ得又ハ地方長官ト協議調ヒタルノミニテ土地ヲ使用センカ、土地所有者及關係人ノ權利ヲ蹂躪スルコト鮮少ナラサルニ至リ、此等ノ者ノ迷惑尠カラサルヘシ、即チ使用ヲ認諾スルニ於テモ、或ハ時期ノ如何ニ依リ、利害關係ノ差アルヘシ、或ハ位置ノ撰定モ協議上多少ノ融通ヲ爲スニ於テハ大ニ利便ナルヘシ、是レ本項ノ規定ニ依リ土地所有者、及關係人ノ權利ヲ保護シタルモノトス、故ニ若シ協議調ヒサル場合ニ於テハ本法第五十五條ニ依リ之カ救濟方法ヲ定メタルモノトス

第四十一條 前條第二項ノ通知後一箇年以内ニ同條第三項ノ協議ヲ爲ササルトキハ同條第一項ノ許可及協議ハ其ノ效力ヲ失フ第五十五條第一項ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ求メサルトキ亦同シ

本條ハ土地ニ付地方長官ノ許可又ハ協議ノ調ヒタルトキノ效力ニ關スル規定ナリ、即チ地方長官ニ於テ、土地使用ノ許可ヲ與ヘ又ハ協議調ヒタル旨土地所有者及

關係人ニ通知シタル後一箇年以内ニ、土地ヲ使用セントスル者ヨリ、土地ニ關スル權利ヲ取得スヘキコトヲ、土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲ササルカ又ハ第五十五條第一項ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ求メサルトキハ、地方長官ノ許可及協議ハ其ノ效力ヲ失フモノトセリ、斯ノ如ク制限ヲ附セサレハ、一度與ヘタル許可又ハ一回協議シタル效力ハ、永遠ニ存スルコトナリ、土地所有者及關係人ハ無期限ニ土地ノ利用上不便ヲ感セサルヲ得ス、是レ社會經濟上不利益ナリトス

爰ニ注意スヘキハ、本條ト第五十五條第一項ト重複スルカノ疑ヲ抱ク者アラム、然レトモ第五十五條第一項ハ廣ク土地ノ使用、收用、補償金、擔保ニ付、協議調ハサルトキノ訴權ヲ認メタルモノニシテ、本條ハ前條第一項ノ許可若ハ協議ノ效力ノ消滅又ハ成立ノ時期ヲ定メタルモノナリ、故ニ彼是其ノ作用ヲ異ニスルモノトス

第四十二條 土地ノ使用三箇年以上ニ亙ルトキ又ハ土地ノ形狀ヲ變更スルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

本條ハ土地所有者ノ收用請求權ヲ規定シタルモノトス、即チ第一林業家ノ爲ニ、土地ヲ三ヶ年以上使用セラルヘキ見込ナルカ又ハ既ニ三ヶ年以上使用セラレタルトキハ多クハ自分ノ土地トシテ利用ヲ妨ケラルルモノナレハ、林業者ニ對シ其ノ

土地ヲ收用センコトヲ請求スル權利ヲ與ヘタルモノニシテ、第二ハ設令三ヶ年經過セストモ使用セラレタル爲、其ノ土地ノ形狀ヲ著シク變更スルカ、又形狀ノ變更有無ニ拘ハラズ地質ノ變更ヲ來セルトキ、例ヘハ從來耕地ナリシヲ林道ト成ス如キハ、概ネ耕地ニ復舊スルニ容易ナラサル勞費ヲ要スルニ至ルヲ以テ、土地ノ所有者ハ收用ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

茲ニ關係人ト言ハスシテ、所有者ト規定シタルハ、土地ノ收用ハ常ニ所有權ノ問題ニ歸著スルヲ以テ、他ノ關係人ハ必要ナキニ依ルモノトス

第四十三條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ使用ヲ請求スルコトヲ得

本條ハ土地所有者ノ殘地收用請求權ヲ規定シタルモノトス、即チ土地ノ一部ヲ收用セラレタル爲ニ、殘存セル土地カ從來使用シタル目的ニ違フ場合、例ヘハ稻干場タリシ土地ノ一部ヲ收用セラレ、爲ニ稻ノ置場ヲ失ヒ、架樹ノ部分ノミ殘存シタルトキハ、稻干場トシテ使用シ能ハサルヲ以テ、土地所有者ハ殘地ヲモ收用スヘシト請求シ得ルモノトス

土地ノ使用及收用

茲ニ注意スヘキハ、土地收用ノ關係ノミヲ規定シアレハ、家屋ノ所有者ハ收用ノ名義ヲ以テ請求シ得サルヘシ、然レトモ家屋ノ所有者ニシテ土地收用ノ爲損害ヲ生シタルトキハ、第四十六條ニ依リ補償金ヲ請求シ得ルモノトス

第四十四條 土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

本條ハ土地ノ收用及使用ニ依ル補償金ノ拂渡ヲ規定シタルモノトス、即チ林業家カ他人ノ土地ヲ收用又ハ使用ヲ爲ス時ハ、土地ノ所有者及其ノ關係人ニ對シ、補償金ノ拂渡義務ヲ有スルニ依リ、此等ノ者ヨリ請求セサル場合ニ於テモ、補償金ハ支拂フヘキモノナリ、是レ本條ニ於テ請求ニ依リトセスシテ單ニ拂渡スヘシト規定シタル所以ナリ

第四十五條

土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

本條ハ土地使用ノ爲、殘地ノ價格減少シ、亦損失ヲ生セシメタル時ノ補償義務ヲ規定シタルモノトス、即チ土地使用ノ爲、殘地ノ利用上不便ヲ來シタル結果、之カ價額ノ減少スル場合ハ往々ニシテ見ル所ナリ、故ニ本條ハ此ノ場合ヲ想像シテ、土地使

用收用ノ爲、殘地ノ價額低落シタルトキ、及損失ヲ生スヘキトキハ、補償金ヲ拂渡スヘキコトヲ規定シタルモノトス

而シテ損失ヲ生スヘキトハ、前段ノ價額ノ低落シタル結果モ損失ニ歸シ、二者共ニ損失ヲ生スルモノナルニ、茲ニ區別シテ規定シタル點ヨリ見レハ、別個ノ意義タラサルヲ得ス、案スルニ此ノ場合ハ、殘地ニ建物若ハ其ノ他ノ工作物等存在セルニ、一部使用ノ爲ニ、此等ノ物ニ危険ヲ及ホスノ虞アルカ如キヲ想像シタルモノナラム、故ニ其ノ範圍ハ極メテ廣キモノトス

本條モ亦拂渡スヘシト規定シアルニ依リ、其ノ請求ノ有無ニ關セス、義務ヲ負擔スヘキモノナリ

尙本條ト第四十三條ノ差ニ付テ一言センニ、第四十三條ハ殘地ヲ收用スヘシトノ請求權ヲ規定シタルモノニシテ、本條ハ殘地ニ關スル補償金ヲ拂渡スヘキ義務ヲ規定シタルモノナリ、故ニ前者ハ請求ニ因テ林業家ノ義務發生シ、後者ハ請求ノ有無ニ關セス義務アルモノトス、換言スレハ彼ハ殘地カ從來用キタル目的ニ反スルコトカ原因ニシテ、之ハ價額ノ損失スヘキコトカ原因ナリ、然レトモ其殘地ナルコトト、結果ニ於テ林業家カ義務ヲ負擔セサルヲ得サル點トハ、二者同一ナリトス

第四十六條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ道路、溝渠、墻柵其ノ他ノ工
作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生シタルトキハ其ノ補償
金ヲ拂渡スヘシ

九〇

本條ハ土地ノ使用收用ニ因リ、工作物ヲ改修セシメタルトキ補償金拂渡スヘキコ
トヲ規定シタルモノトス、即チ道路、溝渠、墻柵其ノ他如何ナル工作物ニテモ、土地ヲ
使用又ハ收用スルコトニ起因シ、新タニ築設セシムルカ或ハ一部更改若ハ増補シ
築造セシムルカ又ハ修繕ヲ要スルニ至ラシメタルトキハ、前條ト同シク補償金ヲ
拂渡スヘキモノナリ、是等ハ收用ノ請求權ヲ認メサルモ、補償金ヲ受クルノ權利ヲ
生スルモノトス

要スルニ林業家ノ爲ニ土地ヲ使用シ、收用スルコトヲ許シタル結果トシテ、土地所
有者及關係人ノ權利ヲ保護シ、以テ直接間接ニ損失ヲ受ケタル者ニ、種種ノ方面ヨ
リ補償セシムルノ精神ナリトス

第四十七條 第四十條第二項ノ通知後土地ノ形質ヲ變更シ、工作物ノ新築
改築増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置セムトスルトキハ土地
所有者又ハ關係人ハ地方長官ノ許可ヲ受ケヘシ許可ヲ受ケスシテ之ヲ
爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得ス

本條ハ第四十條第二項ノ通知後ニ於ケル土地所有者及關係者ノ義務及其ノ效果
ヲ規定シタルモノナリ、即チ土地所有者及關係人ニ於テ通知ヲ受ケタル後ハ、其ノ
土地カ使用又ハ收用サルヘキ運命ヲ持ツコトヲ了知スヘキモノナリ、然ルニ斯ル
運命ヲ有スル土地ナルニモ拘ハラズ、時トシテハ、其ノ通知ヲ受ケタル後土地ノ形
質ヲ變更シ、工作物ノ新築、改築、増築ヲ爲シ若ハ其ノ他ノ大修繕ヲ爲スノ必要ヲ生
スルコトナキヲ保シ難シ、斯ノ如キ行爲ヲ爲スノ必要生シタルトキハ、地方長官ノ
許可ヲ受ケシムルノ義務ヲ負ハシメタリ、若シ此ノ義務ニ違反シ改修築等ヲ爲シ
タルトキハ、補償金ヲ請求スルコトヲ得サルナリ

元來土地所有者及關係人ハ、何等ノ干涉ヲ受ケス、自己ノ土地ヲ自由ニ處分シ得ヘ
キモノナルニ、何故斯ル制限ヲ附シタルヤト云フニ、蓋シ土地所有者及關係人ハ、既
ニ第四十條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ、前陳ノ如ク、既ニ自己ノ土地ハ、早晚林
業ノ爲ニ犧牲トナルヘキ運命ヲ有スルヲ了知シ居ルニモ拘ハラズ、之ニ對シテ更
ニ大修繕ヲ加ヘ若ハ新築スルカ如キハ、或ハ補償金ヲ多大ニ貪ラント欲スルノ野
心ヨリ、必要以外ニ使用收用セラルルニ先テ、之カ改修築等ヲ爲スナキヲ保シ難シ
若シ斯ノ如キ手段ヲ弄スル徒ニマテ、價額相當ノ補償ヲ爲サシムルニ於テハ、林

業家保護ノ爲ニ、土地使用權ヲ規定セラレタル旨趣ニ反スルノミナラス、此等ノ奸徒ニ對シ不當ノ利益ヲ得セシムル結果ヲ生スルニ至ルヘシ、故ニ本條ハ林業家保護ト共ニ善良ナル土地所有者及關係人ノ權利ヲ尊重シタル規定ナリトス

第四十八條

第四十條第二項ノ通知後同條第一項ノ目的ニ土地ヲ使用スルコトヲ廢止シタル者ハ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

本條ハ通知後ノ事業ノ廢止ニ伴フ補償金ヲ拂渡スヘキ義務ヲ規定シタルモノニシテ、第四十條第二項ノ通知ニ就テハ、前條既ニ土地所有者及關係人ノ爲シタル結果ニ關スルコトヲ規定シタルヲ以テ、本條ハ林業家ノ爲シタル結果ニ關スルコトヲ規定シタルモノトス、即チ林業家カ第四十條ノ通知後、事業ヲ廢止シタル時ハ、土地ノ所有者及關係人ハ其ノ土地ノ上ニ爲サント欲スル處ノ施設モ爲サス、抛擲シアリシ結果、多クノ場合ハ損失ヲ蒙ルヘキモノナリ、此ノ損失ハ、畢竟林業家ノ爲ニ蒙リタルモノト言ハサルヘカラス、則チ本條ニ於テ此ノ損害ニ對スル補償金ノ拂渡シヲ命シタル所以ナリ、而シテ此ノ損失ハ、一旦收用又ハ使用シタル後、此ノ事業廢止シタルモノニアラスシテ、未タ事業ニ著手セサル以前ニ廢止シタル場合ナリ、

要スルニ本條ハ俗ニ言フ處ノ土地ノ所有者及關係人ハ素見セラレタルトカ、見倒サレタルト言フカ如キ場合ニ於ケル損失ヲ指スモノトス

第四十九條

土地所有者及關係人ハ土地ノ使用者若ハ收用者チシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得但シ土地ノ使用者若ハ收用者カ御料局、政府、府縣、市町村及之ニ準スヘキモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

本條ハ土地ノ所有者及關係人ノ擔保請求權ヲ規定シタルモノトス、即チ土地ノ所有者及關係人ハ前ニ縷陳シタル趣旨ニ依リ、補償金ヲ受ケ得ラルヘキ者ナルモ、單ニ權利トシテ法律カ保護スルノミニテハ、或ハ無資産ノ土地使用者ヤ、破産耻辱ノ土地收用者ニ遭遇スルトキハ、事實ニ於テ補償金ヲ得ラレサル場合ナキヲ保シ難シ、則チ本邦ハ未タ林業ノ發達幼稚ナリシ爲、較近マテハ比較的ニ眞面目ノ林業家ハ少ナカリキ、彼ノ山師ナル名詞ハ、蓋シ是レヨリ胚胎セシモノナラン、斯ル不信用ノ連中ニ對シテハ、法律ハ土地所有者及關係人ノ爲ニ、擔保ノ請求ヲ爲スコトノ權利ヲ與ヘタルモノナリ、而シテ擔保ノ何タルヤハ民法ニ於テ解決スヘキモノナリト雖、要スルニ若シ其ノ補償金ヲ拂渡ササル時ハ、其ノ擔保ニ就テ拂渡シヲ得ヘキモノナリ、即チ人的擔保ナラハ、保證人ヨリ支拂ハシメ、物的擔保ナラハ、公債證書、株券

土地等ノ物件ヲ提供セシメ、此等ノ價額ヨリ辨償セシムルモノトス、以上ハ一般ノ土地使用者又ハ收用者ニ對シ適用スヘキモノニシテ、若シ其ノ使用者又ハ收用者カ、御料局即チ帝室林野管理局、政府、府縣、市町村及之ニ準スヘキ公共團體ナルトキハ、擔保ノ請求權ヲ與ヘサルモノナリ、何トナレハ此等ノ主體ハ何レモ破産等義務不履行ニ陥ルヘキ危險ノ生スル虞ナキ者ニシテ、擔保ヲ要セサルモノナレハナリ

第五十條

第五十五條第一項ノ裁決アリタルトキハ土地ノ使用者又ハ收用者ハ其ノ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ用ウルコトヲ得但シ土地ノ使用者又ハ收用者カ御料局、政府、府縣、市町村及之ニ準スヘキモノナルトキハ補償金ノ供託及擔保ノ提供ヲ要セス

本條ハ補償金及擔保ニ付地方森林會ノ裁決アルトキハ、其ノ裁決ニ對シ不服ヲ唱ヘ、裁判ノ判決確定セサルモ、土地使用者ノ土地使用方法ヲ規定シタルモノトス、即チ第四十條第三項ニ於テ、土地ノ使用ヲ爲サントスル者ハ、土地所有者及關係人ト協議スヘシト規定シアリタル如ク、協議ヲ開始シ幸ヒニ相手方カ其ノ協議ニ應シ首尾克ク決定シタルトキハ、何等問題ハ生セサルモ、若シ協議ノ調ハサルトキハ、地方森林會ノ裁決ヲ求ムルノ手續ニ出テサルヘカラス、然ルニ地方森林會ノ裁決ニ

シテ尙満足スル能ハサルモ、時トシテ全部ニ關シテ不服アルニアラスシテ、土地ノ使用收用ハ協議調ヒタルモ、其ノ後ノ條件ノ履行不履行ト云フカ如キ關係、若ハ補償金ノ不足等ノ爲ニ裁判ヲ提起シタル場合ハ、設令補償金等ハ確定セサルモ、先以テ地方森林會ノ裁決シタル處ノ價額ノ補償金ヲ供託スルカ、若ハ之ニ相當スル擔保ヲ提供シ、以テ土地ヲ使用又ハ收用シ得ルモノトセリ、蓋シ大體ニ於テ使用收用スルモ差支ナシトノ協議調ヒタル以上ハ、之カ從タル補償金及擔保等ノ爲ニ林業ヲ阻礙スルハ甚タ得策ニアラサルヲ以テナリ

斯ル場合ニハ林業家ハ、先ツ以テ森林會カ相當ト認メ裁決シタル處ノ補償價額ニ相當スル金額ヲ供託スルカ、若ハ擔保物件ヲ供託シ、以テ事業ニ著手スルコトアリ、其ノ補償金ヲ供託スルトキハ、特別ニ供託法ノ規定ニ依リ、金庫ニ預ケ入ヲ爲スモノトス

金庫トハ明治二十二年十二月十二日勅令第百二十六號金庫規則ナルモノニ依リ指定サレタル銀行ニ於テ、事務ヲ取扱フモノトス

擔保ヲ供託ト言ハサルハ、擔保ハ、物件又ハ人證何レヲモ提供シ得ルモ、供託トハ、目的物ノ性質ヲ異ニセリ、然レトモ供託ヲ爲シ得ヘキ物件ハ、常ニ擔保トシテ有效ナ

ルモ、擔保ニナルモノニテ供託ノ出來サルモノ多シ、要スルニ彼ト是トハ其ノ範圍ヲ異ニスルモノトス

本條モ前條ト同シク、以上ハ一般ノ土地收用者竝ニ使用者ニ對シ適用スヘキモノニシテ、若シ其ノ使用者竝ニ收用者カ帝室林野管理局、政府、府、縣、市、町、村及之ニ準スヘキ公共團體ナルトキハ、適用セサルモノトス

第五十一條

前數條ニ依ル補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用サルコトヲ拒ムコトヲ得

本條ハ土地所有者及關係人ノ拒否權ヲ規定シタルモノトス、即チ林業家ハ、一定ノ手續ヲ履行シタル上ハ、他人ノ土地ヲ收用及使用する權利ヲ有スルト共ニ、之カ義務トシテ土地所有者及關係人ノ請求ニ依リ、若ハ請求ノ有無ニ關セス、相當ノ補償金ヲ拂渡スカ、又ハ一定ノ條件ノ下ニ補償金ヲ供託若ハ擔保ヲ提供セサルヲ得ス、然ラサレハ土地所有者及關係人ハ、土地ノ使用者ハ收用ヲ拒絕スルコトヲ得ルモノトセリ、是レ當然ノ條理ニシテ敢テ規定ヲ俟タサルカ如シト雖、元來土地ノ使用收用ハ、林業家保護ノ爲ニ設ケラレタルモノニシテ、強制ノ方法ニ依ルモノ之ヲ許可スルモノナレハ、若シ本條ノ規定ナキトキハ、林業家ノ盡スヘキ義務ト、土地ノ

使用收用トハ、別物ノ如ク解釋ヲ爲シ、其ノ結果補償金ノ拂渡又ハ擔保提供、竝ニ供託ヲ爲ササルモ、土地ヲ使用スルコトト爲ルニ依リ、特ニ本條ヲ規定シ、林業家ノ義務ト土地ノ收用使用トハ、常ニ關聯スヘキモノナルコトヲ示シタルモノトス

第五十二條

土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ收用者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ使用ノ時期ニ於テ土地ノ使用者其ノ使用權ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ヲ妨ケサル範圍ニ制限セララルモノトス

本條ハ土地ノ收用及使用ト、他ノ權利トノ關係ヲ規定シタルモノトス、即チ土地ノ收用及使用する事アルトスルトキハ、其ノ土地ニハ如何ナル權利カ存在スルカヲ想像セサルヲ得ス、土地ニ必ス存在スヘキモノハ所有權ナリ、偶然存在スルモノハ地上權、永小作權、地役權、抵當權等ナリ、而シテ本條ニ所謂所有權以外其ノ他ノ權利トハ、茲ニ所謂偶然存在スル權利タル所ノ民法上ノ支分權ハ勿論、抵當權ノ如キモノヲモ包含スルモノトス、此等ノ諸權利ハ土地ノ收用、使用ノ結果如何ナル影響ヲ受クヘキヤヲ説明センニ、先ツ第一項ノ土地收用ノ場合ニ在リテハ、所有權ハ當然消滅シ、同時ニ林業家ハ之ヲ取得スルモノニシテ、隨テ其ノ他ノ權利モ、又消滅スルモノナリ、例令ハ所有權カ林業家ノ手ニ歸シタルトキニ、其ノ以前ヨリ其ノ

土地ニ地上權カ設定セラレアリ而モ其ノ地上權ノ期間カ未タ存續中ナリト雖、其ノ權利ハ收用ニ依リテ消滅スルモノトス、是レ林業家ヲ保護セントスル法律ノ結果ナリ、次ニ土地使用ノ場合ニ在リテハ、固ヨリ所有權ニハ關係ナケレハ、其ノ使用權ハ、林業家カ所得スル結果前例ノ如キ權利カ土地ノ上ニ存在スルニ於テハ、其ノ使用權トハ多クハ獨立セサルモノナレハ、林業家ノ使用中ハ、他ノ權利ハ制限、又ハ停止セララルト雖、消滅セシムル必要アラサルナリ、例令ハ林業家ノ所得シタル使用權ハ三ケ年トスレハ、通例永小作權ノ如キハ、五年乃至十年モ存續スヘキモノナレハ、其ノ三ケ年間ハ、永小作權者ハ、其ノ使用ヲ停止セララルモ、三ケ年後ハ使用權ヲ回復シ得ヘシ、故ニ永小作權ヲ消滅セシムルノ必要アラサルナリ、又權利ノ種類ニ依リ林業家ノ使用權ヲ妨ケサルモノアリ、此ノ種類ノ權利ハ停止スルノ必要ナキモノナレハ、從來ノ如ク其ノ儘權利ヲ行使セシムルモノトス、而シテ如何ナル種類ノ權利カ、林業家ノ使用權ト兩立スルカト云フニ、例セハ其ノ使用セラルル土地ニ、地役權ノ設定セラレアル場合ノ如キ是レナリ、此ノ場合ニ其ノ使用ノ土地ヨリ吸水シ、若ハ通行又ハ觀望ヲナスカ如キハ、毫モ妨ケアラサルナリ、況ンヤ抵當權ノ如キモノニ在テハ、林業家ノ使用權ト何等衝突ナキニ於テヲヤ、或ハ本條ノ所謂其

ノ他ノ權利トハ民法上ノ所謂支分權ノミヲ指稱スルモノニシテ、抵當權ノ如キハ包含セサルモノナリト主張スル論者ナキニアラサレトモ、法文上ニハ廣ク其ノ他ノ權利トアリテ、權利ノ種類ニ制限アラサルト、第五十四條ノ規定アルトニ依レハ、支分權ノミニアラサルヤ明カナリ

第五十三條 土地ノ使用者其ノ使用ヲ終リタルトキハ土地ヲ原形ニ復シ又ハ原形ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ

本條ハ使用後ノ原狀回復及損害補償ノ義務ヲ規定シタルモノトス、即チ林業家カ土地ノ使用ヲ終リタルトキハ、其ノ土地ヲ原形ニ回復シ所有者ニ返還スヘキハ勿論ノコトナレトモ、往往地質ノ惡化、地形ノ劇變等ニ依リ、到底原狀ニ回復セサルコトアリ、斯ノ如キ場合ハ林業家ハ相當ノ補償金ヲ拂渡シタル上返還スヘキモノトス

第五十四條 第三十條ノ規定ハ本章ノ補償金ニ之ヲ準用ス

本條ハ補償金ヲ受クヘキモノノ債權者ノ追及權ヲ規定シタルモノナリ、而シテ先取特權、質權、抵當權ノ如何ナルモノナルヤ等ハ、第三十條ニ於テ概ネ説明シアレハ、茲ニ敢テ再說セス、單ニ本條ノ補償金ハ第二十八條第一項ノ補償金トハ、稍其ノ性質ヲ異ニスルニ拘ハラズ、何故ニ本條規定ノ必要アリヤ一言セム、即チ收用使用

セラレタル土地ノ上ニ先取特權、質權、抵當權ヲ有スル權利者ハ、元來其ノ土地カ林業家ヘ移轉シタルトキハ、林業家ニ對シテモ追及シテ、土地ノ上ニ權利ヲ行使シ得ヘキモノナルニ、本法第五十二條ニ於テ、土地カ林業家ニ歸シタルトキハ、此ノ種ノ權利ハ、消滅スルト規定シタル爲ニ、權利ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ至リシヲ以テ、本條ニ於テ、物上代位ノ理由ニ依リ、補償金ニ關シ、優先權ト追及權ヲ認メタルモノトス

第五十五條 土地ノ使用者ハ、收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲナスコト能ハサルトキハ、第四十條第二項ノ通知後一箇年以内ニ地方森林會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ關スルモノニ付不服アル者ハ、主務大臣ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得、違法ニ權利ヲ侵害セラレタルトキハ、行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得、但シ裁決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ、此ノ限ニ在ラス

第一項ノ裁決中補償金又ハ擔保ニ關スルモノニ付不服アル者ハ、通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得、但シ裁決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ九十日ヲ經過シタルトキハ、此ノ限ニ在ラス

本條ハ土地ノ使用、其ノ他ニ就キ協議不調ノ時ノ救濟方法ヲ規定シタルモノトス。

即チ林業家ハ他人ノ土地ヲ使用スル場合ニハ、地方長官ノ許可ヲ得タル後、土地ノ所有者及關係人ト、土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲、協議ヲ要スルコトハ、第四十條第三項ノ規定スル處ナリ、而シテ之カ權利取得ノ内容ハ、土地ノ使用若ハ收用ニ關シ、諾否ハ勿論、補償金ノ多少又ハ擔保ノ善惡等悉ク協議ニ應スルニ於テハ、何等ノ事ナキモ時トシテハ、公益ト私益ノ區別ヲ解セスシテ、利己主義ノミヲ主張スルノ徒ハ、世間往々見ル處ナリ、況ンヤ林業ノ如キハ、假令法律カ之ヲ保護スルノ事業ナルモ、公益事業ニアラサルモノニ於テオヤ、依テ使用若ハ收用ト雖、協議ニ應セサル者アルヘシ、從テ他ノ條件ニ關シテ、協議ノ調ハサルコトハ往アルナラム、又單ニ相手方ノ不承諾ノ爲、協議調ハサル場合ノミナラス、土地所有者及關係人ノ遠方ニアルカ、所在不明ノ爲ニ協議ヲナスコト能ハサル場合モアルヘシ、斯ル場合ニ其土地ヲ使用若ハ收用ノ方法ヲ講セサルニ於テハ、林業家ノ不利益ハ勿論、引テ國家社會ノ不利ニ歸スル者ナリ、故ニ斯ノ如キ場合ハ、地方森林會ノ裁決ヲ求ムルモノトセリ、而シテ裁決請求提出期間ヲ第四十條ノ通知後一箇年トセルハ、無期限ニ土地ノ使用若ハ收用セラルルヤ否ヤヲ不定ノ運命ニ屬セシムルハ、社會ノ爲不利益ナルニ依ルモノトス、而シテ此ノ地方森林會ノ裁決ニハ、絕對服從セサルヘカラサル

土地ノ使用及收用

モノナリヤ如何ト云フニ、若シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ、尙之カ救済ノ途アリ、然レトモ其ノ目的ニヨリ、不服ヲ訴フルノ方法ヲ異ニセリ、即チ土地ノ收用及使用ニ關スル裁決ノ不服ハ、農商務大臣ニ訴願ヲ許シ、違法ニ權利ヲ傷害セラレタルトキハ、行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルモノトセリ、是レ前者ハ法令ニ背反シタルハ勿論、假令法令ニ違反セサルトキト雖、苟モ裁決ニ不服アリタルトキハ、訴願ヲ提起スルモノニシテ、後者ハ裁決ノ爲ニ權利ヲ傷害セラレタリト考フルノミナラス、其ノ裁決ノ手續ニ於テ、法令ニ違反シタル行爲アリタルトキニ限ルモノトス、而シテ地方森林會ノ裁決ハ、土地ノ收用使用ノミニアラスシテ、補償金並ニ擔保ニ關シテモ裁決ヲナスモノナリ、然ルニ訴願及行政訴訟ニハ、何故ニ補償金並ニ擔保ニ關スル事件ヲ提起シ得サルヤト云フニ、是レ主トシテ歐洲制度ノ沿革ニ基クモノナリ、理論トシテハ行政處分ニ基ク補償金若ハ擔保ニ關スル事件ハ、決定シタル行政機關ヲシテ裁決セシムルヲ正當トス、然ルニ反之司法裁判所ヲシテ、之ヲ裁判セシムルハ前陳ノ如ク西洋ノ沿革ヲ模倣セシメタルモノト信ス

爰ニ注意スヘキハ第五十三條ノ補償ハ包含セサルモノトス、何トナレハ第五十三條ノ補償ハ、事業施設ニ要スル損害ニアラスシテ、純然タル民法上ノ權義關係ナレ

ハナリ、故ニ第五十三條ノ補償金ニ付、協議調ハサル場合ハ、第四十條第二項ノ通知後、一年内ナルト否トニ拘ハラズ、總テ司法裁判所ニ出訴シ得ヘキモノトス

第五十六條 土地收用法第六十四條、第六十六條及第六十七條ノ規定ハ本章ニ依リ使用又ハ收用セラレタル土地ニ之ヲ準用ス

本條ハ、天災地變ニ依リ生スル損害ノ負擔及買戻權ニ付、規定シタルモノナリ、土地收用法第六十四條トハ、收用審査會ノ裁決後、收用又ハ使用スヘキ土地、物件カ、土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ、滅失又ハ毀損シタルトキハ、其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ屬スルコトヲ規定シタルモノニテ、使用、收用地ノ海成、河成、湖水成等、天災地變ノ爲ニ生シ、且地方森林會ノ裁決後ナルトキハ、其ノ損害ハ起業者、之ヲ負擔セサルヘカラス、而シテ第六十六條ハ收用ノ時期ヨリ二十ヶ年内ニ、事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ依リテ、收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ、舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得ルモノニシテ、之ノ買受ノ權利ハ、獨リ事業者ノミナラス、第三者ニ對シテモ效力ヲ有スルモノトス、然レトモ之カ例外トシテ、不用ニ歸シタル土地ト雖、土地收用法第五十條ニ依リ、土地ノ一部ヲ收用スルニ依リテ、殘地ヲ從來用ヒタル目的

ニ供スルコト能ハサルトノ理由ヲ以テ、土地所有者カ其ノ全部ノ收用ヲ請求シタル爲ニ收用シタル殘地ハ、其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタルトキニアラサレハ之ヲ買受ケルコトヲ得サルモノナリ、何トナレハ殘地ハ元來起業者ニ於テ必要ナラサルモ、土地所有者ノ請求ニ依リ、止ムヲ得ス收用シタルモノニシテ、畢竟所有者ノ自由ナル意思ニ出テタルモノナレハ、之ヲ保護スルノ必要ナシ、故ニ事業上必要ノ爲、強制收用シタル處ノ殘地ノ接續部分ノ不用ニ歸シタルトキニ非サレハ、買戻權ヲ認めサルモノナリ、次ニ收用シタル目的事業ヨリ見レハ、不用ニ歸シタルモノト雖、他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ノ用ニ供スルトキハ、不用ニ歸シタル者ト看做サス、隨テ買戻權ヲ認めサルモノトシタルハ、買戻權ニ對スル例外ナリトス、第六十七條ハ買戻權ヲ認めタル結果トシテ、不用ニ歸シタル土地アルトキハ、起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スヘキ義務ヲ規定シタルモノナリ、尤モ舊所有者ノ知レサル場合ノ生スルコトアルヘシ、例令ハ火災其ノ他ノ爲、書類ノ滅失スルコトモアルヘシ、又舊所有者ノ移住シタル爲ニ知レサル場合アルヘシ、何レニシテモ起業者ノ過失ナクシテ、之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ、少クトモ三回ノ公告ヲ爲スヘキ義務アルモノトセリ、而シテ起業者カ舊所有者又ハ其相續

人ニ通知シタル場合ハ、舊所有者又ハ相續人ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ、二ヶ月以内ニ於テ買受ノ通知ヲナササルトキハ、買戻權ヲ失フモノニシテ、舊所有者又ハ相續人不明ノ爲、公告シタルトキハ、第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六ヶ月内ニ、買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ、又同ク權利ヲ失フモノナリ、是レ權利者ハ買戻ノ意思ナキモノト看做シタル規定ナリトス

第五十七條 土地ノ使用、收用ニ關スル規定ハ亦ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ使用又ハ收用ニ之ヲ準用ス

本條ハ林業家ノ水利使用權ヲ規定シタルモノトス、即チ林産物ノ運輸搬出ヲ爲スニハ、管ニ土地ノミノ使用ニ止マラス、水ヲ利用スル場合少ナカラス、此ノ場合ニ於テ、他人ノ土地内ノ水ヲ使用スル必要アルトキハ、土地ノ使用、收用ニ關スル規定ヲ準用スルコトトセリ、茲ニ其他土地ニ關スル所有權以外ノ權利トハ、水ニ關シ地役權ヲ有スル場合ノ如キヲ指スモノニシテ、使用ノ目的タル土地ニ關スル權利ニ非サルナリ、何トナレハ其等ノ權利ハ、本條ノ規定ヲ俟タス、使用收用シ得ルモノナリ

第五十八條 森林ヨリ其ノ産物ヲ運搬スル爲又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ、地方長官ノ許可ヲ得テ水流ニ於ケル他人ノ工作物ヲ使

土地ノ使用及收用

用シ、變更シ又ハ除却スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府カ之ヲ行フトキ

ハ地方長官ニ協議スヘシ

前項工作物ノ使用、變更又ハ除却ニ因リテ損害ヲ生スヘキトキハ補償金
ノ拂渡ヲ爲スヘシ

第四十條第二項第三項、第四十一條、第四十六條乃至第五十一條、第五十二
條第二項、第五十三條乃至第五十五條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

本條ハ林業家カ水流ニ於ケル、他人ノ工作物ノ使用權等ヲ規定シタルモノトス、即チ河川ニハ用水等ノ關係上堰其ノ他ノ工作物築設セルモノアリ、斯ル河川ニ於テ林業家カ木材ヲ渡下セントスルトキハ、其ノ工作物ノ關係者ノ同意ヲ要スルモノトス、然ルニ工作物ノ關係者ハ、往往不當ノ使用料、若ハ賠償金ヲ徵スルコトアリ、地方ニ依リテ殆ント重税ニ酷似シタルモノアリ、是レ從來ハ本條ノ如キ林業家保護ノ規定ナキヲ以テ、林業家ハ常ニ弱者ノ位置ニ立チ、不當ノ要求モ排斥シ得サルノ状態ナリ、何トナレハ若シ工作物ノ關係者ノ要求ニ應セサレハ、遂ニ木材流下シ得サレハナリ、斯ノ如キ關係上、水源地ノ森林ニシテ今日尙原成林ノ儘利用セラレサルモノアルハ遺憾トスル所ナリ、本條ハ此等ノ不便ヲ救済スル爲ニ、規定セラレタルモノトス、而シテ茲ニ工作物ノ使用、變更、除却ト區別シ規定シタルハ、例令ハ使用

トハ、木材ノ管流ノ場合ニ於テ、堰ヲ土場トシテ利用スルカ如キヲ云ヒ、變更ハ堰ノ一部ヲ破壊スルカ又ハ上部ヲ除却シ、木材ノ通スルニ便ニスル場合ノ如キヲ指スモノニシテ、除却トハ、木材流下ノ爲ニ、堰ノ全部ヲ取り除ク場合ノ如キヲ云フモノトス、此等ノ許可又ハ協議方ニ關シテハ第四十條ト同一ナレハ再ヒ説明セス

第二項ハ補償金ノ拂渡シ義務ヲ定メタルモノニシテ、此ノ補償金ノ意義等ニ關シテハ、既ニ前ニ續續説明セル處ナレハ、重複ヲ避ケ再ヒ述ヘサルモ、特ニ一言セントスルハ、茲ニ「損害ヲ生スヘキ」ト規定シアルハ、以上ノ工作物ヲ使用、變更ヲ爲スモ、何等ノ損害ノ生セサルコトアルナリ、例令ハ堰ヲ除却スルニ秋季稻ノ刈入後ノ場合ノ如キハ、何等損害アラサルノミナラス、却テ關係者ノ取拂フヘキ手數ヲ省略スルコトアリ、又ハ木材管流ノ爲ニ、堰ヲ使用スルモ毀損等生セス、何等損害ナキ場合アルヘキハ豫メ明カナルヘシ、斯ル場合ニハ、補償金ノ拂渡ヲ要セサルモノトス、換言スレハ損害ノ生スヘキヤ否ハ、豫メ判定シ得ヘキコトナレハ其ノ損害ノ生スヘキコトノ豫定シ得ラルトキハ、之カ補償金ヲ拂渡スヘキモノナリ

第三項ノ準用規定ハ、各其ノ條項ニ就テ知了スヘシト雖、要スルニ許可若ハ協議ノ效力、補償金ノ拂渡擔保ノ提供、補償金委託方、工作物關係者ノ權利ノ制限、使用者ノ

工作物原形復舊並補償義務及協議不調ノ場合ニ於ケル救済方法等、土地ノ使用ノ關係條項ヲ準用スヘキコトヲ明カニ定メタルモノトス

第五十九條 流水竹ノ爲必要アル場合ニ於テハ沿岸ノ土地ニ立入コトヲ得此ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ賠償ヲナスヘシ

本條ハ林業家カ、他人ノ土地ニ立入ルコトヲ規定シタルモノトス、即チ木竹ヲ流下スルニハ時トシテ河川沿岸ノ土地ニ立入ルコトアルヘシ、例ヘハ筏流シ又ハ管流シヲ爲ス場合ニ、筏ヤ木竹カ沿岸ニ引掛リタルトキノ如キハ、是非共其ノ土地ニ立入り流下ノ方法ヲ講セサルヲ得ス、然ルニ若シ之カ爲一々土地ノ所有者、若ハ占有者ノ承諾ヲ得ルモノトスレハ、無益ニ時間ヲ費シ爲ニ商機ヲ失フコトアルノミナラス、或ハ承諾ヲ得ルコト能ハサルカ若ハ適當ノ賠償金ヲ請求セラルル虞ナキ能ハス、是レ本條ヲ規定シ、以テ林業ヲ保護スル所以ナリ、而シテ沿岸ノ土地ト規定シ、其ノ土地ノ何タルヲ區別セサルヲ以テ、管ニ林野耕地ノミナラス、宅地ノ垣根内ニモ立入ルコトヲ得ルモノトス、最モ林業家カ立入りタル爲ニ、土地ノ所有者若ハ占有者ニ於テ損害アリタルトキハ之カ賠償ヲ爲スヘキハ勿論ナリ

第六十條 前數條ノ外流水竹ニ付土地又ハ水ノ使用ニ關スル規定ハ命令

ヲ以テ之ヲ定ム

本條ハ木竹流下ノ爲土地又ハ水ノ使用ニ關スル規定ヲ命令ニ委任シタルモノトス、即チ前數條カ林業家ノ權利ヲ認メタルノミニシテ、之カ權利ノ行使方法ニ關シ詳密ナル規定ナキヲ以テ、之カ實行上困難ヲ免レサルヘシ、假令第五十九條ノ如ク流水竹ノ爲必要アル場合ニ於テハ、沿岸ノ土地ニ立入ルコトヲ得トノミ、規定シアルヲ以テ、極端ニ言ヘハ、邸宅ノ周圍ニアル垣根ヲ破壊シテ、其ノ内部ニ入ルコトモ爲シ能フモノニシテ、使用者ノ權利ハ極メテ過大ナリト言ハサルヘカラス、故ニ權利行使ニ際シ、相當ノ取締方法ヲ立ツルカ如キハ、命令ヲ以テ規定スル必要アルモノナリ加之筏流シ若ハ管流等ノ流水竹ニ關シテハ、随分舊慣多シ、而シテ其舊慣ハ地方ニ依リ區區ナルモ、可成實行ニ際シ、一面ニ於テハ、舊來ノ慣行ヲ尊重シ、一面ニハ、林業家ノ便利ヲ圖ラント欲スルモノナレハ、一率ニ之ヲ法律ヲ以テ規定スルハ困難ナルノミナラス、實際不適當ノ者アルモ、法律ニ規定スルニ於テハ容易ニ改正シ難キニ依リ、命令ヲ以テ事實ニ適當スル方法ヲ定メント欲スルモ、命令ニ委任シタル一理由ナリトス

第六十一條 森林又ハ森林ノ事業ニ關シ實地調査ノ爲必要アルトキハ地

土地ノ使用及取用

方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府ニ於テハ地方長官ニ通知シテ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ賠償ヲ爲スヘシ

第一項ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知スヘシ

本條ハ林業家ノ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障害木竹ヲ伐採スルコトノ權利ヲ規定シタルモノトス、即チ森林ノ境界ヲ調査スルカ、又森林ヲ斫伐スル事業計劃ノ爲測量スル場合ノ如キニ於テハ、他人ノ土地ニ立入ルハ勿論時トシテ、目標ヲ設置シ、或ハ見透シ、其ノ他ノ障害トナルヘキ木竹ヲ伐採スル必要アルヘシ、斯ル場合ハ一般ノ森林家ニ於テハ、地方長官ノ許可ヲ要スルモノニシテ、事業者カ御料局即チ帝室林野管理局又ハ政府ナルニ於テハ、當該官廳ヨリ、地方長官ニ通知スルニ止マルモノナリ、尤モ一般林業家ハ勿論、帝室林野管理局又ハ政府ト雖、何レモ事業ヲ行ハントスルトキハ、其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知スルコトヲ要スルモノナリ、是レ元來他人ノ權利ヲ傷害スルモノナレハ、所有者又ハ占有者ノ承諾ヲ得ヘキ筈ナリ、然ルニ林業保護上、特別ニ林業家ニ、前述ノ如キ權利ヲ與ヘタルモノナルモ、之カ爲所有者及占有者ノ權利ヲ無視スヘキ理由ナシ、故ニ事業者ヨ

リ、其ノ土地ニ於テ行ハントスル處ノ事業ノ旨趣ヲ所有者又ハ占有者ニ通知セシムルノ義務ヲ負ハシメタリ、此ノ通知アラサルニ於テハ、土地ノ所有者又ハ占有者ハ、自己ノ所有若ハ占有ノ土地カ、如何ニ使用セラレ又ハ損害ヲ蒙リタルヤヲモ知ラサルコトアルヘシ、隨テ損害賠償ヲ求ムルノ機ヲ失フコトモアラン、斯クテハ國家ハ獨リ林業家ニ厚クシテ、土地ノ所有者若ハ占有者ニ薄シト言ハサルヘカラス、故ニ事業者ヲシテ土地所有者又ハ占有者ニ通知スヘキコトヲ規定シタルハ、詢ニ當ラ得タルモノナリトス、而シテ損害ニ關シテハ、必ス賠償スヘシト規定セシメテ損害ノアリタルトキハ賠償ヲナスヘシト規定セルハ、事業ニ依リ必スシモ損害ノ生スヘキモノニアラサルヲ以テナリ、例令ハ他人ノ土地ニ立入ルモ、田畑ノ如キ場所ハ或ハ損害ノ生スルコトモアラン、然レトモ山林原野ノ如キハ、何等損害ノ生セサルコトアルヘシ、又ハ支障木竹ノ伐採ト云フモ、多クハ通例測量ノ場合ニ見透シニ妨ケトナルヘキ木ノ枝ヲ拂フ如キコトニテ、損害トシテ見積ルヘキ程ノコトナキモノトス、是レ損害アリタルトキハト規定シタル所以ナリ

第六章 森林組合

本章モ亦第五章ト同シク新タニ設ケラレタル者ナリ、抑モ森林ノ事業タルヤ合同經營タルヲ以テ得策トスルハ、敢テ識者ヲ俟タス明カナル所ナリト雖、若シ之ヲ個人ノ任意ニ委シ、特別ノ監督ヲ爲スニアラスンハ、合同經營ノ設立ハ、容易ニ得テ之ヲ望ムヘカラサルモノナリ、然レトモ國家ハ林業全般ニ對シ、合同ヲ試ムルカ如キハ、繁ニ堪ヘサルノミナラス、過大ニ個人ノ權利ヲ制限スルノ虞レナキ能ハス、故ニ本法ハ此處ニ見ル所アリ、國益上最モ合同經營ノ必要アル事項即チ或ハ國土保安又ハ森林荒廢防止若ハ荒廢セル森林ヲ回復スル爲、合同施業ヲ要スルモノノ如キ、或ハ森林ノ所有者分立セル爲、合同施業ニ依ルニアラサレハ、其ノ利用ノ目的ヲ達スルニ困難ナルモノノ如キ、或ハ林産物ノ運搬ニ必要ナル林道、其ノ他森林土工ノ計畫實行ト、單獨ノ資力ヲ以テ、遂行シ易カラサルモノノ如キハ、火災、害蟲等ニ對シ、合同保護ノ必要アルモノノ如キニ付、森林組合ヲ設クルコトヲ得セシメタリ、即チ斯ノ如キ施設經營ハ、管ニ所有者ノ利益ナルノミナラス、産業ノ發展ヲ期スル者ナレハ、間接ニ公益ニ及ホス處少ナカラス、然リ而シテ本法ノ所謂森林組合トハ、叙上

ノ目的ノ爲ニ施設經營スル者ニ限リ本法ノ特典ヲ與フルモノナリ、若シ夫レ他ノ目的ヲ以テ森林事業ニ關スル組合ヲ設クル者ノ如キハ、本章ノ關知セサル處ナリトス

第六十二條

森林組合ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ必要ナル事業ヲ爲ス爲一定ノ地區ヲ限リ之ヲ設立スルコトヲ得

- 一 國土保安ノ爲又ハ森林ノ荒廢ヲ防止シ若ハ荒廢セル森林ヲ回復スル爲必要ナルトキ
- 二 森林カ所有者ヲ異ニシ協同シテ施業ヲ爲スニ非サレハ其ノ利用ノ目的ヲ達スルニ困難ナルトキ
- 三 森林産物ノ運搬ニ必要ナル工事ヲ爲シ又ハ之ヲ維持スル爲關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ
- 四 森林ノ危害防止ニ付關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ

本條ハ森林組合ヲ設立スルコトヲ得ヘキ事項ヲ定メタルモノトス、即チ第一號乃至第四號ノ規定ハ、何レモ意義明カニシテ、別ニ説明ヲ要セス、只其ノ第一號ハ、目的ニテ制限スルモノナレハ、範圍極メテ廣キニ反シ、第二號以下ハ、事業ニテ制限シタルモノナレハ、稍狭キモノナリ、即チ是等ノ目的若ハ事業ノ制限範圍内ニアラサレハ、本條ニ依リ組合ヲ設立シ得サルモノナリ、故ニ林業ノ一部ニ屬スルモノナリト

森林組合

雖、彼ノ製炭事業又ハ製材事業ノミノ組合ハ設立シ得サルモノトス、然レトモ組合ノ森林ヲ伐採シタル木材ヲ以テ、其レ等ノ事業ヲ爲スハ妨ケナシ、而シテ本條ニ依リ、森林組合ヲ設立スル手續又ハ組合及組合員ノ權利關係等ハ、明治四十年勅令第三百四十八號ヲ以テ之ヲ規定セリ、其ノ設立ニ關スル手續ハ、他ノ組合ト別ニ異ナルコトナシ、彼ノ複雑ニシテ困難ヲ感スヘキ、施業組合ノ煩雜ヲ豫メ避ケンカ爲ニ、土地ハ各組合員ノ所有ニシテ、立木ハ組合ノ所有タルコトヲ勅令ヲ以テ規定セント試ミタリ、即チ之カ草案タル第八條ニ於テ「組合ニ代リテ森林ノ主伐收益ヲ爲ス組合地區内森林ノ產物ハ總組合員ノ共有ニ屬スルモノト看做ス、但シ組合設立ノ當時存在セル產物ニ付テハ、之カ爲利益ヲ受ケタル者ハ、損失ヲ受ケタルモノニ對シテ之ヲ補償スヘシ」ト規定セントシタルモ、之ヲ削除シ、發布セラレタルヲ以テ見レハ、其ノ如何ナル理由ナルヤハ、知ルヘカラサレトモ、蓋シ斯ノ如キハ組合員ノ任意ニ委セラレタル方、穩當トセラレシナラム、茲ニ本條ノ區域ト云フハ、居住區域ニアラスシテ、事業區域ヲ指スモノナリ、故ニ組合内ノ森林ヲ買受タル者ハ、前組合員ニ代リ當然組合員トナルモノトス

第六十三條 森林組合ハ營利ヲ目的トセサル社團法人トス

本條ハ組合ノ性質ヲ定メタルモノトス、即チ森林組合ハ第六十二條ノ目的ヲ以テ、設立スヘキモノナレハ、民法第三十四條ノ公益法人ト同視サルヘキモノナリ、然レトモ民法ハ、之ヲ支配スヘキモノニ非ス、森林組合ハ、本法ノ規定ニ依リ設立セララルモノナレハ、全然本法ノ支配スル處ナリトス、而シテ營利ヲ目的トセサルトハ、必スシモ收入スヘカラスト云フニアラス、事業ノ結果、組合ニ於テ製造シタル木材ヲ販賣シ、收入シ得ルカ如キハ、別ニ組合ノ目的ニ反セサル者ナリ、例ヘハ彼ノ水産組合ノ漁獲物ヲ賣却スルカ如キヲ營利ト稱セサルト同シク、森林組合ニ於テ、組合内ノ森林ノ立木ヲ伐採シ、木炭ヲ製造シ、賣却スルカ如キモ、營利ト云ヒ難シ、畢竟林木利用ノ手段タルニ過キサレハナリ

第六十四條 森林組合ヲ設立スルニハ定款ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受ケヘシ

本條ハ森林組合設立ノ手續キヲ定メタルモノトス、即チ法人設立ノ主義ニハ、種種アリト雖、本條ノ法人モ、民法公益法人ト均シク、單純ナル準則設立主義ヲ認メス當該地方長官ノ許可ヲ要スルモノトセリ、斯ノ如ク政府ニ於テ取締ヲ爲スニアラスンハ、折角立法者カ有益ナル事業ヲ獎勵センカ爲ニ設ケタル方法ヲ害用シテ、却テ

毒ヲ社會ニ流スノ虞ナキヲ保セス、是レ設立ニ關シテハ、定款ヲ定メテ、地方長官ノ許可ヲ受ケシムル所以ナリ、而シテ其ノ定款ハ、本法第六十八條及森林組合令第四條ノ規定ナル所ナリトス

第六十五條 森林組合ノ組合員ハ其ノ地區内ニ於ケル森林ノ所有者ニ限ル

本條ハ組合員タルヘキ資格ヲ定メタルモノトス、即チ組合ハ事業地區制度ノ結果如何ナル遠距離ノ箇所ニ居住シアルモ、地區内ニ森林ヲ所有スル者ハ、組合員ノ資格ヲ有スルモノナリ、而シテ之カ組合員ハ、個人ニ限ルノミナラス、數市町村又ハ市町村ト個人トモ組合ヲ組織シテ事業ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第六十六條 森林組合ヲ設立スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコト
- 二 前號同意者ノ所有スル森林ノ面積カ地區内ニ於ケル森林ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルコト

本條ハ森林組合設立ノ要件ヲ規定シタルモノトス、即チ組合設立ノ申請ヲナスニハ、本條所定ノ條件具備スルコトヲ要スルモノナリ、而シテ此ノ要件ヲ具備スルニハ、如何ナル手續ニ依ルヤト云フニ、先ツ發起人ハ、森林組合ノ定款ヲ定メ組合員タ

ルヘキ資格ヲ有スル者ニ示シ、期間ヲ指定シ、以テ夫々意見ヲ申出テシメ、其ノ意見ヲ取纏メ、要件ヲ滿タシ得ル丈ノ同意者ノ有無ヲ定ムヘキモノナリ、若シ不幸ニシテ所定ノ同意者ナケレハ、假令其ノ事業カ有益ナリトスルモ、本條ハ絕對強制規定ニアラサルヲ以テ設立ノ途ナキモノトス、然レトモ幸ニ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上同意アリテ、其ノ同意者ノ所有スル森林ノ面積カ、地區内ニ於ケル森林ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルトキハ、他ノ三分ノ一以内ノ者ハ、假令不同意ニテモ強制セラルルモノナレハ、發起人ハ森林組合設立許可ノ申請ヲ、地方長官ニ爲スヘキモノトス、而シテ之カ手續ハ、申請者ニ定款及組合員タルヘキ者ノ意見書竝ニ本條ノ要件具備シタルコトヲ證明スヘキ書面ヲ添附シ、地方長官ニ差出スヘキモノナリ、故ニ本條ノ條件ハ組合設立ノ場合ニ必要ナルモノニシテ、組合成立後ニ於ケル組合ノ解散、若ハ變更ハ其ノ組合ノ定款及其ノ他法令ニ依ルモノニシテ、本條ノ關スル處ニアラス、而シテ組合ノ地區ハ何人カ之ヲ定ムルヤト云フニ、發起人ニ於テ、豫メ之ヲ定メ出願スヘシト雖、地方長官ハ查定シ、相當ニ訂正セシムルコトモアル可シ

第六十七條 森林組合成立シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總

森林組合

テ組合員トス但シ命令又ハ定款ニ於テ加入ノ義務ナシト定メタル者ハ
此ノ限ニ在ラス

本條ハ森林組合員タルヘキ有資格者ヲ組合ニ強制加入セシムル規定ナリトス、即チ前條ノ要件具備シ、發起人ヨリ森林組合設立方ヲ、地方長官ニ申請シ、許可ヲ得タルトキハ、組合ハ此處ニ成立スルモノトス、然ルトキハ森林組合設立ニ不同意ナル者ト雖、本條ノ規定ニ依リ、組合員トセラルルモノナリ、尤モ但書ノ如ク、設令地區内ニ於ケル森林所有者ト雖、命令又ハ定款ニ於テ、加入ノ義務ナシト定メタル者ハ、強制加入セサルモノトス、而シテ本法ニ於テ、此ノ但書ノ命令ニ規定セラルヘキ内容ハ知ルヲ得サレトモ、森林法施行規則第三十六條ノ規定スル處ニ依レハ、御料林又ハ國有林ニ付テハ、帝室林野管理局又ハ政府ハ獨立シテ、經營スルヲ不便ナリトスル場合ヲ除クノ外、森林組合ニ加入スルノ義務ナキモノトシ、且林業試驗演習等、特種ノ目的ニ供セラレ、若ハ面積廣大ニシテ獨立經營ノ方法確定シ、其ノ他特別ノ事情アル場合ニ於テ、地方長官ハ之ヲ協同經營ニ屬セシムルノ必要ナシト認メタルモノニ付テハ、其森林所有者ハ、森林組合ニ加入スルノ義務ナキモノトセリ、是レ則チ例外ノ取扱ヒヲ受クヘキ處ノ森林ナリトス、而シテ以上ノ森林ヲ加入義務ノ點

ヨリ見レハ、二種ニ區分シ得ヘシ、即チ御料林及國有林ハ加入ノ義務ナキヲ以テ原則トシ、他ハ地方長官ニ於テ之ヲ協同經營ニ屬セシムルノ必要ナシト認メタル者ニ限り、加入義務ヲ免除スルモノナリ、故ニ後者ハ發起人ヨリ森林組合設立ノ同意ヲ求メタルトキ、其ノ意見申告期間内ニ於テ、加入義務ノ免除方ヲ地方長官ニ申請セサルヲ得ス、然ラサレハ地方長官ハ、協同經營ニ屬セシムル必要ノ有無ヲ認定シ難ケレハ、加入義務ヲ免除セサルノ結果ヲ生スルニ至ラン、然ルニ御料林又ハ國有林ノ管理者ハ斯ル申請ヲ爲ササルモ、當然加入義務ナキモノナリ、曾管理者カ獨立シテ、經營スルヲ不便ナリトスル場合ハ、進テ加入ヲ申込みヘキモノナリ、既ニ一旦加入シ、組合成立シタル上ハ、定款其ノ他ノ法令ニ依ルニアラスンハ、脱退スルヲ得サルコトハ普通ノ森林ト異ナラサルナリ、何故ニ御料林又ハ國有林ハ森林組合ニ加入スルノ義務ナキヤ、是レ管理者カ相當ノ智識、若ハ技術ヲ有スルヲ以テ、施設經營ヲ誤ルノ虞レナキノミナラス、是等ノ森林ハ、何レモ多クハ大團地ニシテ、他ノ森林ト合同ヲ要セサルモ、獨立シテ經營シ得ルモノナリ、就中國有林ノ如キハ、明治三十二年以來、存廢區別調査ヲナシツツアレハ、之カ處分結了シタル後ハ、小面積ノ團地ハ一モ殘存セシメサル方針ナレハ、事實上ニ於テ、協同經費ノ必要起ラサルモノ

トス、然ルニ加入義務ナキコトヲ、法律ニ規定セスシテ、命令ニ譲リタルハ、萬一必要ノ生スル場合ナキヤヲ、虞レタルモノニシテ、立法者ノ注意誠ニ周到ナリト言ハサルヘカラス

第六十八條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 目的及事業
 - 二 區地
 - 三 名稱
 - 四 事務所
 - 五 出資又ハ費用分擔ノ方法
 - 六 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由
- 前項ノ外定款ニ定ムルコトヲ要スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
定款ノ變更ハ地方長官認可ヲ受タルニアラサレハ其ノ效力ヲ生セス

本條ハ森林組合ノ定款ニ規定スヘキ要件ヲ定メタルモノトス、即チ定款ニハ、如何ナル事項ノ記載ヲ要スルヤト云フニ、第一目的及事業ナリ、目的トハ、假令ハ森林利用上ノ困難ヲ排除スルヲ以テ目的トスト云フカ如シ、而シテ既ニ目的アリ、之ヲ達スルノ事業ナカルヘカラス、即チ其事業ノ種類ヲ掲クヘキモノトス、第二ハ地區ナリ、森林組合ノ基礎ハ人ニアラスシテ、森林ナルヲ以テ、自ラ之カ範圍ナカルヘカラ

ス、彼ノ水利組合若ハ水害豫防組合ニ於テ、其ノ組合區域存在スルト同一ナリ、第三ハ名稱ナリ、是レ苟モ法人トシテ、權利義務ヲ有スルニ於テハ、之カ主體ヲ表スヘキ名稱ナカルヘカラス、恰モ彼ノ自然人ノ氏名ヲ有スルト同一ナリ、第四ハ事務所ナリ、既ニ人格ヲ有シ、權利義務ノ主體タルニ於テハ、之カ住所ナカルヘカラス、住所カ法律上如何ナル用ヲ爲スヘキヤハ、敢テ説明ヲ俟タサルヘシ、然ラハ自然人ノ生活ノ本據タルヘキ住所ヲ有スルト同シク、事務所ノ存在ヲ必要トスルモノトス、第五ハ出資又ハ費用分擔ノ方法ナリ、蓋シ地區ヲ根據トセル組合ハ其ノ面積又ハ地價ヲ標準トシテ、出資又ハ費用ヲ分擔スルヲ常トスレトモ、本組合ノ如キハ、面積若ハ地價相等シトスルモ、立木ノ如何ニヨリ、其ノ價值相同シカラス、隨テ是等千差万別ノ森林ヲ一定ノ地區ニ編入シ組合員ノ共有トスルカ如キ場合ニ於テハ、之カ公正ノ計算ヲ立ツルニハ頗ル困難ナラン、故ニ出資又ハ費用分擔ノ方法ハ、法人トシテハ普通ノ要件ナレトモ、特ニ本組合ニハ之カ方法ヲ定ムルノ必要アルモノトス、即チ第六ハ法人共通ノ要件ニアラス、然レトモ之ヲ定メタルトキハ、記載スルヲ要スルモノトス、以上ノ外ハ定款ニ定ムルコトノ必要ナル事項ハ、命令ニ譲リタルモノナリ、而シテ之カ委任命令タル處ノ森林組合令第四條ニ依レハ、役員、會議、組合員ノ

議決權、森林ノ主伐、收益ヲ爲ス組合ニアリテハ、立竹木ノ權利及產物ノ處分並收益分配ニ關スル規定及財産ノ管理又ハ處分ノ方法ヲ定メタルトキハ、其ノ方法並組合員ノ義務ニ違反スル場合ニ於ケル、違約令ニ關スル規定ヲ定メタルトキハ、其ノ規定ヲ記載スヘキモノトセラレタリ、而シテ此ノ定款ハ、森林組合ノ設立許可ト共ニ地方長官ノ許可ヲ受クヘキコトハ、第六十四條ノ規定スル如シ、之カ變更ハ、地方長官ノ認可ヲ得ルニアラサレハ、其ノ效力ヲ生セサルモノトス

第六十九條 森林組合ノ設立ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

本條ハ森林組合カ第三者ニ對シテ、其ノ設立ノ效力ヲ完フスルニ必要ナル條件ヲ定メタリ、其ノ條件トハ何ソヤ、即チ登記是レナリ、登記ハ、登記法ノ定ムル處ニシテ本法ノ關知スル處ニアラス、然レトモ登記スヘキ場所ハ、本條ニ於テ規定セリ、即チ其ノ登記ハ、法人ノ事務所ノ所在地ニ於テ之ヲナスヘキモノトセリ、而シテ若シ其ノ登記ヲ怠ルトキハ、如何ナル制裁アリヤト云フニ、法人トシテ第三者ニ對抗シ得サルコト是レナリ、換言スレハ森林組合ハ、本法ノ規定ニ依リテ之ヲ設立シ、地方長官ノ許可ヲ經タル後ト雖、其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ、登記ヲナス迄ハ、森林

組合員及地方長官ニ對シテハ、法人既ニ成立セリト云フコトヲ得ヘキモ、第三者ニ對シテハ、之ヲ主張スルコトヲ得ス、但シ他人ヨリ森林組合ニ對シテ、其ノ成立ヲ主張スルヲ得ヘキハ勿論ナリ、即チ登記ハ、唯第三者ニ對抗スル爲ニスルモノニシテ、森林組合自體存立ノ爲ニスルモノニ非サルヲ以テナリ

第七十條 組合員ハ組合ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ新ニ地區内ノ森林又ハ森林產物ニ付組合ノ事業ヲ妨クヘキ行為ヲ爲スコトヲ得ス

本條ハ組合地區内ノ森林又ハ林產物ニ關スル制限ヲ規定シタルモノトス、即チ組合加入ハ第六十七條ニ依リ、強制シ得ルト雖、其加入シタル後ニ於ケル產物又ハ森林ニ關シ、別ニ規定スル處ナキニ依リ本條ヲ以テ之カ制限ヲ規定シタルモノトス

第七十一條 森林組合ハ主務大臣及地方長官之ヲ監督ス
監督官廳ハ何時ニテモ組合ノ事業ニ關スル報告ヲ徴シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ、其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ、又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

本條ハ森林組合ニ對スル監督官廳及之カ權限ヲ定メタルモノトス、即チ監督官廳ハ、主務大臣、地方長官ノ二者ニ限ラレタルモノナリ、故ニ大林區署長ノ如キハ、國家森林經營上、重大ナル責任ヲ有スルト雖、森林組合ニ關シテハ、何等職權ナキモノト

ス、而シテ此等監督官廳ハ、如何ナル方法ヲ以テ、監督ヲ爲スヘキヤト云フニ、專業ハ森林組合設立ノ際、大體定マレルモ、之カ詳細ナル施行方法ハ、定款ニ定メ在ラサルヲ常トス、故ニ其レ等詳細ナル事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ、事柄ノ如何ニ依リテハ、認可ヲ受ケシムルコトアリ、例ヘハ林道ヲ敷設スルニ付テハ、如何ナル種類ノ林道ヲ敷設スルカ又ハ之ヲ敷設シタル後、事業ノ開始ヲ爲スニ於テモ、彼ノ軌道ニ機關車ヲ通スル場合ハ認可ヲ受ケシムルカ如キ是レナリ、又時トシテハ事業及財産ノ狀況ヲ検査シ、以テ一ハ不正不法ノ處置ヲ爲ササラシムルト、一ハ組合ノ目的ヲ貫徹セシムル爲ニ、保護ヲ與ヘ、其ノ他必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲シ、臨機應變相當ノ手段ヲ以テ矯弊スヘキ權限アルモノトス

- 第七十二條 總會ノ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ法令、監督官廳ノ命令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ監督官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
- 一 決議ノ取消
 - 二 役員ノ解職
 - 三 組合ノ解散

本條ハ違法ノ決議又ハ行爲アリタルトキノ處分方法ヲ規定シタルモノトス、即チ

總會ハ、組合内部ノ意思ヲ決定スル機關ナレハ、此ノ決議ハ、役員ハ勿論、組合員一同服從スヘキ義務アルモノナリ、故ニ如何ニ違法、不當ノ決議ト雖、取消ササル間ハ、役員ハ其ノ決議ニ依リ、事業ヲ執行セサルヲ得サルモノナリ、故ニ取消サレタル決議ニ代フルニ、適法、妥當ノ決議ヲ爲サス、尙依然違法、不當ノ決議ヲ爲シ、組合ノ意思ヲ變更セサルカ如キコトアルニ於テハ、最早社會ニ斯ノ如キ法人ノ存在スルヲ許ササルヲ以テ、監督官廳ハ、之カ解散ヲ命スルコトヲ得ルモノトセリ、又役員ハ組合ノ事業執行機關ナレハ、其ノ行爲ノ如何ニ依リテハ、組合ノ目的ヲ貫徹シ得サルノミナラス、却テ公益ヲ害スルカ如キコトナキヲ保シ難シ、故ニ斯ル不都合ノ行爲、即チ違法若ハ公益ヲ害シ、或ハ害スルノ虞レアリト認ムヘキ處ノ行爲ヲ爲ス役員ニ對シテハ、監督官廳ハ、解職ヲ命スルコトヲ得ルノミナラス、場合ニ依リテハ、組合解散ヲ命スルコトヲ得ルモノトセリ、是レ組織意思ノ違法、不當ニ對スルト同一理由ナリトス

- 第七十三條 森林組合ニ於テ本章又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ役員チ二回以上百圓以下ノ過料ニ處ス
- 前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

本條ハ過料ヲ科スヘキ人、場合及其ノ額竝ニ之カ手續ヲ定メタルモノナリ、而シテ過料ヲ科スヘキ人ニ付テハ、單ニ役員トアリテ、役員ノ如何ナル者ナルカヲ規定セサルヲ以テ、苟モ役員タレハ、理事及監事ハ勿論、其ノ他、如何ナル役員ニテモ、自己ノ職責上ニ於テ、本章又ハ本章ニ基キ發スル命令、即チ組合令ノ如キ規定ニ、違反シタル場合ハ、二圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラルルモノトス、而シテ處分ノ手續ハ、裁判管轄ニ關シテハ、組合ノ住所地ニ依ラス、過料ニ處セラルヘキ者ノ、住所地ノ地方裁判所ノ管轄トスルカ如ク、又之カ裁判ハ當事者ノ陳述ヲ聽キ、檢事ノ意見ヲ求メタル上、理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲シ、尙當事者及檢事ニハ、過料ノ裁判ニ對シテハ、即時抗告ヲ爲スノ途ヲ、與ヘタルカ如ク、或ハ過料ノ裁判ハ、檢事ノ命令ヲ以テ、之ヲ執行スル等、及抗告ノ效力、費用負擔方法竝ニ執行命令ノ效力等ハ、非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用スルモノトス

第七十四條 造林ノ用ニ供スル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス

本條ハ森林ニアラサル土地ヲ、特ニ森林ト看做スヘキ場合ヲ規定シタルモノトス、而シテ本條ハ、貴族院ニ於テ追加シタル規定ニシテ、追加ノ理由トシテ、政府提出案第一條ヲ削除シタル結果ナリトノ説明ナリ、蓋シ造林ノ用ニ供スル土地ニシテ、未

タ森林タラサルモノアルヘシ、斯ル土地所有者ヲ、森林組合ニ加入セシムル必要アルトキト雖、本條ノ規定ナキニ於テハ、之ヲ加入セシムルヲ得サルナリ、故ニ本條ヲ追加シ以テ其ノ不便ヲ救濟セントスルモノトス

第七十五條 本法ニ規定スルモノノ外森林組合ノ設立、管理、解散、清算其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本條ハ森林組合設立等ニ關シ、本法規定以外ノ必要事項ノ規定ハ、勅令ニ委任シタルコトヲ定メタルモノトス、即チ明治四十年勅令第三百四十八號森林組合令ハ、本條ノ規定ニ基キ定メタルモノナリ、而シテ本條ハ、勅令ヲ以テ之ヲ定ムトアルニ依リ、本條列記ノ事項ヲ規定スル場合ハ、必ス勅令ニ之ヲ定ムルノ外省令其ノ他ノ命令ヲ以テハ規定シ得サルモノトス

第七章 森林警察

警察トハ社會ノ秩序ニ對スル危害ヲ豫防スル爲、直接ニ人ノ自由ヲ制限スル行政權ノ作用ナリ、則チ社會各人ヲシテ、各其ノ分ヲ守ラシムル爲、將ニ來ラントスル處ノ危害ヲ豫察シ、以テ之ヲ警戒防止スルニアリ、從テ之カ目的ヲ達スルニハ、各人カ

其ノ爲サムトスル所ヲ爲サシメス、又爲ササラントスル所ヲ爲サシムルモノトス

警察ノ意義叙上説明ノ如シトスレハ、森林警察トハ、森林家ノ秩序ヲ保持スル目的ノ爲ニ、之カ關係者ノ自由ヲ制限スル行政權ノ作用ナリト言ハサルヘカラス、是レ本章ニ於テ森林產物ニ使用スル記號、印章ノ届出、營業帳簿ノ備付、竝ニ記載方及火入ヲ爲サントスルトキニ於ケル防火ノ設備竝ニ接近セル所有者ニ通知方、其ノ他害蟲驅除、豫防等ヲ強制シ又ハ他人ノ記號、印章ト同一若ハ類似ノモノヲ使用スルコトヲ禁止スル等ノ如キ國民ノ行爲、不行爲ヲ制限スヘキ行政官ノ活動範圍ヲ規定シタル所以ナリトス

第七十六條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ左ノ命令ヲ發シ若

- ハ處分ヲ爲スコトヲ得
- 一 森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ定メ所轄警察官署ニ届出テシメ森林產物ノ届出前之ヲ使用セシムルコト
- 二 前號ニ依リ届出テタル記號印章ト同一又ハ類似ノ記號若ハ印章ノ使用ヲ禁止スルコト
- 三 前二號ノ規定ニ違反シタル者ニ對シ森林產物ノ運搬ヲ停止スルコト

四 森林產物ニ關スル營業者ヲシテ帳簿ヲ設ケ其ノ產物ノ出所、種類、數量及仕向先ヲ記載セシムルコト

五 前各號ノ外森林ノ危害防止ニ關スルコト

本條ハ森林警察ニ關スル地方長官ノ權限ヲ規定シタルモノトス、即チ地方長官ニ於テ必要アリト認メタルトキハ第一號乃至第五號ノ事項ニ關シ適宜ノ命令ヲ發シ、若ハ處分ヲ爲スコトヲ行ルモノナリ、而シテ命令トハ、將來起リ得ヘキ數多ノ事件ニ一般的ニ適用スヘキ行爲ノ準則ヲ定メタルモノニシテ、處分トハ、特定ノ事件ヲ處理スルコトヲ云フモノナリ、故ニ府縣合若ハ廳令ヲ發シ準據スヘキ法規ヲ定ムルカ如キハ命令ニシテ、洪水ノ際、川口ニ流下シタル木材ノ運搬ヲ停止スルカ如キハ處分ナリトス、則チ本條ハ地方長官ニ、此等ノ權限ヲ與ヘ、相當ノ取締ヲ爲シ、以テ林業家ヲ保護セシムルコトトセリ、是レ舊森林法第三十一條ノ如ク、一般的ニ法律ヲ以テ規定セサルハ、地方ノ狀況ニ依リ、自然取締ノ方法ヲ異ニスル必要アルヲ以テ地方長官ノ自由裁量ニ委シタルモノトス、故ニ地方長官ニ於テ、本條各號ノ事項ニ關シ、何等ノ命令ヲ發セス、亦何等ノ處分ヲ爲ササルモ決シテ違法ニアラサルナリ、而シテ今各號ノ場合ニ於テ、取締ノ必要ナル理由ヲ略說セントス

第一號ハ森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ定メ、所轄警察官署ニ届出テシメ、森林產物ノ搬出前之ヲ使用セシムルコトトシタルハ、從來森林所有者及林業家カ自己ノ取扱ヒタル物件タルコトヲ明示スル爲、其ノ物件ニ一定ノ記號ヲ附シ、印章ヲ捺スルコト少カラス、此ノ記號又ハ印章ハ、伐木造材等ノ行爲ニ付、責任者ヲ搜索セントスル場合ニ、其ノ記號、印章ノ使用者ヲ、警察署ニテ、豫知スルトキハ、直ニ其ノ責任者ヲ知ルコトヲ得ルノミナラス、他人ノ記號、印章ニ類似シタル記號、印章ヲ使用シテ、世人ヲ瞞著シ、又責任ヲ免レントスルカ如キ者ヲ取締ルニ尤モ便宜ナリトス、然リ而シテ本號ハ舊法第三十一條ノ如ク伐木、造材又ハ木材賣買ヲ業トスル者ト規定セサルヲ以テ、一般的ニ適用スヘキモノナリ、故ニ森林所有者カ、自用ノ爲ニ、僅々五六本ノ伐木搬出スルニ付テモ記號又ハ印章ヲ定メ、届出テシメ、森林產物ノ搬出前之ヲ使用スルノ必要アルカ如シト雖、斯ル自用者ニマテモ記號又ハ印章ヲ届出テシムルハ、繁ニ堪ヘサルノミナラス、自己ノ森林ヲ伐採シ、直ニ自己ノ家ニ運搬スルモノハ、假令記號、印章ナシト雖、其ノ責任者ハ、自ら明瞭ナレハ、別ニ記號、印章ヲ使用セシムルノ必要ナキモノトス、然レトモ青森、秋田等ノ如ク盜伐頻繁ナル地方ニ於テハ、斯ル場合モ、尙取締ノ必要ナキヲ保セス、

是レ其等ノ範圍及程度ハ、一ニ地方長官ノ自由裁量ニ委シタルモノトス
記號、印章トハ、如何ナルモノナリヤト云フニ、多少議論ハアレトモ、普通、印ト稱スルモノハ、或物體ノ表面ニ存在スル一定ノ形狀シ、紙面又ハ他ノ物體ニ押捺シテ常ニ一定ノ影蹟ヲ、現出セシメ、以テ或事實ヲ證明スル用ニ供スルモノヲ云ヒ、其ノ現出セシメタル影蹟ヲ、印章ト云フ、而シテ其ノ影蹟ノ符號タルト、文字タルトヲ問ハサルナリ、本條ニハ林產物ニ使用スル云云トアルニヨリ、彼ノ木材炭俵等ニ押用スル極印及焼印等ノ印章ヲ指シタルモノトス、又記號トハ、筆寫スルカ若ハ刀乃ヲ以テ、一定ノ形蹟ヲ刻記シ、以テ或事實ヲ證明スル用ニ供スルヲ云フ、又其ノ形蹟ノ符號タルト、文字タルトヲ問ハサルナリ、而シテ共ニ林產物ノ所有タル取扱者ノ出所、品種、精粗、運賃等ヲ證明スルモノトス
第二號ハ其ノ記號、印章ニシテ、若シ他人ノ記號、印章ニ類似スルモノヲ使用スル者アルトキハ、警察署ニ於テ、之ヲ禁止スルコトノ職權ヲ規定シタルモノトス、即チ第一號ヲ規定スルモ、若シ第二號ノ規定ナキトキハ、他人ノ記號、印章ト同一又ハ類似シタル記號、印章ヲ使用スルモノナキヲ保セス、故ニ警察署ノ禁止ノ職權ヲ與ヘ以テ取締ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定シタルモノナリ

第三號ハ第一號又ハ第二號ノ規定ニ違反シ、森林產物ニ使用スル記號、印章ヲ定メ
 ス、從テ所轄警察署ニ届出テサルカ又ハ記號、印章ヲ定メテ、之ヲ届出テタルモ、森
 林產物ノ搬出前、之ヲ使用セサルカ、或ハ他人ノ記號、印章ト同一又ハ類似ノ記號、
 印章ヲ使用シタル者ニ對シ、森林產物ノ運搬ヲ停止スルコトヲ得ルモノトセリ、
 是レ第一號並ニ第二號ノ效力ヲシテ完カラシムル規定ナリトス

第四號ハ森林產物ニ關スル營業者ノミヲ拘束シ得ル規定ナリトス、即チ森林產物
 ノ營業者ヲシテ、帳簿ヲ設ケシメ、其ノ產物ノ出所、例ヘハ何國有林拂下ニ係ル分
 若ハ何府縣郡市町村何某所有ノ何森林買受伐採木ト云フカ如ク、之カ種類杉、松、
 樟等數量ハ何尺、何何棚等ノ如シ、又其ノ仕向先ハ、何村何某賣渡シ、何港ヘ輸出等
 ト記載セシメ、以テ其ノ經過ヲ明カニシ、取締ニ便ナラシムルモノトセリ

第五號ハ第一號乃至第四號ニ定メタル外、森林ノ危害防止ニ關スル取締方法ニ對
 スル命令若ハ處分ノ權限ヲ規定シタルモノトス、即チ第一號乃至第四號ハ、森林
 產物ノ搬出者ニ對スル取締ニシテ、本號ハ森林ノ危害防止ニ關スル取締ナリト
 ス、例ヘハ森林火入又ハ害蟲驅除ニ關シ、府縣令ヲ設クルカ又ハ此等ニ關スル處
 分、即チ彼ノ樹苗ニ森林ノ害蟲、微菌等發生シタル場合、其ノ驅除又ハ豫防上必要

ナルトキハ被害苗木ノ燒棄ヲ命ジ、漫延ヲ防止スルカ如キ是レナリ

第七十七條 森林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏
 其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森林產物又ハ森林產物ニ關
 スル營業者ノ手板、帳簿及器具ニ付検査ヲ行フコトヲ得

本條ハ森林產物又ハ林產物ニ關スル營業者ノ手板、帳簿器具ノ検査ニ關スルコト
 ヲ規定シタルモノニシテ、舊森林法第三十二條ト略ホ同一ナルモノトス、即チ伐木
 造材等森林產物ニ關スル營業者ノ所有スル手板、帳簿器具ハ森林ノ取締上検査ヲ
 必要トスルコト少カラス、例令ハ盜伐犯ニ對スル搜索等ノ場合はレナリ、斯ノ如キ
 必要ニ當リ、森林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏ハ職權ヲ
 以テ其物件ヲ検査スルコトヲ得ルモノトセリ、從テ營業者ハ之カ検査ヲ拒ムコト
 ヲ得サルモノナリ

而シテ之カ検査ヲ爲シ得ヘキ官吏ハ、森林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ
 有スル官吏、公吏ナリトス、是レ舊法第三十二條ノ森林官吏又ハ警察官吏トアリタ
 ルニ比シ、犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル者ヲ加ヘタルハ、刑事訴訟法ニ規定アルヲ以
 テナリ

茲ニ手板トハ、板片ニ木數、品種等ヲ記載スルモノニシテ、伐木業者間ニ於テ、常ニ家

外ニ用ヒラレ、帳簿ト同一ノ效力ヲ爲スモノトス
若シ本條ニ背キ、檢査ヲ拒ム者アルトキハ、其ノ制裁ハ本法第百一條ノ規定スル所ニシテ、二十圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノナリ、其ノ檢査ヲ拒ミタル行爲ニシテ、刑法ニ正條アルモノ、例ヘハ刑法第九十五條ニ違反スル場合ノ如キハ、該條ニ依テ處分スルモノトス

第七十八條

森林、原野、山岳又ハ荒蕪地ニ於テハ、地方長官ニ於テ必要ト認メ主務大臣ノ認可ヲ得テ指定シタル場合ヲ除クノ外、火入ヲ爲スコトヲ得ス

前項指定ノ場合ニ於テ火入ヲ爲サムトスルトキ又ハ前項以外ノ土地ニシテ森林ニ接近セル土地ニ火入ヲ爲サムトスルトキハ、森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ受ク可シ

本條ハ林野ノ火災ヲ取締ル規定ナリ、一般火災ニ付テハ、普通警察ノ範圍ニ屬シ吾人ノ住宅附近ニ於テハ、生命財産ヲ保護シ、公衆ノ安寧秩序ヲ保ツ上ニ於テ、直接關係ヲ有スルヲ以テ、警察官ハ勿論、消防組ヲ組織シ、夜番ヲ設置スル等、警火怠リナク勵ムル處ナルモ、人里ヲ離レタル森林、原野、山岳、荒蕪地等ニ於テハ、此等ノ注意届カサルノミナラス、落葉、枯枝等ノ可燃體多ク、一度火ヲ失スルトキハ、人ノ集合、消防夫

ノ活動、水ヲ得ルコト困難ナルヲ以テ、往往數晝夜ニ涉リ、大面積ヲ消失シ、山間部落ニマテ延焼シタル實例乏シカラス、故ニ本法ニ於テハ、火入ニ對スル特別規定ヲ設ケ、其ノ適用範圍ハ森林ノミナラス、原野、山岳、荒蕪地及森林ニ接續セル土地ニ及ヒ取締ヲ爲スニ至レリ

抑モ木材ノ價值少キ時代ニアリテハ、森林ハ牧畜農耕ノ爲ノ妨害物タルハ免カレズ、故ニ簡易ナル掃除法トシテ燒棄セラレ、其ノ後家畜ノ飼料、田畑ノ肥料トシテ採掘ノ必要上、火入ノ慣行ヲ馴致シ、林野ニ火入ヲ爲スハ當然ナルカ如ク心得ルニ至レリ、而シテ火入ヲ爲スモノノ理由トシテハ、良草ヲ發生セシムルコト、雜灌木ノ發生ヲ防止シ、刈取ニ便ナラシムルコト、害虫ヲ驅除スルコト、土壤ノ理學的性質ヲ改良スルコト、可溶性ノ灰分肥料ヲ多クスルコト等ニシテ、中ニハ必要ト認ムル事由ナキニアラサルモ、連年火入ヲ爲ストキハ、可溶性ノ灰分肥料ヲ増スト稱スルモ、有機成分ヲ失ヒ、土壤ヲ粗鬆ナラシメ、結合カヲ失ヒ、爲ニ降雨毎ニ表土及肥料分ヲ流失シ、漸次不生産的荒廢地ヲ多クスル因トナリ、土砂ノ流失ハ、治水上有害ナル結果ヲ來シ、亦良草ヲ多クスルト稱スルモ、火ニ強キ深根性植物ノ殘留スルノミニシテ種子ヲ以テ繁殖スルモノ淺根性ノモノ等ハ、絶滅シ種類ヲ少クスルノミナラス、

其ノ收量ヲ減スルコト明カナリ

要スルニ火入ハ、或ル特別必要ノ場合ニ之ヲ許可シ、一般的ニ之ヲ禁止スルハ、取締上最適當ト認メラルル處ナルヲ以テ、本條ハ地方長官ニ於テ必要ト認メ、主務大臣ノ認可ヲ受ケタル範圍内ニ限リ、許可シ得ルコトトセリ、例之造林ノ地拵ノ爲必要ナルトキ、害蟲驅除ノ爲必要ナルトキ、燒畑開墾ノ爲必要ナルトキ、防火線境界等燒拂ノ爲必要ナルトキ、其ノ他地方ニ依リ必要ト認ムル事項ニ付豫メ認可ヲ受ケ、許可スルニ際シ利害得失ヲ十分調査シ、周圍ニ於ケル燃燒物ノ有無、危險ノ度等ヲ顧慮シ、許否ヲ決シ尙必要ニ應シ、人ノ配置、火入ノ方法、消火具ノ携帶等ヲ命シ、危險ノ取締ヲ爲スヘキモノナリ

第二項ハ林種別ニ依リ火入ノ許可ヲ受ケタル取扱官廳ノ異ナル差別ヲ規定セルモノニシテ、御料林ニ火入ヲ爲サムトスルモノハ帝室林野管理局職員、林區署所管國有林ニアリテハ同署森林官吏、其ノ他ノ土地ニアリテハ、所轄警察官吏ニ申請ヲ爲シ、其ノ火入地カ他人ノ所有、若ハ占有ニ屬スルトキハ、所有者又ハ占有者ノ承諾ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スルコトヲ要ス、但シ帝室林野管理局所管地及林區署所管地ニアリテハ之ヲ要セス、而シテ本條ハ強制規定ナルヲ以テ、若シ本條ニ違反

シタル者アルトキハ、其ノ制裁ハ本法第百二條ノ規定スル所ニシテ五十圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノナリ之カ原因ニテ他人ノ森林ヲ燒棄シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス

第七十九條 前條ノ火入ヲ爲サムトスルトキハ豫メ防火ノ設備ヲ爲シ且接近セル森林ノ所有者又ハ管理者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

本條モ亦森林火災ノ危險ヲ取締ル規定ナリトス、即チ前條ノ火入ヲ爲スニ當リ、其ノ延燒ヲ豫防スル手段トシテ、火入者ニ對シテ防火ノ設備ヲ爲シ、且接近セル森林所有者又ハ管理者ニ、其ノ旨通知スヘキ義務ヲ負ハシメタルモノナリ、而シテ防火ノ設備ヲナスハ、素ヨリ延燒ヲ豫防スルノ手段ナリト雖、接近セル森林所有者又ハ管理者ニ通知スルハ、如何ナル必要アリヤト云フニ、接近者ニ於テ、火入ヲ爲スヘキコトヲ知ラサルトキハ、火災ノ生シタルモノト誤認シ、消防ノ用意ヲ爲シ、努力ヲ徒費スルカ如キコトアルノミナラス、火入者ニ於テ、十分防火ノ設備ヲ爲シタルトキト雖、接近セル所有者又ハ管理者ニ於テモ、自衛上相當ノ設備ヲ爲サシムル必要アル場合ナキヲ保シ難シ、是レ通知ヲ要スル所以ナリトス

若シ本條ノ違反シタル者アルトキハ、其制裁ハ前項ト同一ノ罰金ニ處スルノミナ

ラス、防火ノ設備、不完全ニシテ延焼、其ノ他危害アルトキハ、森林官吏又ハ警察官吏ハ、何時ニテモ火入ノ差止又ハ火入ノ方法、若ハ期日ノ變更、其ノ他相當ノ處置ヲ命スルコトヲ得ルモノナリ

第八十條

森林害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ、其ノ害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アル森林所有者之ヲ驅除豫防スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ、森林所有者ハ警察官署ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り森林害蟲ノ驅除豫防ヲ爲スコトヲ得

本條ハ害蟲驅除豫防ノ義務者及之カ義務者ニ於テ、他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得ヘキ權利ヲ規定シタルモノトス、即チ森林害蟲發生シ又ハ發生ノ虞レアルトキハ、何人カ之ヲ驅除豫防スルヤト云フニ、其ノ害蟲發生シ又ハ發生ノ虞レアル森林ノ所有者ニ於テ、之ヲ行フヘキ義務アルモノトセリ、而シテ義務者カ、此ノ驅除豫防スル爲ニ、必要アルトキハ、警察官署ノ許可ヲ得タル上、他人ノ土地ニ立入り、森林害蟲ノ驅除豫防ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第八十一條

森林害蟲蔓延シ又ハ蔓延ノ虞アル場合ニ於テ、地方長官ハ森林害蟲ノ驅除又ハ豫防ノ爲ニ必要ナル處置ヲ利害關係アル森林ノ所有者ニ命シ又ハ自ラ之ヲ行フコトヲ得、蟲類以外ノ動物又ハ獸苗ヲ驅除豫防スルニ付、主務大臣ノ認可ヲ得タル場合又同シ

前項驅除豫防ノ費用ハ、其ノ利害關係アル土地ノ面積又ハ地價ヲ準率ト爲シ、森林所有者ノ負擔トス、但シ地方長官自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ヲ除クノ外、費用ノ負擔者ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ、此限ニ在ラズ

地方長官第一項ニ依リ自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ニ於ケル費用ノ徵收ニ付テハ、行政執行法第六條ノ規定ヲ準用ス

本條ハ森林害蟲ノ驅除豫防ニ關スル地方長官ノ權限及驅除豫防ノ費用ノ負擔並ニ徵收方法ヲ規定シタルモノトス、即チ森林害蟲ハ、雷ニ一部ニ發生シタルノミナラス、各地ニ蔓延シ、又ハ蔓延スヘキ虞レアルトキハ、單ニ個人ノ驅除豫防ニノミナシ難キヲ以テ、地方長官ハ、驅除豫防ノ爲ニ必要ナル處置ヲ、利害關係ヲ有スル森林所有者ニ、強制的ニ命スルカ又ハ場合ニ依リテ自ラ驅除豫防ヲ行フコトヲ得ヘキモノナリ、且又森林害蟲以外ノ動物又ハ微菌ト雖、之カ驅除豫防ノ必要アルトキハ、其ノ動物又ハ微菌ノ名稱並被害產物ノ種類、狀況及驅除豫防ノ方法ヲ申立テ、主務大臣ノ認可ヲ得タル場合ハ、森林害蟲ト、同一處理スルノ權限アルモノトス、而シテ之カ費用ハ、其利害關係アル土地ノ面積及地價ヲ標準トナシ、森林所有者ニ、負擔セシムヘキモノナレトモ、地方長官自ラ驅除豫防ヲ實行シタル場合ヲ除クノ外、負擔者

ニ於テ、別段ノ負擔方法ヲナシタルトキハ、其方法ニ依リ、負擔スルモ差支ナキモノナリ、然レトモ地方長官ニ於テ、驅除豫防ヲ實行シタルトキハ、必ス土地ノ面積又ハ地價ヲ標準トシテ、賦課スヘキモノニシテ、其ノ徵收方法ニ關シテハ行政執行法第六條ノ規定ヲ準用シ、國稅徵收法ノ規定ニ依リ、之ヲ徵收スルコトヲ得ルモノニシテ、從テ行政官廳ハ、其ノ徵收金ニ付テハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

第八十二條 害蟲驅除豫防法第七條及第八條ノ規定ハ前二條ニ依ル驅除豫防ニ之ヲ準用ス

本條ハ森林害蟲驅除豫防ノ爲ニ生スル損害賠償及驅除豫防ニ從事スルモノノ土地立入りニ關スルコトヲ規定シタルモノトス、即チ第八十條及第八十一條ニ依リ森林害蟲若ハ蟲類以外ノ動物又ハ微菌ヲ驅除豫防スル場合ニハ、明治三十九年三月法律第十七號害蟲驅除豫防法第七條及第八條ヲ準用スヘキコトニ、規定セラレタルヲ以テ、驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ、被害者ハ、賠償ヲ要求スルコトヲ得サルモノナリ、又土地所有者、管理者又ハ使用者ハ、官吏及其ノ指揮ヲ受タル者ノ、其ノ土地ニ立入り、驅除豫防ニ從事スルヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

第八章 罰則

本章ハ森林ニ關スル犯罪者ニ對スル制裁ヲ規定シタルモノニシテ、學者ノ所謂特別刑法ナルモノトス、而シテ森林ニ關スル犯罪者ヲ處罰スルニ、何故ニ特別法ヲ設クルノ必要アリヤ、是レ森林犯罪ノ性質然ラシムルモノナリ、夫レ本章ノ罰則ハ、森林及其ノ產物ニ對スル犯罪ヲ懲戒スルモノナリ、其ノ範圍固ヨリ狭ク、其ノ罪質モ亦極メテ簡單ナリト雖、其ノ犯罪ノ情狀自ラ特別ノ性質アリ、以テ普通刑法ヲ適用スルノ穩當ナラサルハ少ク、林制ノ事情ニ通曉スルモノハ知ル所ナリ、例ヘハ竊盜罪等ノ爲ニ處刑ヲ受ケタル者ハ、其ノ隣友ハ擧ツテ、是レト齒セサルヲ常トスルニ拘ハラス、獨リ森林ノ盜伐犯ニ限リ、其ノ地方人民ハ之ヲ俟ツニ、犯罪者ヲ以テセス、地方ニ依リテハ、入檻出獄ノ際、之ヲ送迎スルモノアリ、故ニ古來森林ノ制度經營ニ心ヲ用ユル國ハ、皆特別ニ之カ處罰例ヲ規定セリ、而シテ其ノ刑罰ハ、普通刑法ヨリ峻嚴ナリトス、蓋シ森林ハ多ク、深山幽谷人跡稀ナル箇所ニ位置セルヲ以テ、之カ犯罪ハ、犯シ易ク、防キ難シ、而カモ叙上ノ如ク、之ヲ犯罪視セサル者アルニ於テオヤ、加之金刑ヲ主トシ、贓額ノ多寡ニ由リ、罰金額ヲ定ムルカ如キハ、森林犯罪ノ特例タリ、

是レ特ニ本章ヲ規定スル所以ナリトス

第八十三條 森林ニ於テ其ノ產物ヲ奪取シタル者ハ森林竊盜トシ三年以下ノ重禁錮又ハ贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス其ノ產物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ

本條ハ森林竊盜ノ定義ヲ示シ、且之カ處罰ヲ規定シタルモノトス、而シテ森林竊盜ノ定義ヲ明カニセント欲スレハ、普通竊盜ノ構成要素ヲ明カニセサルヲ得、故ニ先ツ以テ普通竊盜トハ、如何ナルモノナリヤヲ説キ、然後、森林竊盜ニ及ハム、抑モ普通竊盜ハ、刑法第二百三十五條ニ他人ノ財産ヲ竊取シタル者ハ、竊盜ノ罪ト爲シ云云ト規定セル如ク、故意ヲ以テ他人ノ財物ヲ竊取スル行爲ヲ謂フ、故ニ竊盜罪ヲ構成スルニハ、故意ナルコト、他人ノ財物ナルコト及盜取即チ他人ノ所持ヨリ己レノ所持ニ移スコトノ三要素ナカルヘカラス、而シテ本條ニハ、森林ニ於テ其ノ產物ヲ竊取シタル者トシ云云トアルニ依リ、森林竊盜ハ、此ノ三要素ノ外、特別ニ二個ノ要素附加スルヲ要スルモノナリ、即チ其ノ一ハ、犯罪ノ場所ハ、森林タルヘキコト、其ノ二ハ、竊取ノ目的物件ハ、森林ノ產物タルヘキコト是レナリトス、若シ此ノ二要素中、其ノ一ヲ欠クモ、森林竊盜ヲ以テ問擬スヘカラサルモノトス、故ニ森林以外ノ場

所ニ於テ、林產物ヲ竊取スルカ、又ハ森林内ニ於テ、林產物以外ノ物件、例ヘハ他人ノ衣服器具ヲ竊取スルカ如キハ、森林竊盜ヲ以テ處罰スヘキモノニアラス、處罰ニ付テハ三ヶ年以下ノ懲役又ハ贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處スルモノトス、是レ條文規定ノ重禁錮ハ、現刑法ノ主刑中ヨリ削除セラレタルニ依リ、刑法施行法第十九條ニ依リ、斯ク解釋セサルヲ得サルモノトス、而シテ本法中以下同一理由ナルヲ以テ特ニ此ノ點ニ付テ説明セス

- 第八十四條 森林竊盜ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二月以上三年以下ノ重禁錮及贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス
- 一 根株ヲ掘採、燬壞、燒燬若ハ隱蔽シ其ノ他罪跡ノ湮滅ヲ圖ルノ行爲アリタルトキ
 - 二 贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ
 - 三 贓物ヲ燃料トシテ贓物ノ採取、精製若ハ石灰、煉瓦石、瓦其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ
 - 四 贓物ヲ運搬スル爲馬、牛、船舶、車輛若ハ鐵ヲ使用シ又ハ運搬、造材ノ設備ヲ爲シタルトキ

- 五 保安林ニ於テ犯シタルトキ
- 六 森林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ犯シタルトキ
- 七 二人以上共同シ又ハ他人ヲ雇使シテ犯シタルトキ
- 八 森林保護ノ職務ヲ有スル者犯シタルトキ
- 九 差押ノ贓物ヲ隱匿消費滅却又ハ放棄シタルトキ
- 十 夜間犯シタルトキ

本條ハ普通ノ森林竊盜ニ比シ、罪狀重キ所爲アルモノニ對スル罰則ヲ規定シタルモノトス、即チ第一號及第九號ノ行爲ハ罪跡ノ湮滅ヲ圖ルニアリテ、其犯情重シ、第二號及第三號ノ行爲ハ、其ノ物件ヲ直ニ消費スルニ依リ、犯罪ノ檢舉ヲ困難ナラシム、第四號及第七號ノ行爲ハ豫メ其ノ害惡ノ多大ナルヲ企圖シタル者ニシテ、犯情輕カラサルモノトス、第五號ノ行爲ハ、事公益ニ關シ、被害ノ及ホス範圍ハ、管ニ森林所有者ノミニ止マラサルヲ以テ、犯情ノ如何ヲ問ハス、客觀的事實上、刑罰加重ヲ要スヘキモノナリ、第六號第八號及第十號ノ行爲ハ、何レモ犯罪ヲナシ易キ場合、若クハ時ニ乘シテ、罪ヲ犯シタルモノニシテ、社會ニ及ホス危害大ナルモノナリ、就中第六號及第八號ハ、自己ノ位置ヲ利用シ、相當ニ守ルヘキ義務ニ違反シ、罪ヲ犯シタルモノニシテ、所謂身分ニ基ク刑罰加重ノ原則ニ相當スルモノトス

叙上説明セル如ク、本條列記シタル所ノ行爲ハ、森林竊盜トシテ、何レモ犯情重キモノナレハ、特ニ其ノ處罰ヲ加重スヘク規定シ、之ヲ第八十三條ト區別シタルモノニシテ、其ノ自由刑ハ、二月以上三年以下ノ懲役ニシテ、之ニ加フルニ金刑ヲ併科スルモノトス、即チ前條ニ比シテハ、自由刑ノ最長期ハ、同一ナルモ、前條ニ於テハ、最短期ヲ定メサルニ反シ、本條ハ最短期ヲ二ヶ月ト定メタルノミナラス、前條ハ自由刑ニ處罰スルモ、金刑ニ處罰スルモ、其ノ一ヲ科スルニ止マルモ本條ハ其ノ常ニ自由刑ト、金刑ト併科スヘキモノトス

茲ニ注意スヘキハ、第二號及第三號其ノ他ノ物品ノ解釋是レナリ、即チ第二號ハ、贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、推茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキトアリテ、何レモ天然ノ形體ヲ變シテ製出セラレタルモノヲ、擧ケタルニ徴シタルヲ以テ見レバ、本號ニ其ノ他ノ物品トアルハ一切ノ物品ヲ包含スルモノニアラスシテ、専ラ天然ノ形體ヲ變化シテ製シタル物品ヲ指シタルモノナラン、贓物ヲ原料トシテ、天然ノ形體ヲ變化セシメタル物品ヲ、造ラントスルニハ、多ク火力ヲ用ヒテ、製造セザルヲ得ス、故ニ本號ノ行爲ハ、一ハ林内ニ於テ火ヲ用ユルハ危險多キト、一ハ天然ノ形體ヲ變化シテ、物品ヲ造リタルトキハ、犯罪檢舉ニ困難ナルトニ依リ、其ノ刑罰ハ、之ヲ

普通ノ竊盜ト區別シテ、重クセサルヲ得サル所以ナリトス、而シテ第三號モ、第二號
同様例示シタル如キ、類似ノ物品ヲ製造ニ使用シタル燃料ノミニ限リタルヤ否ヤ
ト云フニ、是レ亦前號同一法文ニシテ、何等制限ナキモ、刑罰令ハ狹義ニ解スヘキモ
ノナレハ、營利事業ノ燃料トシテ、使用シタル場合ニ制限スヘキモノナリ、故ニ彼ノ
飯ヲ炊キタル燃料ノ如キハ、包含セサルモノトス

爰ニ注意ヲ要スルハ、本條ハ其ノ性質、獨立罪ニアラスシテ、加重條件ヲ擧ケタルモ
ノナリ、而シテ本條第一號乃至第四號及第九號ノ場合ニハ未遂ナク、同條第五號乃
至第八號及第十號ノ場合ニハ未遂犯アリ、而シテ未遂犯ノ場合ニハ減輕ヲ爲スコ
トヲ得ルノ結果、第八十三條トノ權衡上、多少奇異ノ點アルモ、是レ亦已ムヲ得サル
ナリ、而シテ此ノ點ハ新刑法ノ未遂罪ノ規定ニ依リ、其ノ運用上缺點ヲ補正スルコ
トヲ得ヘキナリ

第八十五條 前條第二號ニ依リ製シタル物品ハ之ヲ森林竊盜ノ贓物ト看
做ス

本條ハ森林法ニ於ケル贓物ノ範圍ヲ規定シタルモノトス、即チ普通ニ所謂贓物ト
ハ、犯罪ニ依リテ直接ニ得タル物品ナラサルヘカラス、贓物ヲ原料トシテ、製造シタ

ル物件若ハ贓物ヲ賣却シテ得タル金錢ノ如キハ、贓物ト云フヘカラサルモノ
然ルニ森林法ニ於テハ、前條第二號ノ製品即チ贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松
根油其ノ他ノ製品ヲモ贓物ト看做スト云フニ在リテ、例示シタル木炭、樟腦、椎茸、松
根油ノ如キハ、何レモ天然ノ形態ヲ變更スヘキモノナレハ普通ニ所謂贓物タラサ
ルヤ勿論ナリ、然ルニ是ヲシモ、贓物ト看做スヘキヲ以テ、其ノ他ノ器具、例ヘハ箱、桶、
櫓櫃ノ如キ製造品ハ、勿論贓物ト看做スヘキモノナリ

第八十六條 民法第九十六條ノ規定ハ森林竊盜ノ贓物ノ回復ニ之ヲ適
用セス但シ善意ノ取得者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

本條ハ民法第九十六條ノ特例ヲ規定シタルモノトス、而シテ民法第九十六條
ハ、如何ナル事ヲ定メタルヤト云フニ、占有者カ、占有物ヲ權利者ニ返還スル場合ニ
於テ、之ニ對シテ償還ヲ求ムルコトヲ得ル範圍ニ關スル規定ナリ、則チ占有者カ、占
有物ニ費用ヲ加ヘタルトキハ之ニ因リテ生スル利益ハ、其ノ物ノ返還ヲ受タル權
利者、之ヲ享受スヘキカ故ニ其ノ占有者ノ善意タルト、惡意タルヲ問ハス、其ノ費用
ノ全部又ハ一部ヲ之ニ償還スルハ固ヨリ當然ナル所ナリ、唯費用ノ種類ニ從ヒ其
ノ償還ヲ爲スヘキ限度同シカラス、抑モ費用ハ、古來之ヲ三種ト爲ス、一ニ曰ク、必要

費又之ヲ保存費ト謂フ、即チ物ノ保存ニ必要ナルモノニシテ修繕費、租税等はレナ
 リ、二ニ曰ク、有益費、又之ヲ改良費ト謂フ、物ノ保存ニハ必要ナラスト雖、其ノ價ヲ増
 スヘキモノニシテ、例ヘハ素材ニ彫刻、其ノ他ノ加工ヲ爲ス如キ是レナリ、三ニ曰ク、
 徒冗費、又之ヲ奢靡費ト云フ、物ノ保存ニ必要ナク、又物價ヲモ増加セスシテ、單ニ占
 有者ノ嗜好ニ應シ、其ノ快樂ヲ増加スルニ過キサルモノニシテ、例ヘハ木材ナラバ、
 横積ミト爲シアリタルヲ、縦竝トナスカ如キ、單ニ積方ノ模様換ヲ爲ス等はレナリ
 右ノ三種ノ内、必要費ハ、若シ之ヲ施ササレハ、其ノ物ヲ保存スルコト能ハサルカ故
 ニ、占有者カ、之ヲ施シタル場合ニ於テハ、物ノ返還ヲ受ケタル權利者ハ、之ニ其ノ全
 額ヲ返還セサルヲ得ス、有益費ハ、物ノ價ヲ増加スヘキモノナルカ故ニ、若シ權利者
 ニシテ、之ヲ償還セサレハ、不當ノ利得ヲ受クルニ至ルヘキヲ以テ、其ノ償還ヲナス
 ハ固ヨリナリト雖、此ノ費用ハ、元來物ノ保存ニ必要ナルモノニアラスシテ、單ニ價
 ヲ増加スルノ理由ニヨリ、償還ノ責ヲ生スルモノナルカ故ニ、若シ其ノ増價額、費用
 ノ額ニ及ハサルトキハ、權利者ハ、必スシモ其ノ全額ヲ償還スルコトヲ要セス、又其
 ノ費用、特ニ有益ニシテ、之ニ依リテ生シタル増價額却テ費用ノ額ヨリモ多キトキ
 ハ、權利者ハ、尙其ノ増價額ヲ償還スヘキカ如シト雖、不當ノ利得ナルモノハ、元來正

當ノ理由ナク、他人ヲ害シテ、己ヲ利スルコトヲ得サルニ因リテ、義務ヲ生スルモノ
 ナルカ故ニ、假令物ノ増價額ハ、費用ノ高ヨリ多キモ、若シ權利者ニシテ、其ノ費用額
 ヲ占有者ニ償還スルトキハ、毫モ損失ヲ蒙ルコトナシ、故ニ權利者ノ利得ハ、即チ是
 レアリト雖、敢テ之ヲ不當ナリト云フコトヲ得ス、是レ有益費ニ付テハ、權利者ハ其
 ノ選擇ニ從ヒ、或ハ費用ノ全額ヲ償ヒ、或ハ物ノ増價額ヲ返スヘキモノトシタル所
 以ナリ、若シ夫レ徒冗費ハ、毫モ權利者ヲ益スルコトナキカ故ニ、若シ權利者ニシテ
 此ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ償還スヘキモノトセハ、却テ損失ヲ蒙ルニ至ルヘキヲ
 以テ、權利者ハ一切此ノ費用ヲ償還スルコトヲ要セサルナリ
 以上ハ費用ニ關スル原則ニシテ、即チ民法第九十六條ノ規定スル所ナリ、然ルニ
 森林竊盜ノ贓物ノ回復ニ關シテハ、之ヲ適用セサルヲ以テ、徒冗費ハ勿論、保存費並
 ニ有益費トモ、一切之ヲ償還セサルモノナリ、故ニ贓物カ出水ノ爲流失セントシタ
 ルヲ、適當ノ箇所ニ運搬シ流失セサル様保存シタル費用又ハ素材ニ彫刻ヲ施シ若
 ハ其ノ他加工ヲナシ價額ヲ増加セシメタルト雖、權利者ハ、之カ費用ヲ償還セサル
 コトヲ定メタルモノトス、然レトモ贓物タルコトヲ知ラスシテ、取得シタル所ノ者
 ニシテ、若シ保存費又ハ有益費ヲ支辨シタル場合ハ、民法第九十六條ノ原則ニ因

リ之ヲ償還スヘキハ勿論ナリトス

第八十七條 森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知リテ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ
若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮及贓額以上贓額二
倍以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ森林竊盜ノ贓物ニ關スル犯罪ヲ規定シタルモノトス、是レ森林竊盜ニ隨伴
シテ生スルカ故ニ、學者通常斯ル犯罪ヲ稱シテ、事後從犯ト云フ、然レトモ是レ畢竟
便宜上ノ名稱ニシテ、學理上ニ於テハ、盜罪等夫レ自體ノ實質ニ關セスシテ、格別ニ
發生スルカ故ニ、獨立ノ一罪トス、即チ本罪ハ下ノ要素ヲ以テ構成ス

一犯罪ノ目的物ハ贓物ナルコト

二犯罪ノ行爲ハ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタルコト

三犯罪ノ意思ハ、贓物タルノ情ヲ知テ、之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲スノ
意アルコト

是レナリ

第一ノ要素、犯罪ノ目的物ハ、贓物ナルコトヲ要ス

贓物トハ、犯罪ニ因テ不正ニ獲得シタル物件ヲ云フ、故ニ本法ニ於テ贓物トハ、第

八十三條及第八十五條ニ該當スルモノ是レナリ

第二ノ要素、犯罪ノ所爲ハ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタルコトヲ
要ス

(一)受クルトハ、授クル者ヲ領收スルノ總稱ナルカ故ニ、苟モ授クルニ依テ、之ヲ占
有シタルモノハ、名義ノ如何ヲ問ハス、皆茲ニ所謂受クル者タルカ如キモ、法律
カ之ト相對シテ、更ニ寄藏、故買、牙保等凡テ犯罪ノ結果ヲ保全シ、以テ犯罪人ヲ
利シ、若ハ犯罪人ト共ニ己ヲ利スル行爲ヲ列舉スルニ依テ、之ヲ觀レハ、茲ニ受
クトハ、無償ニテ之ヲ貰ヒ受ケ、以テ犯罪ノ餘惠ヲ蒙ルコトヲ意味スルモノニ
シテ、其ノ修繕、改造又ハ運搬等ノ勞力ヲ施ス爲、單ニ之ヲ占有シタルニ過キサ
ルモノノ如キハ、之ヲ包含セサルモノト信ス

(二)寄藏トハ、寄託ヲ受ケテ之ヲ收藏スルコトヲ言フ

(三)故買トス、交換、販賣等廣ク有償名義ニテ、之ヲ獲得スルコトヲ云フ

(四)牙保トハ、讓渡人ト讓受人トノ間ニ介在シ、賣買ノ媒介ヲ爲スヲ云フ、賣買ノ媒
介ヲ爲スコトヲ言フカ故ニ、賣買ヲ了リタルトキニ於テ完成スルモノトス

第三ノ要素、犯罪ノ意思ハ、贓物タルノ情ヲ知テ、之ヲ受ケ、又ハ寄藏故買シ若ハ牙

保ヲ爲スノ意思アルコトヲ要ス

以上説明セル犯罪ニ對スル處分ハ、一月以上三年以下ノ懲役及贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ヲ併科スルモノトセリ、即チ第八十三條ノ森林竊盜ヨリハ重ク處分シ、第八十四條ノ加重處罰ノ森林竊盜ト稍同一ニ處罰スルモノトス、抑モ森林竊盜ノ贓物ニ關スル犯罪ノ刑罰タルヤ、之ヲ森林竊盜ノ刑罰ニ比スレハ、重ク處罰スルハ如何ナル理由ニ基クカト云フニ、森林竊盜タルヤ、元來犯シ易クシテ、且免レ易シ、殊ニ直接、間接ニ之ヲ補助スル者アルトキハ、竊ニ其ノ罪跡ヲ湮滅スルコトヲ得、本條ノ犯罪者ハ、即チ間接ノ補助者ニシテ、實際森林竊盜ノ目的ヲ貫徹セシムル者ハ、實ニ此ノ犯罪者アルニヨリタルモノ多シ、其ノ甚シキニ至テハ、專ロ間接ノ獎勵者タル事實ヲ有スル者少カラズ、恰モ森林竊盜ノ害惡ヲシテ益々重大ナラシムル所以ノ根源タルカ如キ性質ヲ有スルヲ以テ、其ノ制裁ハ多少嚴重ナル傾向アルヲ至當トス

第八十八條 第八十三條、第八十四條及前條ノ贓額ノ二倍カ二圓ニ滿タサルトキト雖其ノ罰金ハ二圓以下ニ下スコトヲ得ス

本條ハ罰金刑ノ最低額ヲ規定シタルモノトス、即チ罰金額ヲ二圓以下ニ低減スル

トキハ、舊刑法第二十六條ノ制限ヲ越出シ、自然刑ノ種類ヲ變更スルノ嫌アルノミナラス、少額ノ贓物ニ對シテハ、計算上繁雜ヲ醸スノ虞アリ、旁最低額ヲ二圓ト定メタルモノトス、然リ而シテ現行刑法第十五條ニ依レハ、罰金ハ二十圓以上トス、但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ、二十圓以下ニ降スコトヲ得ト規定シアルヲ以テ、二十圓以下ノ財産刑ハ、罰金ニアラサルカ如ク感セラレルモ、刑法施行法第二條及第十九條ニ依リ、刑名ハ依然罰金タルコトハ、敢テ疑ヲ容レサル處ナリ、而シテ同法第二十条ニ依レハ、他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ、期間又ハ金額ヲ變更セスト規定シア

第八十九條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ、輕懲役ニ處ス、因テ主產物ヲ燒

燬シタル者ハ、重懲役ニ處ス

自己ノ森林ニ放火シタル者ハ、二月以上二年以下ノ重禁錮又ハ二百圓以

下ノ罰金ニ處ス、因テ他人ノ森林ノ主產物ヲ燒燬シタル者ハ、五年以下ノ

重禁錮ニ處ス

本條ハ森林放火罪ニ關スル規定ナリ、而シテ之カ犯罪ノ性質ハ、財産權ノ侵害ト公共ノ靜謐ヲ害スル罪トス、是レ自己ノ所有ニ屬スル森林ト雖、之ヲ燒燬スレハ、犯罪ヲ構成スル所以ナリ、若シ財産ニ對スルノミノ犯罪トスレハ、其ノ所有權、他人ニ屬

放火罪

スル場合ノミニアラサレハ成立セサルヲ原則トス、蓋シ財産ニ對スル犯罪ハ、他人ノ財産權ヲ侵害スルカ故ニ、之ヲ罰スルモノナリ、其ノ權利カ自己ニ屬スル場合ハ、如何ニ之ヲ處分スルモ、其ノ權利行為ニシテ、財産權ヲ侵害スルモノト云フヘカラス、隨テ之ヲ處罰スヘキ理由ナシ、然ルニ放火罪ニハ、其ノ所有權犯人ニ屬スル場合ニ於テ、尙成立スルモノトシタルハ、犯罪ノ性質、獨リ財産權ノ侵害ニ對スルノミナラス、安寧維持ノ目的モ存スルモノト言ハサルヘカラス、即チ刑法第百九條第二項ニ依レハ、建造物艦船等、若ハ鑛坑ヲ燒燬シタルトキハ、假令自己ノ所有ニ係ルト雖、六月以上七年以下ノ懲役ニ處セラルルモ、公共ノ危險ヲ生セサルトキハ、之ヲ罰セスト規定シアアルニ依ルモ、放火罪カ財産ニ對スルノミノ罪ニアラスシテ、公共ノ危險ニモ、關スル罪タルヤ明カナリ、而シテ本條ニ於テ刑法第百九條第二項但書ノ如キ除外規定ナキハ、森林放火罪ハ常ニ靜謐ヲ害シ公共ノ危險ヲ生スルヲ以テナリ

叙上ノ理由ニ依リ森林放火罪ヲ構成スルニハ

(一)放火スルコト

(二)目的物ハ森林ナルコト

三火ヲ放ツノ意思アルコト
ノ三個ノ要件アルモノトス

第一放火スルコト

火ヲ放ツノ何タルハ、別ニ説明ノ要ナシ、特ニ法律上手段ノ制限ナキニヨリ、松火ヲ以テスルモ、「マッチ」ヲ以テスルモ、其ノ他如何ナル方法ヲ以テスルモ等シク放火ナリ、而シテ森林ノ放火罪ハ、刑法ノ放火罪ノ如ク、放火シ且燒燬ヲ要セサルヲ以テ、燒燬ノ程度ハ之ヲ問ハサルナリ、然レトモ苟モ放火シタル上ハ、其ノ目的物ノ幾分ヲ燒燬スルニアラサレハ、已遂罪トナラサルナリ、故ニ森林放火罪ハ、目的物タル森林、即チ木竹柴草等ヲ燒キタル以上ハ、其ノ分量ノ多少ヲ問ハス、已遂罪タルヘシ、只燒燬ノ程度カ、柴草等ニ止マラス、主タル產物ノ存在ヲ亡失セシムルマテニ、燒燬シタルトキト否トニ依リ、刑罰ニ輕重アルノミ

第二放火ノ目的物ハ、森林ナルコト

是レ第二ノ要素ニシテ、放火ノ目的物ハ、必ス森林ナラサルヘカラス、故ニ森林ヲ燒燬スヘキコトカ、目的ナリトスルモ、之カ手段トシテ、家屋其ノ他ノ建造物ニ放火シタルカ如キハ、森林放火ニアラス、又自己ノ森林ニ放火シタル結果、他人ノ森

林ノ主産物ヲ燒燬シタル場合ハ、森林放火罪ニ問擬スヘキモ、森林ノ主産物以外ノ建造物等ヲ燒燬シタルトキハ、森林放火罪ト共ニ、他ノ犯罪ヲ構成スヘキモノトス

第三火ヲ放ツノ意思アルコト

是レ第三ノ要素ニシテ、火ヲ放ツト云フ意思、即チ故意アルコトヲ要スルモノナリ、故ニ其ノ意思カ單ニ直ニ消火セシムルノ意思ヲ以テ人ヲ驚怖セシメシカ爲森林ニ放火シタルモノノ如キモ、苟モ森林ニ放火スルトノ意思アリタル以上ハ、本條ノ罪ヲ構成スルモノトス

處分ニ付テハ、目的ノ如何ニ依リテ差異アリ、他人ノ森林ニ放火シタルノミニシテ、未タ主産物ヲ燒燬スルノ程度ニ至ラサルモノハ、六年以上八年以下ノ懲役ニ處シ、因テ主産物ヲ燒燬シタル者ハ、九年以上十一年以下ノ重懲役ニ處シ、自己ノ森林ニ係ルトキハ二月以上二年以下ノ懲役、又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處シ、因テ他人ノ森林、産物ヲ燒燬シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處スルモノトス

第九十條 第八十三條、第八十四條及前條第二項ノ罪ヲ犯サムトシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

本條ハ未遂犯ニ關スルコトヲ規定シタルモノトス、即チ未遂犯トハ、法律ノ之ヲ罰スルト否トニ論ナク、犯罪ノ實行ニ着手シ、之ヲ遂ケサリシトキニ成立スル處ノモノナリ、而シテ本條ノ規定スル處ハ、何レモ舊刑法ノ輕罪ニ該當スルモノナリ、舊刑法ハ此等輕罪ニ對シテ、各本條ノ規定アラサレハ之ヲ罰セス、重罪ニ限リ、何等ノ規定ヲ俟タス、未遂犯トシテ處斷スヘキモノトシタリ、即チ今ヤ舊刑法ヲ案スルニ、其ノ第一百十二條ニハ罪ヲ犯サントシテ、已ニ其ノ事ヲ行フト雖、犯人意外ノ障礙、若ハ舛錯ニ因リ、未ダ遂ケサル時ハ、已ニ遂ケタルモノノ刑ニ、一等又ハ二等ヲ減スト規定シ、以テ未遂犯處罰ノ原則ヲ明カニシ、次ニ其ノ第一百十三條ニ於テ、重罪ト否ラサルモノトノ處斷方ヲ區別セリ、即チ第一項ニハ、重罪ヲ犯サントシテ、未ダ遂ケサル者ハ、前條ノ例ニ照シテ處斷スト定メ、以テ重罪ハ各本條ニ於テ、何等規定セサルモ、必ス其ノ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ、一等又ハ二等ヲ減シ、處罰スヘキモノトシタリ、反之輕罪ニ關シテハ、其ノ第二項ニ於テ、輕罪ヲ犯サントシテ、未ダ遂ケサル者ハ、本條別ニ記載スルニ非サレハ、前條ノ例ニ照シテ、處斷スルコトヲ得スト、定メタルニ依リ、本條所載ノ如キ輕罪ハ、本條ノ規定ヲ俟テ、始メテ未遂罪トシテ處斷シ得ルモノニシテ、第八十九條第一項ノ刑罰ノ如キハ、何レモ重罪ナルヲ以テ、本法ニ於テ別ニ

規定セサルモ、未遂罪トシテ罰セラルルモノトス

而シテ現行刑法ハ、罪種ノ區別ナキノミナラス、其ノ第四十四條ニ於テ、未遂罪ヲ罰スル場合ハ、各本條ニ於テ、之ヲ定ムト規定シタルヲ以テ、舊刑法重罪ニ該當スル未遂罪ノ如キモ、罰セサルカ如クナレトモ、刑法施行法第三十二條ニ依リ、之ヲ罰スルコトハ勿論ナリ、然リ而シテ本條ハ現行刑法第四十四條ノ所謂未遂犯處罰ノ場合ノ規定ナルヲ以テ、舊刑法ノ輕罪ニ該當スルモノモ、總テ處罰スルモノトス、之カ刑期、罰金額等ハ、刑法施行法第二十條但書ニ依リ、仍ホ舊刑法總則ノ規定ニ從フヘキモノトス

第九十一條

森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ三

本條ハ森林ノ標識ヲ移轉シ、毀壞シタルモノノ刑罰ヲ規定シタルモノトス、即チ本條ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ三要素ナリトス

第一目的物ハ、森林ノ標識タルモノトス

第二移轉又ハ毀壞ノ所爲アルコトヲ要ス

第三故意アルコトヲ要ス

第一目的物ハ、森林ノ標識タルモノトス

森林ノ爲設ケタル標識トハ、其ノ森林ノ管理經營上等ノ必要ニヨリ設置シタル標識ヲ云フ、例ヘハ森林境界ノ標柱、作業區界ノ標柱、伐木造材個所ノ標柱、森林測量ノ點標及入林禁止ノ制札、保安林ノ標識等是レナリ、若シ其ノ設ケラレタル由カ、森林ノ管理經營等ノ必要ノ爲ニアラサレハ、其ノ標識カ、森林内ニ存スルモ、本條ニ該當セサルモノトス、隨テ之ヲ移轉、毀壞スルモ、他ノ法令ニヨリ罰セラルルハ格別本條ノ罪ヲ構成セサルモノトス、例ヘハ陸地測量ノ三角點標、或ハ府縣郡市町村界標、里程標柱、又ハ禁獵札等ノ如キハ、假令森林内ニ設置シアルモ、其ノ目的森林ノ爲ニ設ケタルモノニアラサレハ、之ヲ移轉若ハ毀壞スルモ、本條ノ罪ヲ構成セサルモノトス

第二移轉、汚損、若ハ毀壞ノ所爲アルヲ要ス

移轉トハ、位置ヲ變更スルコトヲ云ヒ、汚損トハ、文理ヲ解釋スレハ、汚損ノ汚ハ、文字ヲ塗抹スルカ、或ハ泥土ヲ以テ標柱ヲ汚スカ如キコトニシテ、損トハ、廣ク凡テ有形又ハ無形ノ損害ヲ物ノ實質ニ加フルコトヲ云フ、故ニ茲ニ汚損トハ、標柱ノ文字ヲ塗抹スルカ如キヲ云フ

毀壞ノ毀トハ、凡テ有形物ノ實質ヲ傷害スルコトヲ云ヒ、壞トハ、人力又ハ自然力ニ依テ、結合セラレタル物件ヲ、強テ解放スルコト、換言スレハ、物件ヲ結合シタル作用ヲ、非常手段ニ因テ、滅却スルコトヲ言フモノナルカ故ニ茲ニ毀壞トハ、標柱ヲ破壊、傷害又ハ顛倒スルコトニシテ、被害物件カ、全然其ノ用ヲ失ヒタルト否トヲ問ハサルモノトス

第三故意アルヲ要ス

故意トハ、標識タルコトヲ知り、之ヲ移轉、汚損又ハ毀壞スル意思ヲ以テ、之ヲ爲スコトヲ云フ、故ニ標識タルコトヲ知ラスシテ、之ヲ移轉、汚損又ハ毀壞スルカ如キハ、過失ニシテ故意ニアラサルヲ以テ、本罪ヲ構成セサルモノトス
處罰ニ付テハ、何レモ三十圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス、尤モ但書ノ舊刑法第四百二十條ノ規定ハ、新刑法第二百六十一條ニ相當スル規定ナルヲ以テ、刑法施行法第二十二條ニ依リ該規定ニ變更スルモノトス、故ニ新刑法第二百六十一條ニ依リ、三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處スルモ妨ケサルモノナリ、但舊刑法第四百二十條ニ於テハ、經界ヲ表示シタル物件ヲ移轉シタル者ニ對シテモ處罰スルコトヲ規定シアリタルモ、新刑法第二百六十一條ハ物ノ損壞又ハ傷害

シタル者ニ對シテノミ、處罰スル規定ニシテ、移轉ニ關シテハ、新刑法中相當スル條文ナシ、故ニ標識ヲ移轉シタル者ニ對シテハ、全然本法ニ依リ處罰スル外但書ヲ適用シ得サルモノトス

第九十二條 立木竹、木材又ハ根株ニ附シタル他人ノ記號印章ヲ變更又ハ消除シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ立木竹、木材又ハ根株ニ附シタル記號、印章ヲ變更、消除シタルモノニ對スル刑罰ヲ規定シタルモノトス、即チ本罪構成要素ハ、(一)立木竹、木材又ハ根株ニ附シタル記號、印章ヲ變更又ハ消除シタルコト、(二)其ノ記號、印章ハ他人ノ所有物件ニ施シタルモノナラサルヘカラサルコト、第一立木竹トハ、生枯ヲ區別セス、總テ根ヨリ地上ニ立存スル木竹ヲ云ヒ、木材トハ、地ヲ離レタル樹體ヲ云フモノニシテ、普通ノ場合ニハ人工ヲ加ヘテ、丸太、角材、板等ニ形體ヲ變更セル者ナリ、根株トハ、樹木ノ根部ヲ云フモノニシテ、土地ニ附著シテ殘存スルモノナリトス、論者或ハ掘採セル根株モ、根株ナリト云フモ、茲ニ所謂根株ハ、土地ニ定著シタル殘存セルモノニシテ、既ニ掘採セルモノハ、木材ノ内ニ入ルヘキモノトス、而シテ記號又ハ印章ノ何物タルカハ、第七十六條ニ於テ既ニ説明シタル如シ、叙上ノ物件ニ、記號又ハ印章ヲ附シ

タルモノヲ變更、消除スル所爲ナリ、故ニ其ノ物件ニシテ本條所定ノモノニアラス
シテ、石材其ノ他ノ器物ナランカ、假令此ニ附シタル記號、印章ヲ變更、消除スルモ、本
罪ヲ構成セス、又立木竹、木材又ハ根株ニ附シタルモノカ、單ニ數字ノ如キモノニシ
テ、記號若ハ印章ニアラサレハ亦本罪ヲ構成セサルモノトス

第二記號、印章ハ他人ノ所有物件ニ附シタルモノトス

其ノ目的物件カ、自己ノ所有ニ屬スルトキハ、素ヨリ權利行爲ニシテ犯罪ヲ構成
セス、元來記號、印章ヲ施スハ、林業家、木竹所有者等ニ於テ、其ノ品種ヲ區別シ、又ハ
所有者ノ誰ナルコトヲ表示スル等ノ必要ニ出テタルモノナリ、然ルニ是等ノ必
要アル記號、印章ヲ變更又ハ消除スルトキハ、品種ノ區別ヲ混亂シ、處理ノ方法ヲ
誤ラシムル虞アルノミナラス、賣却木ト、殘存木トノ區別ノ記號ヲ、消除スルカ如
キハ、不正手段ニヨリテ、賣却以外ノ立木又ハ木材ヲ採收スルモ、毫モ之ヲ區別ス
ルコト能ハサルニ至ラシメ、林業家又木竹所有者ノ利益ヲ損害スルコト往往ナ
リ、故ニ是等ヲ保護スル爲ニ、本條ヲ定メタルモノトス、然レトモ自己所有ノ物件
ヲ、處理上ノ都合ニ依リ、一旦施シタル記號、印章ヲ變更又ハ消除スルハ、當然ノ權
利ニシテ、本條ノ問フ處ニアラス

處分ニ付テハ二十圓以下ノ罰金ニ處スルモノトス

第九十三條

他人ノ森林内ニ工作物ヲ設ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ
處ス、他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ

前項ノ犯罪ニシテ保安林、開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ六月以下ノ重禁
罰及二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ他人ノ所有權侵害ニ對スル刑罰ヲ規定シタルモノトス、即チ森林所有者ノ
權利ヲ保護スル處ノ規定ナリ

本罪構成ノ要素

- 一、目的物ハ他人ノ森林ナルコト
- 二、工作物ヲ設ケタルカ又ハ開墾シタル行爲アルコト
- 四、故意アルコト

第一他人ノ森林ナルコト

本條ハ森林所有權ヲ保護スル處ノ規定ナルカ故ニ、自己ノ所有ニ係ル森林ハ勿
論、他人ノ森林ト雖、所有者ノ承諾ヲ得テ使用スルカ、若ハ借地スルカ又ハ地上權
設定シタル者ニ付テハ本罪ヲ構成セス

第二工作物ヲ設ケタルカ又ハ開墾シタル行爲アルコト

工作物トハ、頗ル廣キ範圍ニシテ建物ハ勿論、其ノ他假山、池、溝等ヲ包含スル者ナリ、又茲ニ所謂開墾モ、本法第三條規定ノ如ク地租條例ニ規定スルモノノミナラス燒畑、切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更スル行爲全體ヲ指稱スルモノニシテ、廣キ意義ヲ有スルモノナリ、此等ノ行爲ヲ以テ、他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ、本條ノ制裁ヲ受クヘキモノトス、故ニ假令森林所有者ノ承諾ヲ得シテ、森林ヲ使用スルモ、他ノ規定ニ依リ制裁ヲ受クルハ格別本罪ヲ構成セス

第三故意アルコト

是レ犯罪ノ通有條件ニシテ、殆ント犯罪ニ離ルヘカラサル要素ナルヲ以テ、本條ニ於テ特ニ説明ヲ要セス、此ノ要素ヲ缺如スル場合ハ、本條ニ於テモ犯罪成立セサルモノナリ、故ニ自己ノ所有地ト誤認シ、境界ヲ侵シ、建物ヲ建設スルカ、又ハ開墾スルカ如キハ本罪ヲ構成セサルモノトス

處罰ニ付テハ、普通森林ノ場合ニハ百圓以下ノ罰金ニ處シ、保安林又ハ開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ、六ヶ月以下ノ懲役ト、二百圓以下ノ罰金ヲ併科スルモノトス、即チ保安林又ハ開墾禁止ノ森林ニ關シテハ、他人ノ所有權侵害ト、公安危害トノ行爲

アルヲ以テ、普通森林ト區別ヲ爲シ輕重ノ差ヲ立テタル所以ナラム

第九十四條 他人ノ森林内ニ於テ放牧シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ他人ノ所有權侵害ニ對スル刑罰ヲ規定シタルモノトス、即チ慣習等如何ナル理由アルモ、所有者ノ承諾ヲ得シテ、他人ノ森林内ニ於テ牛馬、羊豚等ノ畜類ヲ放牧シタル者ニ、制裁ヲ加フルモノナリ、放牧トハ、牛馬等ヲ森林内ニ飼養スル目的ヲ以テ入ルルヲ云フモノナルカ故ニ、假令繩或ハ網ヲ付ケテ曳キ入ルルモノアルモ、矢張放牧ナリ、然レトモ飼養スル目的ナク、單ニ一時通過スルカ如キハ放牧ニアラス、又畜類ノ所有者ニ於テ、放牧スルノ意思ナキモ、監守ヲ怠リタル爲ニ畜類自ラ食ヲ慕フテ他人ノ森林ニ入り、下草ヲ喰ヒタルカ如キハ放牧ト云フヘカラサルナリ

故ニ本條ノ罪ヲ構成スルニハ

- (一)他人ノ森林内タルコト
- (二)畜類飼養ノ目的ヲ以テ、他人ノ森林内ニ入ルコト
- (三)故意ヲ以テ放牧シタルコト

以上三要素ナカルヘカラス若シ其ノ一ヲ缺カハ本罪ヲ構成セサルモノトス
處罰ニ付テハ五十圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス

第九十五條 第十三條ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰
金ニ處ス

本條ハ第十三條ノ作業制限ニ違反シタル者ヲ處罰スルコトヲ規定シタルモノト
ス即チ地方長官ニ於テ第十三條列記ノ作業ヲ制限又ハ禁止シ森林法施行規則第
六條ノ手續ニ依リ慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示シタル後之ニ違反シタル者ハ二
十圓以下ノ罰金ニ處スルモノトス

第九十六條 第二十條ニ違反シ又ハ第二十五條第一項ノ停止ニ違反シタ
ル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ保安林編入處分前ニ於ケル制限ニ違背シタル者ニ對スル刑罰ヲ規定シタ
ルモノトス即チ本法第十八條ニ依リ保安林ノ編入ヲナサントシテ地方長官ニ於
テ慣行ノ公布式ヲ以テ其ノ旨ヲ告示シタルトキハ第二十三條ニ依リ主務大臣又
ハ地方長官カ委任權限内ニ於テ保安林ノ編入處分ヲ爲シ之カ告示ヲ爲スニハ其
ノ森林ニ於テ本法第二十條ニ依リ一定ノ作業ヲ爲スコトヲ禁止セラレ又告示ハ

爲ササルモ保安林編入ニ關シ豫察調査ヲ爲ス場合ノ如キ必要アリト認ムルトキ
ハ其ノ森林ニ於ケル木竹ノ伐採ヲ停止スルコトアリ是等ノ制限ニ違背シタル者
ヲ處罰スルモノトス

第九十七條 第二十六條ニ違反シ又ハ第三十二條ノ制限若ハ禁止ニ違反
シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ保安林及開墾ノ制限又ハ禁止シタル森林ニ對スル制限違反ヲ處罰スル規
定ナリトス即チ何レモ國土保安ノ關係ヨリ設ケタル制度ナルモ必スシモ悉ク絶
對的ニ禁止スル者ニアラス保安林ニ於ケル作業ノ如キハ地方長官ニ於テ危害ナ
シト認メタルトキハ之カ作業ヲ許可スヘシ又開墾制限ノ箇所モ同シク許可ヲ得
ルニ於テハ何等支障ナキモノナリ然ルニ之カ許可ノ手續ヲ爲ササル場合ハ本條
ノ制裁ヲ受クヘキ者トス

第九十八條 第二十七條ノ制限禁止又ハ指定ニ違反シタル者ハ三十圓以
下ノ罰金ニ處ス

本條モ保安林ニ附シタル制限禁止又ハ指定ニ違反シタル者ニ對スル處罰ヲ規定
シタルモノトス即チ主務大臣又ハ地方長官カ委任權限内ニ於テハ保安林ノ所有

者ニ對シ、其ノ使用、收益ヲ制限若ハ禁止シ、又ハ施業若ハ保護ノ方法ヲ指定スルコトノ出來得ルハ、第二十七條ノ定ムル所ナリ、即チ本條ノ制限、禁止又ハ指定ニ違反シタル制裁ナリ、而シテ本條ノ犯罪ハ森林所有者ニ限り、成立スルモノトス、何トナレハ是等ノ制限、禁止又ハ指定ハ地方長官ヲシテ之ヲ保安林所有者ニ通達セシムルニ止マルモノナレハ、第三者ハ其ノ通達ニ拘束セラレサルヲ以テハ命令違反ノ生スル理由ナシ

第九十九條 前三條ノ場合ニ於テ木竹ヲ伐採又ハ傷害シタル者ニ對スル罰金ハ其ノ伐採又ハ傷害シタル木竹ノ價格ノ二倍ニ達セシムルコトヲ得

本條ハ前數條ノ補遺規定トモ稱スヘシ、即チ第九十六條ハ百圓以下、第九十七條ハ二百圓以下、第九十八條ハ三十圓以下ニ過キサレハ或ハ破廉耻漢ハ經濟上ノ利害ヨリ打算シ、所定ノ罰金ヲ甘ンシ、制限又ハ禁止ニ係ル森林ノ木竹ヲ多量ニ伐採スルナキヲ保シ難シ、故ニ豫メ斯ル徒輩ノ生セサルコトヲ期シ、伐採又ハ傷害シタル木竹ノ價格ノ二倍ヲ科シ得ルコトトシタルモノトス

第一百條 第七十六條第二號又ハ第三號ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ノ届出テ使用方ニ關スル命令ニ違反シタルモノニ對スル刑罰ヲ規定シタルモノトス、即チ森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ定メ、所轄警察官署ニ届出テシメ、森林產物ノ搬出前之ヲ使用セシムルコトハ、第七十六條第一號ノ規定スル所ナリ、故ニ斯ル場合ニハ、他人ノ届出テタル記號、印章ト同一、又ハ類似ノ記號若ハ印章ノ使用ヲ禁止スルコトハ、第二號ノ規定スル所ナリ、此ノ第一號又ハ第二號ニ違反シタル者ニ對シテ、森林產物ノ運搬ヲ停止スルコトヲ得ルハ、同條第三號ノ規定スル處ナリ、然ルニ單ニ命令シタルノミニシテ之カ制裁ナキニ於テハ其ノ實效ナカルヘシ、故ニ本條ノ規定ヲ俟テ第七十六條第二號及第三號ノ實效ヲ見ルヘキモノトス

第一百條 第七十七條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

本條ハ第七十七條ニ規定シタル森林官吏、警察官吏又ハ犯罪搜查ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏ノ検査ヲ行フコトヲ拒ミタルモノニ對スル刑罰ヲ規定シタルモノニシテ、之カ處分ハ、二十圓以下ノ罰金ニ處スルモノトス、然レトモ其ノ所爲ニシテ刑法ニ正條アルモノニ、該當スルトキハ、刑法ニ依リ處斷スヘキモノナリ、例ヘハ検査

ヲ行ハントスルニ當リ、其ノ公務員ニ對シ、暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ノ如キハ、三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處スルカ如キコト是レナリトス

第百二條

第七十八條又ハ第七十九條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス。因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス。他人ノ森林内ニ於テ焚火ヲ爲シタル者亦同シ

本條ハ森林火災取締ニ關スル森林警察ノ規定ニ違反シタル者ニ對スル刑罰ヲ規定シタルモノトス、即チ森林、原野、山岳又ハ荒蕪地ニ對シ、地方長官ニ於テ必要ト認メ主務大臣ノ認可ヲ得テ指定シタル土地又ハ森林ニ接近セル土地ニ、火入ヲ爲サントスルトキハ、森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ受ケサルヲ得ス、此等ノ土地ニ火入ヲ爲サントスルトキハ、豫メ防火ノ設備ヲ爲シ、且接近セル森林ノ所有者又ハ管理者ニ、其ノ旨ヲ通知スヘキ規定ナルニ、此等ノ規定ニ違反シタル者ニ對スル制裁ニシテ、之カ處分ハ五十圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス、此等違反ノ原因ニテ、他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ、二百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノナリ、又他人ノ森林内ニ何等ノ理由ナク、焚火ヲ爲シタル者ハ、一步ヲ誤ラハ亦他人ノ森林ヲ燒燬スルノ虞アルヲ以テ、同シク二百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス

第百三條

第七十六條第一號第四號若ハ第五號又ハ第八十一條第一項ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本條ハ森林警察ニ關スル地方長官ノ命令ニ違反シタル者ニ對スル制裁ヲ規定シタルモノトス、即チ第七十六條第一號ハ森林產物ニ使用スル記號及印章ヲ定メ、所轄警察官署ニ届出テシメ、森林產物ノ搬出前之ヲ使用セシムルコトニシテ、第四號ハ森林產物ニ關スル營業者ヲシテ帳簿ヲ設ケ、其ノ產物ノ出所、種類、數量及仕向先ヲ記載セシムルコトナリ、又第五號ハ森林ノ危害防止ニ關スルコトノ命令若ハ處分ナリ、又第八十一條第一項ハ森林害蟲蔓延ノ虞アル場合ニ於テ、地方長官ハ森林害蟲又ハ主務大臣ノ認可ヲ得タル微菌ノ驅除、又ハ豫防ノ爲必要ナル處置ヲ、利害關係アル森林所有者ニ命シタルトキニ違反シタルトキノ處罰ナリトス、其ノ處分ハ、拘留又ハ科料ニ處分セラルルモノトス、而シテ新刑法ニ依レハ、拘留ハ一日以上三十日未滿、科料ハ十錢以上二十圓未滿ナレトモ、本條ノ刑罰ハ刑法施行法第二十四條但書ニ依リ舊刑法總則ノ期間又ハ金額ニ依ルヘキモノトス

第百四條

第三十六條ニ依ル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス

本條ハ第七章ノ罰則ノ適用セラルル範圍ヲ規定シタルモノトス、即チ本法ハ森林

法ナルヲ以テ、之カ罰則モ純粹ノ森林ノミニ適用セララルルハ當然ノ事理ナリト雖、第三十六條ノ土地ノ如キハ、主務大臣ニ於テ必要アリト認め、保安林ニ關スル規定ヲ適用スルモノニシテ、所謂準森林ナレハ、本章ノ罰則ヲ適用スルハ是レ亦當然ナリトス

第九章 附則

本章ハ前各章ノ規定ニ於テ其ノ足ラサル處ヲ補ヒ以テ本法施行ニ關スル雜則ヲ規定シタルモノトス

第四百五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本條ハ此ノ改正法施行期ニ關スルコトヲ規定シタルモノトス、即チ施行期日ハ附屬法令ノ制定、其ノ他事務ノ關係上、法律ヲ以テ規定スルノ便ナラサルヲ以テ、之カ規定ハ勅令ニ委シタルモノナリ、而シテ明治四十年十二月勅令第三百四十六號ヲ以テ本法ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行スルコトトシタルモノトス

第四百六條 北海道、沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ付テハ本法中

保安林ニ關スル規定ニ限リ之ヲ施行ス

前項ノ外本法ノ規定ヲ施行スルノ必要アルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
前二項ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

本條ハ本法ノ施行區域ヲ定メタルモノトス、即チ北海道、沖繩縣等ニアリテハ、林業進歩ノ程度、行政機關ノ組織等、多少内地ト異ナル所アリテ、尙本法ヲ、此等ノ地方ニ施行スルノ早キヲ以テ、本法ハ此ノ地方ニ於ケル森林ニハ、施行セサルコトヲ明カニシ、同時ニ是等ノ地方ト雖、公益保護上一日モ缺クヘカラサル保安林ニ關スル規定ニ限リ、施行スヘキコトトシタリ、其ノ他本法ノ規定ヲ施行スルノ必要アルモノハ、勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘキコトヲ規定シタルモノトス、然レトモ同地方ニ於テハ保安林ニ關スル規定、其ノ他必要ナル規定ヲ施行スルモノトスルモ、人智ノ進歩程度、其ノ他行政機關ノ組織ノ異ナル等ニ依リテ、直ニ本法ニ據リ難キ點アルヲ以テ、別ニ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得ヘキコトヲ命令ニ委任シタリ、而シテ北海道ノ保安林ニ關スル特例ハ、明治四十年十二月勅令第二百四十九號ヲ以テ之ヲ定メ、沖繩縣ノ保安林ニ關スル特例ハ、明治四十年十二月勅令第三百五十號ヲ以テ之ヲ定メ、何レモ發布セラレタリシカ、沖繩縣ニ於テハ、明治四十四年二月勅令第六號ヲ以テ、森林法ノ全部施行方、發布セラレタリト雖、地方森林會ヲ置カス、之カ權限ニ

屬スル事項ヲ、沖繩縣知事ヲシテ行ハシムルカ如キ、又ハ第十八條第一項又ハ第二十三條ノ規定ニ依ル、揭示ハ、沖繩縣ニ於テハ、之ヲ區役所、町村役場ニ屬スカ如キ、特例ヲ設ケラレタリ

第七條

本法施行前森林タリシモノニシテ本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタルモノハ、地方長官ニ於テ造林ヲ命ズルコトヲ得

前項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタル者カ造林ヲ怠リタル場合ニ付テハ、第十一條ノ規定ヲ準用ス

本條ハ本法施行以前既ニ荒廢ニ屬シタル森林ノ營林監督方法ヲ規定シタルモノトス、即チ本法第十條第一項ト異ニシテ、既ニ荒廢ニ屬シタルモノニ對スル營林監督ナリ、第十條ハ荒廢ノ虞アルノミニシテ、全ク荒廢ニ歸セサルモノナリ、故ニ若シ本條ノ規定ナキトキハ、假令第十條ノ規定アルモ、本法施行以前既ニ荒廢セル森林タリシ者ニ對シテハ、營林ノ監督方法ナキニ至ルヲ以テ特ニ本條ヲ設ケタル所以ナリ、而シテ本條ニ關スル恩典ハ、其ノ納稅義務者ノ申請ニ依リ、其ノ造林シタル部分ニ限り、三十年以内租稅公課ヲ免セラルルコトハ、第十二條ノ定ムル處トス、而シテ若シ造林ノ命令ヲ受ケナカラ、造林ヲ怠リタル場合ニハ、第十一條ヲ準用シ、地方長官ニ於テ、自ラ代執行ヲ爲スカ、又ハ公共團體ヲシテ施行セシメ、其ノ費用ハ國稅

徵收法ノ例ニ依リ、之ヲ徵收スルコトヲ得ルモノナリ、然レトモ當局者ノ方針ハ、第十一條及第三十四條ト同シク、成ルヘク地上權ノ設定若ハ部分林契約ニ依ラシメ、以テ資金回收ヲ爲サシムルニアルカ如シ

第八條

舊法第三十條ニ依リ保安林ト爲シタルモノニシテ本法施行ノ際現ニ保安林タルモノハ、之ヲ保安林トス

本條ハ從來ノ禁伐林、風致林又ハ伐木停止林タリシモノハ、舊森林法施行ノ日ヨリ保安林トシテ、其ノ森林ニ對スル從來ノ制限ハ依然其ノ效力ヲ有セシメタルモノナルニ、尙本法施行ノ際、現ニ保安林タルモノハ、保安林トシテ取扱フヘキコトヲ規定シタルモノトス

禁伐林、風致林ナル名稱ハ、明治九年內務省決議、官林調査假條令ニ基キタル國土保安ニ關係ヲ有スル官林ノ名稱ニシテ、伐木停止林トハ、明治十五年二月一日太政官布達第三號ニ基キタル國土保安ニ關係ヲ有スル民有林ノ名稱ナリトス、是等列記ノ森林ハ、保安林トシテ特別ノ保護制限ヲ加フルモ、其ノ以外ノ森林ハ、名稱ノ如何ニ拘ハラズ、事實必要ノ有無ニ關セス、保安林ト認メサルモノナリ、故ニ彼ノ沖繩縣ニ於ケル風水山、風水所等ノ名稱アル森林ハ、國土保安ノ爲、伐木ヲ禁止シ又ハ停止

シ、及其ノ土石ノ採掘ヲ禁止シタル等、保安林ト同一ノ取締ヲナシタルハ、往古慶長年間ノ頃ヨリ費用シ來リタルモノニシテ、流球藩ハ勿論、舊森林法實施マテ、費用シ來リタルモノナレトモ、舊法第三十條ニ於テハ、之ヲ保安林ト認メサル者ナレハ、本條又之ヲ保安林ト認メサルモノトス

第百九條

公有林又ハ社寺有林ニ付本法施行前地方長官ノ認可ヲ受ケ又ハ地方長官ニ届出テタル施業案又ハ施業要領ハ第九條ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

本條ハ地方長官ノ命令ニ、法律上ノ效力ヲ有セシムル規定ナリトス、即チ本法施行前ト雖、地方ニ依リテハ、地方長官ハ命令ヲ發シ、公有林又ハ社寺有林ニ關シ、施業案又ハ施業要領ニ依リ、地方長官ノ認可ヲ受ケシメ又ハ届出テシメタル者アリ、是等ハ便宜本法第九條ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做シ、本法ニ依リ制裁ヲ加フルモノトス

第百十條

舊法又ハ舊法ニ基キテ發シタル命令ノ規定ニ依リテ爲シタル處分、議決、申請請求、手續其ノ他ノ行爲ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ本法ニ基キテ發スル命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

本條ハ本法施行ノ際ニ於テ舊法ニ依リ爲シタル議決等ノ手續ニ關スル效力ヲ定メタルモノニシテ、所謂新舊法過渡時代ニ於ケル手續ヲ定メタルモノトス

第百十一條

舊法ニ依リ本法施行前ニ進行ヲ始メタル期間カ本法中之ニ相當スル期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規定ニ從フ但シ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法中之ニ相當スル期間ヨリ長キトキハ本法施行ノ日ヨリ起算シテ本法ノ規定ヲ適用ス

本條ハ期間ニ關シ、新舊法ノ適用方ヲ規定シタルモノトス、即チ期間ノ長短ハ、權利ノ消長ニ影響スルコト少カラス、故ニ新舊法比照シテ、權利者カ新法以外ニ豫想シタル既得ノ權利ヲ害ササル範圍ニ適用方ヲ定メタルモノナリ、例令ハ保安林編入解除ニ異議アルトキノ意見書提出スヘキ期間ハ、新舊法何レモ告示ノ日ヨリ二十日ノ期間ナルヲ以テ、地方長官ハ四十年十二月二十六日舊法第十二條ニ依リ告示シタルモノトスルニ、直接ノ利害關係ヲ有スルモノニシテ、之ニ異議アルトキハ四十一年一月十九日マテ意見書ヲ提出シ得ヘキモノナリ、斯ル場合ハ新舊法同一期間ニ付、前條ノ規定アレハ、別ニ疑問モ惹起セサルヘシト雖、保安林ノ編入解除ノ處分ニ關シ、行政訴訟ヲ提起スル期間ハ、舊法第十八條ニ依レハ、告示ノ日ヨリ九十日以内トシ、新法第二十四條ニ依レハ、告示ノ日ヨリ六十日以内トアリテ、其ノ期間

同一ナラス、斯ノ如ク期間ニ差異アルトキハ、二箇ノ場合ヲ想像シ得ヘシ、一ハ舊法ノ期間ヲ短縮スル場合ニシテ、一ハ舊法ノ期間ヲ全然適用スヘキ場合ナリトス、則チ明治四十年十一月一日保安林編入解除處分ノ告示ヲ爲シタルモノト假定スレハ、新法施行ノ日、即チ四十一年一月一日ハ、六十二日目ナレハ、新法規定ノ出訴期間六十日ヲ經過スレトモ、斯ル場合ニハ本條ニ依リ、舊法ノ期間(九十日)ニ從フヘキモノナリ、故ニ尙爾後二十八日間、即チ四十一年一月二十九日マテハ、出訴期間アルモノトス、反之四十年十二月二十六日處分ノ告示アリタルモノヲ、新法施行ノ日ヨリ起算スルトキハ、舊法ニ依ル殘存期間ハ、尙本法規定ノ期間(六十日)ヨリ長キヲ以テ本條但書ニ依リ本法規定ヲ適用スヘキモノトス

第百十二條 舊法第二十六條ニ依ル補償ノ請求ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年ヲ經過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

本條ハ舊法ニ依リ、保安林ニ編入セラレタル爲蒙リタル損害補償請求ニ關スル確定期間ヲ規定シタルモノナリ、故ニ時效ノ中斷、停止等ノ事由ニ因リテ其ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得サルモノトス

改正森林法釋義 終

附 錄

◎森林法施行期日ノ件 勅令第三百四十六號 明治四十年十二月二十五日

森林法ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎地方森林會規則 勅令第三百四十七號 明治四十二年五月第一三七號 大正四年四月第五二號

第一條 地方森林會ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ森林法ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ審議ス

第二條 地方森林會ハ會長一人議員十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 地方森林會ノ會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ地方長官事故アルトキハ其ノ代理者之ニ代ハル

議員ハ左ニ掲クル者ニ就キ農商務大臣之ヲ命ス

- 一 府縣高等官 二人
 - 二 大林區署高等官 一人
 - 三 鑛務署高等官 一人
 - 四 內務省土木出張所高等官 一人
 - 五 府縣名譽職參事會員中ヨリ互選シタル者 二人
 - 六 森林事業ニ經驗アル者
 - 七 治水、土木、鑛山、農業又ハ水産事業ニ經驗アル者
- 前項ニ掲クル者ノ外御料地所在ノ府縣ニ在リテハ帝室林野管理局高等官ヲ議員ニ命スル

コトヲ得

第四條 會長ハ會務ヲ統理シ會ヲ代表シ會議ノ議長ト爲ル

第五條 官吏ニシテ議員タル者ノ外議員ノ任期ハ二年トス但シ府縣名譽職參事會員ノ互選ニ係ル者ノ任期ハ府縣名譽職參事會員ノ任期ニ依ル

第九條ノ二 第三條第二項第六號又ハ第七號ニ該當スル爲議員ヲ命セラレタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農商務大臣其ノ職ヲ免スルコトヲ得(明治四十二年五月十日勅令第一三七號追加)

一 禁治産又ハ準禁治産ノ宣告確定シタルトキ

二 租稅滯納處分ヲ受ケタルトキ

三 家資分散又ハ破産ノ宣告確定シタルトキ

四 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

五 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ義務ヲ怠リタルトキ

第六條 地方森林會ニ幹事一人書記若干人ヲ置ク幹事ハ府縣高等官中ヨリ書記ハ府縣判任官中ヨリ地方長官之ヲ命ス

第七條 幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ書記ハ會長又ハ幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 地方森林會ノ審議スヘキ事項ニシテ其ノ利害關係ニ府縣以上ニ涉ルモノニ付關係地方長官中必要アリト認ムル者アルトキハ關係地方森林會聯合シテ開會スヘシ其ノ開會地及開會、閉會ノ期日並其ノ召集ニ關スル事項ハ關係地方長官之ヲ協定シ審議事項ト共ニ開會前之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第九條 聯合地方森林會ハ關係地方森林會ノ議員ヲ以テ組織シ其ノ議長、幹事、書記ハ開會地ノ地方森林會ノ會長、幹事、書記ヲ以テ之ニ充テ其ノ會務規則ハ開會地地方森林會ノ規則ニ依ル

聯合地方森林會ノ決議ハ關係地方森林會ノ決議ト看做ス

第十條 議員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ事件ノ審議ニ參與スルコトヲ得ス

一 保安林ノ編入解除ニ付テハ申請者、森林法第十八條ノ通知ヲ受ケタル者及之ニ屬スル既存ノ權利ヲ承繼シタル者

二 森林法ニ依ル裁決ニ付テハ當事者、土地所有者及同法第三十八條ノ關係人議員前項各號ノ一ニ該當スル者ノ配偶者、四親等内ノ親族、戶主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ前項各號ノ一ニ該當スル市町村ノ市町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員並法人ノ役員ナルトキ亦前項ニ同シ

第十一條 森林法ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ申請シタル者アルトキハ會長之ヲ相手方ニ通知スヘシ

第十二條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ其ノ通知後二週内ニ意見書ヲ地方森林會ニ提出スルコトヲ得

第十三條 地方森林會ハ前條ノ期間經過後ニ非サレハ裁決ノ申請ニ係ル事件ヲ審議スルコトヲ得ス

第十四條 裁決ハ其ノ當事者ノ申立テタル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第十五條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付シ會長之ニ署名捺印スヘシ

第十六條 地方森林會ニ於テ裁決ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ヒ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第十條ノ規定ハ前項ノ鑑定人ニ之ヲ準用ス

第十七條 地方森林會ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當事者又ハ利害關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽キ又ハ利害關係ヲ有セサル者ヲ呼出シ事實參考ノ爲其ノ供述ヲ聽クコトヲ得

第十八條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第十九條 會長、官吏ニシテ議員タル者、幹事及書記ノ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ニ充ツ

第二十條 前條ノ費用ヲ除クノ外鑑定人、事實參考人及議員ノ旅費、手當其ノ他地方森林會ノ費用ハ府縣ノ負擔トス但シ聯合地方森林會ニ付テハ議員ノ旅費手當ヲ除クノ外開會地府縣ノ負擔トス

第二十一條 地方森林會ニ於テ裁決ニ關シ要スル費用中左ニ掲クルモノハ府縣ニ於テ起業者ヨリ之ヲ徵收ス

一 鑑定人及事實參考人ノ旅費及手當

二 裁決書謄本ノ調製費

三 郵便及電信料

四 備人料

五 其ノ他農商務大臣ノ指定シタルモノ

第二十二條 前條ノ規定ハ第二十三條ノ規定ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ地方森林會ニ要スル費用ニ付テハ適用セス

第二十三條 地方森林會カ其ノ權限ヲ超エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル決議及裁決ハ農商務大臣之ヲ取消スコトヲ得

第二十四條 地方森林會ハ會務處理ノ爲必要ナル規則ヲ議定シ農商務大臣ニ報告スヘシ

前項ノ規則ニ對シ農商務大臣ハ更正ヲ命スルコトヲ得

第二十五條 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ四十圓以下ノ罰金又ハ二圓以上ノ科料ニ處ス

第二十六條 鑑定人トシテ地方森林會ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ詐僞ノ鑑定ヲ爲サシメタル者亦同シ

第二十七條 鑑定人又ハ事實參考人故ナク出頭セサルトキハ二圓以上ノ科料ニ處ス

附 則

本令ハ森林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ地方森林會議員タル者ハ本令ニ依リ各其ノ職ヲ命セラレタルモノト看做ス但シ其ノ任期ハ前後通算ス

◎森林組合令

勅令第三百四十八號
明治四十年十二月二十五日

第一條 本令ニ於テ組合ト稱スルハ森林法第五章ニ依リ設立スル森林組合ヲ謂フ

第二條 組合ハ其ノ名稱中ニ森林組合ナル文字ヲ用ウヘシ

第三條 組合ノ住所ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第四條 組合ノ定款ニハ森林法及本令ニ規定アルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 役員ニ關スル規定

二 會議ニ關スル規定

附 錄

- 三 組合員ノ議決權ニ關スル規定
- 四 財産ノ管理又ハ處分ノ方法ヲ定メタルトキハ其ノ方法
- 五 組合員ノ義務ニ違反セル場合ニ於ケル違約金ニ關スル規定ヲ定メタルトキハ其ノ規定
- 六 森林ノ主伐收益ヲ爲ス組合ニ在リテハ立竹木ノ權利及產物ノ處分並收益分配ニ關スル規定
- 第五條 定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依ルヘシ
前項ノ總會ニハ總組合員ノ三分ノ二以上ニシテ總議決權ノ三分ノ二以上ニ當ル組合員ノ出席アルコトヲ要ス
- 第六條 組合設立ノ登記ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ
登記スヘキ事項左ノ如シ
 - 一 森林法第六十八條第一項ニ掲タル事項
 - 二 設立許可ノ年月日
 - 三 理事及監事ノ氏名、住所
 前項ニ掲タル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
- 第七條 民法第四十五條第三項及第四十八條ノ規定ハ之ヲ組合ニ準用ス但シ同規定中一週間ノ期間ハ之ヲ二週間トス
- 第八條 前二條ニ依リ登記スヘキ事項ニシテ官廳ノ許可又ハ認可ヲ要スルモノニ付テハ其

- ノ許可書又ハ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス
- 第九條 森林法又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ組合員タル森林所有者ニ於テ又ハ之ニ對シテ爲スヘキ手續其ノ他ノ行爲ニシテ其ノ組合ノ事業ニ關スルモノニ付テハ其ノ組合ハ組合員ヲ代表ス
- 第十條 森林所有者ノ承繼人ハ其ノ承繼シタル權利ノ限度ニ於テ被承繼人カ組合員トシテ有スル權利義務ヲ承繼ス
前項ノ規定ハ新ニ森林法第二條ニ依リ森林所有者ト爲リタル者又ハ其ノ權利消滅ニ因リテ森林所有者タルモノニ之ヲ準用ス
前二項ノ場合ニ於テハ組合ニ通知ヲ爲スニ非サレハ權利義務ノ承繼ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス
- 第一項及第二項ノ規定ニ依リ利益ヲ受ケタル者ハ損失ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ利益ノ限度ニ於テ之ヲ補償スヘシ
- 第十一條 組合員ニ於テ地區内ノ森林ヲ森林以外ノ土地ト爲シタルトキ又ハ地區内ニ於ケル森林以外ノ土地ヲ新ニ森林ト爲シタルトキハ組合ニ之ヲ通知スヘシ
- 第十二條 組合員カ地區内ノ森林ヲ森林以外ノ土地ト爲シタルトキニ於テ組合ト該組合員トノ間ノ計算ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム
地區ヲ減少セル場合ニ於テ其ノ減少セル區域内ノ森林ノ屬スル組合員ト組合トノ間ノ計算ニ付テモ亦前項ニ同シ
- 第十三條 組合ハ定款及總會ノ決議録ヲ各事務所ニ備置クヘシ
組合ハ組合員名簿、財産目錄、事業報告書及決算書ヲ主タル事務所ニ備置クヘシ